

2019 年度名古屋大学大学院文学研究科
学位（課程博士）申請論文

現代日本語における否定条件形式の多機能性

名古屋大学大学院文学研究科
人文学専攻日本文化学専門

諸葛 玟

2019 年 9 月

凡 例

- 一、章・節・項などは、原則としてアラビア数字のみで示す。「1.1.1」は「第1章1節1項」を示す。文中では数値と紛れないよう「第1章」などを示すこともある。
- 一、各章の用例検索ツールは、本研究の末尾の「データベース検索ツール」で示す。
- 一、注は、原則として各章ごとに脚注で示す。
- 一、本論の各章の参考文献は、本研究の末尾の「参考文献」でまとめ示す。
- 一、文中で用いる研究対象の言語形式はカタカナ表記とした。
- 一、用例番号、表番号は章ごとに付す。

目 次

凡 例

序 論

否定条件形式の非条件的用法を探るにあたって

1 本研究の課題 1
2 研究対象および統語的観察の有効性 3
3 本論の内容 4

本 論

第 1 章 ナケレバ節をとる複文の意味機能と構文的特徴

—バ節との比較を中心に—

1 はじめに 6
2 条件形としてのナケレバ節の問題所在 7
3 調査概要 8
4 主節からみるバ節 11
4.1 主節の「形」と「望ましさ」 11
4.2 「否定的評価」を伴うナケレバ節 15
5 上接語の特徴から見るバ節 17
6 ナケレバ節の「義務」機能の確立条件と固定化 24
7 おわりに 27

第 2 章 否定条件構文における「デナケレバ」の多様性

1 はじめに 29
2 先行研究と本章の目的 30
3 調査概要 31
4 構文分析 32

4.1 一般的否定条件構文34
4.1.1 「デナケレバ+望ましくないことがら」タイプ36
4.1.2 「デナケレバ+望ましいことがら」タイプ39
4.2 定型的慣用表現構文39
4.3 評価的述語後続構文41
4.4 主節省略構文44
4.5 上接語省略構文45
4.6 4節のまとめ48
5 おわりに—「デナケレバ」の位置づけについて—50

第3章 上接語からみる「デアレバ」の多機能性 —「デアル」との関連性を中心に—

1 はじめに52
2 近世・近代における「デアル」53
2.1 近世以前に見られる「デアル」の上接語54
2.2 近代に入ってから見られる「デアル」の上接語55
3 近・現代における「デアレバ」58
3.1 調査対象58
3.2 近・現代における「デアレバ」の上接語の変化59
4 「ノデアレバ」による「バ」節の領域拡張64
5 「デアレバ」形式の多機能性66
6 おわりに68

第4章 現代日本語における「ナキャ」の多機能性について —「ナケレバ」との比較を中心に—

1 はじめに70
2 条件句における統語的観点の必要性71
3 調査概要72
4 調査結果の分析 —「ナケレバ」との比較を中心に—72
4.1 条件的用法 —主節の「形」と「望ましさ」—74

4.2 非条件的用法（１）「評価的用法」	……76
4.3 非条件的用法（２）「終助詞的用法」	……80
4.4 非条件的用法（３）「接続詞的用法」	……81
4.5 4節のまとめ	……84
5 おわりに	……84

第5章 否定条件形式「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」

—その縮約形との比較を中心に—

1 はじめに	……87
2 否定条件形式の意味機能の様相：本節第4章より	……88
3 調査概要	……89
4 調査結果の分析 —条件文の分類—	……90
4.1 条件的用法 —主節の「形」と「望ましさ」—	……93
4.2 非条件的用法（１）並列・列挙	……99
4.3 非条件的用法（２）「評価的用法」	……100
4.4 非条件的用法（３）「終助詞的用法」	……104
4.5 非条件的用法（４）「接続詞的用法」	……108
4.6 4節のまとめ	……112
5 おわりに	……113

結論

本研究のまとめと課題	……115
1 本研究のまとめ	……115
2 今後の課題	……117

参考文献

データベース検索ツール

初出一覧

序論

否定条件形式の非条件的用法を探るにあたって

1 本研究の課題

接続助詞「バ」は条件句を構成し、節と節をつなげる役割を果たすのが本来の文法的機能である。しかし、常に条件句を構成する語として働くわけではない。例えば、以下のような用例が見られる。

- (1) 事実を明らかにするのは大事なんですけども、事実は無数にあるわけですから、どの事実をどのようにつかみ出すかという枠組み、価値観がなければね、事実調査はできないんですよ。

(『日本はなぜ負ける戦争をしたのか。』 2001)

- (2) どこからかカネが入ってきているのである。でなければ、こんな厳しい経済状態で、そんなことができるわけがない。

(『それでも議員ですか』 2001)

- (3) 「そう、恐ろしいことだ。であればこそ、朕は遷都を決意したのだ。」

(『陰陽魔界伝』 2001)

(1)「ナケレバ。」は、「ナケレバ」の後件省略形であり、主に文末で用いられる。固定化した形として、「義務」機能に特化している機能語とみなす。また(2)「。デナケレバ」(3)「。デアレバ(コソ)」は、主に文頭で働き、上接語を伴わず、自立性を持つ形として、接続語的な役割を果たす。このような「ナケレバ。」「デナケレバ」「。デアレバ」は、いずれも接続助詞「バ」の本来の機能を離れ、文法的意味が希薄化している。(1)は「接続助詞」用法から「終助詞」用法への変化である。付属的機能語から新しい付属的機能語への変化、すなわち多機能化の一類である。また、(2)(3)接続助詞「バ」は「。デナケレバ」「。デアレバ」のような形で一語化し、「接続詞的用法」を獲得する。このことは、付

属的機能語から自立的機能語へという多機能化¹の一類である。接続助詞「バ」という機能語が「。デナケレバ」「。デアレバ」のような接続詞へその機能を拡張してきたといえる。本研究は、現代日本語という共時態で、多機能化の一類である否定条件形式を主な研究対象とし、その様相や確立条件を追究することを究極的な目的とする。

Briton and Traugott (2005)によると、「文法化」は、話者がある文脈で、ある構造の一部を文法機能をもって使うようになる変化である。その文法項目はさらに新たな文法機能を獲得し、語基範疇を拡張することによって、より文法的になるとされている。この「文法化」の典型とされるのが、上接語が機能語になる変化、すなわち「機能語化」である。これに関連して言及されるのが「一方向性」仮説である。小柳 (2014) では、「一方向性」について、形式の一方向性と意味の一方向性に分けている。

【形式の一方向性】

自立的な形式から、より付属的な形式へ変化する。

【意味の一方向性】

内容的・素材的な意味から、より機能的な意味へ変化する。

上述を踏まえると、(2)(3)のような付属的機能語が自立的機能語になる多機能化は「形式の一方向性」に逆行する例として見られる。このように、日本語における「文法化」「機能語化」を考える際には、「上接語」「機能語」の連続性のみならず、「機能語」の下位分類である「自立的機能語」「付属的機能語」の連続性についても検討する必要がある。大堀 (2005) では、機能語が拡張的に新しい機能を持つようになる変化を多機能化といい、「文法化」の一種であるとしている。機能語化と多機能化はともに、新しい機能語を生産する変化である。

「文法化」に関する研究において、「変化」の過程を記述するには、通時的な

¹ 小柳 (2015a) では、「付属的機能語から自立的機能語へという変化は接続詞の生産にほぼ限られ、そのほとんどが 18 世紀以降見られる比較的新しい類型であると記述している。

観点による観察・検証が必然的に求められるだろう。しかし、現代日本語における「文法化」についての研究も行われている。三宅（2005）は、現代日本語において、「文法化」の例と思われる現象を網羅的に示し、「文法化」研究の方向性を示唆している。さらに、現代日本語における「文法化」の諸相について、「上接語」と「機能語」の間のカテゴリの連続性に着目する。そして、「文法化」の認定のためには、意味的・統語的な側面の両方をふまえ、その指標となるような認定基準を複数、設定する必要があると述べている。現代語においてバの構成する条件句も、多くの機能を持つ。三宅（2005）の指摘に即して、現代日本語という共時態でバに関して「多機能化」の概念を投入することも、文法化の研究として意義があり有効であると考ええる。本研究では、ナケレバをはじめとした否定条件形式について、現代日本語という共時態で「多機能化」の一事例として考察していく。

2 研究対象および統語的観察の有効性

条件文は、後件（主節）で表される事態の成立が前件（条件節）で表される事態の成立に依存し、かつ、前件が非現実の事態を表すとされる（益岡 1993）。未実現の事態間の因果関係を表す「仮定条件」は、条件文の最も典型的・中心的な用法であるとされる。その中で、順接条件をなす接続助詞として広く扱われるのが「バ」である。

条件表現「バ」の否定形「ナケレバ」は、主として、動詞の否定形や「無理だ」「むずかしい」などの否定の表現を後件に伴い、あることがらが成立しない場合には、別のことがらも成立しないという意味を表す（グループ・ジャマシイ 1998）。「ナケレバ」は、現代日本語の代表的な義務表現である「ナケレバナライ」「ナケレバイケナイ」という句を構成する。また、上掲の例文(1)のように後項部を伴わず、前項部単独で述語になる場合もあれば、例文(2)(3)のように上接語を伴わず、文頭で単独形式として現れる場合もある。

以上より、否定条件句「ナケレバ」の用法については、文中位置（文頭か、文中か、文末か）によって意味用法が分化していると考ええる。このような統語的観点から条件句を包括的に言及しているものとして、国立国語研究所（1964）

がある。国立国語研究所（1964）では、条件句一般の基本的用法として、陳述的用法（すればいい）、前置き（といえど）、客観的用法（条件と呼ぶのが最もふさわしい、きっかけ、因果関係、前提など）と大きく3つに分類する。先に見た(1)は、客観的条件に相当する基本的用法となる。

また、前田（2009）は、国立国語研究所（1964）を踏まえ、「レアリティ」という観点から条件文の用法を「仮定的用法」「非仮定的用法」「非条件的用法」の3つに大別している。特に、仮定性も因果関係も持たない「非条件的用法」は、ほとんどが固定的なイディオマティックであって、「条件」とは別個の表現として捉えるのが適切だと述べる。「非条件的用法」には、「並立・列挙」「評価的用法」「終助詞的用法」「後置的用法」「接続詞的用法」があると指摘している。

条件句一般の広がりを考える上で、上述のように統語的な観点からの観察は必要である。さらに、(1)～(3)のような「条件的用法」とは離れている「非条件的用法」を観察するには有効な分類方法であると判断する。本研究では、否定条件形式の中でも、「ナケレバナラナイ/ナケレバイケナイ」「ナクテハナラナイ/ナクテハイケナイ」「ナイトナラナイ/ナイトイケナイ」といった「義務」機能を表す典型的な慣用表現を構成する否定条件句「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」の3者を研究対象とする。また、3形式の比較を行う上で、「ナキャ」「ナクチャ」といった縮約形との関わりも明確にしていく。

3 本論の内容

具体的には、本論で以下のように議論をすすめていく。

第1章「ナケレバ節をとる複文の意味機能と構文的特徴—「バ節」との比較を中心に—」では、ナケレバ節が「仮定条件」を表すと同時に、「義務」機能を担うのに必要な条件についての考察を試みる。ナケレバ節をとる複文の意味機能と構文的特徴について考察するに当たって、バ・ナケレバ節をとる複文の主節を「形」と「望ましき」の2つの観点から検討する。また、従属節におけるバ・ナケレバの上接語を観察し、ナケレバ節および「ナケレバナラナイ」類、文末のナキャへ視野を広げ、ナケレバ節が「義務」機能を表すための確立条件の偏りを記述する。

第2章「否定条件構文における「デナケレバ」の多様性」では、否定条件形式の中でも上接語の品詞の制約がかかってくる「デナケレバ」を調査対象とし、その構文分析を行う。現代日本語における「デナケレバ」構文の多様性と独自性を考察する。

第3章「上接語からみる「デアレバ」の多機能性」では、第2章の「デナケレバ」の肯定形「デアレバ」を研究対象とする。「デアレバ」の上接語に注目し、記述することを目指す。また、現代日本語における「デアレバ」が条件表現としてどのように位置づけられるのかを考える。そのために、「デアレバ」の原型「デアル」について検討し、現代語における「デアレバ」の分布状況の整理を行う。

第4章「現代日本語における「ナキャ」の多機能性について―「ナケレバ」との比較を中心に―」では、「ナキャ」の用法を文中の位置や上接要素に着目して統語的に検討する。また、「ナケレバ」との比較を通じて、現代日本語における「ナキャ」の用法をまとめる。これにより、「ナキャ」に独自の用法と制約があるという「ナケレバ」との相違点があることを示す。

第5章「否定条件形式「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」―その縮約形との比較を中心に―」では、「ナケレバ（ナキャ）」「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」の用法を文中の位置や上接要素に着目して統語的に検討し、基本形と縮約形との比較を試みる。これにより、現代日本語における否定条件形式「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」の用法と相違、対立的関係をまとめる

最後に、本研究の成果と今後の課題についてまとめて結論とする。

第 1 章

ナケレバ節をとる複文の意味機能と構文的特徴 —バ節との比較を中心に—

1 はじめに

バ条件文に関して、これまでの研究では、前件で表される未来の事態、まだ生起していない未実現の事態と、後件で表される事態との因果関係を表す仮定的用法を持つとされてきた（益岡 1993；前田 2009）。これは条件文のもっとも典型的・中心的な用法といえる。前件と後件の因果関係は偶然的ではなく、必然的であるとされる（田中 2006）。また、バ条件文には主に、「仮説条件」「反事実的条件」「一般条件」「反復条件」「事実条件」といった用法があるとされる（日本語記述文法研究会 2008）。

このようなバ条件文に関する研究は、バ条件形の肯定形（以下バ節とする）を中心としたものである。一方、バ条件形の否定形（以下、ナケレバ節とする）には、以下のような特徴的な仮定条件を表す場合がある。下線は筆者により、以下、すべての用例について同じである。

- (1) アジア戦略という意味では、地元レコード会社「センテニアルレコード」（中央区）社長、本上陽（二十七）は明確だ。「アジアに目を向けなければ、福岡に本社を置く意味がない」。アーティスト発掘、売り込みの拠点として年内に中国・上海にライブハウスを開設する。

（「西日本新聞」 2004）

- (2) 客先はというと、「ウチではそんなの常識だから、そちらで調べてください。ただし、検査は通ってもらわなければ、困りますから」と素っ気ない。

（『SE として生き抜くワザ』 2004）

(1)(2)のように、ナケレバ節の文末に、「意味がない」「困る」などの否定的評価の表現を伴うとき、「あることがらが成立しない場合には、別のことがらも成立しない」という意味を表す（グループ・ジャマシイ 2002）。

藤井（2008）では、このような場合を「義務的当為機能」とし、発話で言及される事態を背景知識に照らし合わせて主観的に評価することにより、語用論的「会話含意」として「義務」機能が生じると述べられている。

このように、ナケレバ節が「仮定条件」を表すのと同時に、「義務」機能を担うのはなぜだろうか。本節では、この点に着目し、ナケレバ節をとる複文の意味機能と構文的特徴について考える。2 節で、先行研究をふまえ、3 節で、用例調査の概要を述べる。4 節では、バ・ナケレバ節をとる複文の主節を「形」と「望ましさ」の 2 つの観点から考察し、ナケレバ節の場合、主節のことがら全体が否定的なものとなっている傾向を確認する。そのうえで、特に、話し手の「否定的評価」を伴う場合に注目して、この場合に「義務」機能が成り立つことを確認する。次に 5 節では、従属節におけるバ・ナケレバの上接語の特徴を観察し、最後の 6 節では、ナケレバ節および「ナケレバナラナイ」類²、文末のナキャへ視野を広げ、ナケレバ節が表す「義務」機能の確立条件の偏りについて記述する。

2 条件形としてのナケレバ節の問題所在

ナケレバ節に関して言及しているものとしては、藤井（2008）が挙げられる。藤井（2008）は、話しことばの談話データを用い、「～ナイト」「～ナキャ」「～ナクチャ」の構文タイプを分析し、構文タイプの異なる条件構文がある一貫した「義務」機能を表出することを示した。しかし、スキーマ化という認識概念による「義務」機能の表出に関する記述にとどまり、「～ナイト」「～ナキャ」「～ナクチャ」の各形式の構文的特徴とその違いに関しては未だ明確になって

² 本節の調査で、収集した用例の中で、「なければならない」「ねばならない」「ねばならぬ」「ナケレバイケナイ」といった形式をまとめ、「ナケレバナラナイ」類とする。

いない。

また、条件節が否定形である場合の従属複文を分析したものとしては、宮部（2014）が挙げられるが、これはシナイト節を中心としている。ト条件文の条件形が、肯定形か否定形かによって担う機能が異なっていることを指摘し、従属節のことがらも主節のことがらも「望ましくないもの」をさしだすとき、「注意喚起」のような発話における意味が現れるとしている。

このような意味機能について宮部（2014）は、望ましき³（特に、望ましくないもの）を表しうる形式として、タラ条件節やバ条件節の否定形ではなく、シナイト節に求めているという仮説を立てている。宮部（2014）の指摘のように、ト条件文の場合は、条件形の肯否によって完全に機能が異なる。それに対し、バ条件形は肯定形、否定形のいずれも「假定条件」を表すことは確かである。しかし、(1)(2)のように、ナケレバ節の場合も、シナイト節が表す「注意喚起⁴」のような意味機能を示すことができると考える。とすると、「義務」機能を担う度合いの差はあるかもしれないが、ナケレバ節もシナイト節と同様の条件で用例を観察することで、「義務」機能を表すと指摘できる可能性がある。本節では、以上をふまえ、バ条件文の条件形の肯否によって、どのような構文的特徴があるのかを記述し、ナケレバ節が表す「義務」機能の確立条件について考察する。

3 調査概要

本調査では、国立国語研究所（2017）「現代日本語書き言葉均衡コーパス（通

³ 宮部（2014）では、「望ましき」について、これからのことがらが「実現・実行すべきではない/実現・実行すべきである」というような発話意図を生じさせる要因になることとされている。

⁴ 宮部（2014）では、シナイト節をとる複文の主節の事態が話し手の否定的な感情や評価を表す場合を「警告」「脅迫」の延長線上にある意味として、「注意喚起」とし、藤井（2008）での「義務」とは区別している。本節では、藤井（2008）に従い、「義務」機能と統一する。

常版)」（BCCWJ-NT1.1）を用い、「コーパス検索アプリケーション『中納言』（2.4）」から用例を収集した。検索キーは、語彙素読み「バ」、前方共起条件として書字形出現形を「仮定形」とし、検索対象は、コアデータで検索した。その結果、1945 件が見つかった。その中で対象外と判断したものを以下に示す。括弧内の数字は用例数を示す。

- 未分類(1⁵)
- バ条件形の範囲外：「ならば」(62)
- 慣用的な表現：「～ば～ほど」(21)、「～によれば」(29)、「～も～ば～も」(8)
- 接続詞的な表現：「そういえば」(33)、「そうすれば」(11)、「そうであれば」(4)、「そうしなければ」(2)、「そうでなければ」(3)、「だとすれば」(2)、「言い換えれば」(4)
- その他：「～いえば」類(130⁶)、「～すれば」類(30⁷)、「。(今)思えば～」(6)、「。となれば」(3)、「。とすれば」(2)、「。ともすれば」(2)、「。聞けば～という」(2)、「。思い返せば」(1)、「。ふりかえれば」(1)

以上 357 件を除き、計 1588 件が得られた。1588 件のうち、バ節が 1173 件、ナケレバ節が 415 件で、バ節のほうが圧倒的に多くみられる⁸。

⁵ 未分類 1 件は、脱字が疑われる例である。

⁶ 「～（く）いえば/といえば/でいえば/かといえば/からいえば/はといえば/あえていえば/さらにいえば/はっきりいえば/加えていえば/極端にいえば/逆にいえば/正確にいえば」のような用例は、「仮定条件」を表しているとは考えにくいと判断し、対象外とした。

⁷ 「どうすれば/どのようにすれば～いいのか/いいのでしょうか」といったバ節と主節のむすびつきが固い場合を「すれば」類とし、対象外とした。

⁸ 本調査では、ジャンルごとの偏りについて踏み込まないが、用例数の分布を概観した結果を以下の表にまとめる。数字は件数であり、括弧内はパーセンテージを示す。

バ条件文は、前件と後件の因果関係が表されている。宮部（2014）では、従属節にあることがらを条件としてさしだし、主節にはその条件によって成立することがらをさしだしている。なお、従属節のことがらを **p**、主節のことがらを **q** としたとき、それは「**p** のことがらの成立によって、どのようなことがら **q** が成立するのかという話し手の推論を述べる」ということができると述べている。このような観点から、主節の述語やことがらに関して、述語が否定形である用例や意味的に否定的である用例、および主節のことがら全体で否定的なものとなっている用例を分析している。

しかし、この「否定的」ということには、その分類が難しいものが多い。宮部（2014）においても、その問題点を意識しながら分析を行い、主節のことがらが「望ましくないもの」とみなしうるものは、「否定的」なものに分類している。「望ましさ」という観点は、ことがらに対する話し手の評価的なとらえかたを把握するためには重要であるが、このような意味的な側面の観察だけで、条件節のふるまいを説明しきれぬのだろうか。次節では、先行研究からの「望ましさ」という観点⁹も取り入れていくが、主節の述語を形式的に分析することも考慮して、バ節とナケレバ節はどのような構文的な特徴を持つのかを考える。

表 バ節とナケレバ節のジャンルごとの様相

	書籍	新聞	雑誌	ブログ	白書	知恵袋	合計
バ節	307 (26.1)	240 (20.4)	258 (22)	103 (8.9)	37 (3.2)	228 (19.4)	1173 (100)
ナケレバ節	176 (42.4)	88 (21.2)	65 (15.6)	31 (7.5)	30 (7.2)	25 (6.1)	415 (100)

⁹ 宮部（2014）は、「望ましさをさしだす」点で、シナイト節の複文は、バ・タラ節の表す推論とは異なるとしているが、本節では、その違いについては扱わない。

4 主節からみるバ節

本節では、バ・ナケレバ節をとる複文の主節を「形」と「望ましさ」の二つの観点から考察し、ナケレバ節の場合、主節のことがら全体が否定的なものとなっている傾向を確認する。

4.1 主節の「形」と「望ましさ」

本調査では、バ・ナケレバ節をとる複文の主節を「望ましさ」という意味的な観点で考察を進めると同時に、形式的に分析することも加えていく。まず、バ・ナケレバ節の主節の述語を分類し、以下の表 1 に示す。数字は件数であり、括弧内はパーセンテージを示す。表 2 以降について同様である。

表 1 から、バ節、ナケレバ節の主節は、いずれも動詞述語が顕著であり、バ節は、ナケレバ節に比べ、名詞述語と形容詞述語の割合がやや高いことがわかる。

【動詞述語】

- (3) 職員自身の満足度高い職員 1 人 1 人の行動が、病院サービスにつながる。自分の努力が評価されれば、いい意味での緊張感も生まれる。

(『サンデー毎日』 2001)

- (4) いわば「水戸黄門」のごとき安心感も人気の秘密だろう。だからアイデアが決まれば、キャラクターが勝手に動いて物語を作ってくれます。きっちりした原作があつてこそです。

(「毎日新聞」 2005)

- (5) リリースでいくにしろ先発でいくにしろ、1 軍の戦力として計算できるようになれば、投手陣全体にとって大きなプラスになるでしょうね。

(「Yahoo!ブログ」 2008)

【名詞述語】

- (6) お客様に顔を向けて、感謝の気持ちを笑顔と挨拶で表わすことができれば、無事終了です。

(『「この人から買いたい」と思わせるプロの接客!』 2002)

- (7) 竹森公彦商工観光課長は「車が駐車しにくい地元の商店街の振興につながれば、一石二鳥だ」という。新潟県新津市でも地元商店街が、百台を月決めや1日二百円で貸している。

(「朝日新聞」 2003)

- (8) これは「円高」ですか? 「円安」ですか?? かわせ相場は外国と貿易しているために変動します。僕が生まれる前にあったバブル期と比べれば、すごく円安です。

(「Yahoo!知恵袋」 2005)

【形容詞述語】

- (9) ごく小さな出来事にも感謝し、幸せを感じられます。人から見れば、地味で平凡かもしれませんが、自分では意外な満足感を味わえるでしょう。

(『H a n a k o』 2003)

- (10) 男性が外で働いて収入を得、女性が家事と育児に専念するという伝統的な結婚観を反映しているものと考えられるが、これらの回答は、「精神的なやすらぎ」に比べれば、はるかに低い。

(「国民生活白書」 2003)

- (11) a u のアプリで「国語辞典」などをダウンロードする事は可能なのでしょうか?? できれば、無料がいいのですが…。「旺文社携帯電子辞書」というのがあります。パケ代はかかりますが、アプリ自体は無料です。

(「Yahoo!知恵袋」 2005)

表 1 主節の述語の様相

	名詞	形容詞 ¹⁰	動詞	省略 ¹¹	その他 ¹²	合計
バ節	144 (12.3)	268 (22.8)	727 (62)	33 (2.8)	1 (0.1)	1173 (100)
ナケレバ節	15 (3.6)	23 (5.5)	360 (86.8)	17 (4.1)	0	415 (100)

一方、ナケレバ節では、名詞述語、形容詞述語の場合が少なく、動詞述語の場合が多かった。

- (12) ただ、買い取った株が値下がりし、機構に損失が出た場合、銀行の拋出金で賄えなければ、最後は税金で穴埋めする。そうすると、公的資金投入で銀行に集中した国民の非難が再燃しかねない。

(「産経新聞」2001)

¹⁰ 本節では、イ形容詞とナ形容詞をまとめて形容詞とする。

¹¹ 省略は、条件節のみを提示し、その帰結が何も語られていないものである。例えば以下のような場合である。

- 1) 社会人向けの教室も広がり、愛好者は全国で約五万人という。松岡町は「会社と一緒に『ハーブの町』として全国にアピールできれば」と期待を寄せている。

(「産経新聞」2003)

- 2) デジタル放送の話は、いつの間にか「だから受信料をしっかりと集めなければ」という主張にすりかわっていく。

(『週刊現代』2004)

¹² バ節の主節に副詞の「どうぞ」が独立的に表れるものが1件見られ、「その他」に分類する。この用例は、主節の形は「肯定形」、望ましさは「+」と判断した。用例は以下の通りである。

- 3) もちろん料理に使うのですが、たまねぎで作り置きしておくで保存できて便利なものがあったら教えて下さい。参考になれば、,,,,、どうぞ!

(「Yahoo!知恵袋」2005)

- (13) 砂糖は溶けて、デンプンが溶けないことや中学生でも誤りやすい水溶液では底の濃度が高い等の説明は、もはや粒子論を導入しなければ、子どもを納得させることはできない。

(『子どもの感性がつくる理科授業』2003)

- (14) イラクへの国連調査団を率いたブラヒミ事務総長特別顧問に対して、米国が事前に「六月末までの主権移譲という日程さえ動かさなければ、あとはいくらでも柔軟に対応する」と伝えていたとの情報が流れたのだ。

(「読売新聞」2004)

- (15) 税逃れは、そのまま社会保険料や保育料の負担減となるし、児童手当などの給付に持つながら、負担と給付の両面で恩恵を受けます。制度のこうした欠陥を正さなければ、国民負担増に納得しません。

(「中日新聞」2004)

特に、(13)(15)のように、ナケレバ節は、その主節の述語が否定形である場合が多く、主節のことがら全体で否定的なものとなっているのが特徴的である。では、このような特徴が見られるナケレバ節に対し、バ節の場合は主節とどのような関係で結び付けられているのか。バ節とナケレバ節の主節に関する分析¹³を以下の表2にまとめる。

¹³ 本調査では、主節の分析において、まず、主節の形自体が肯定形か否定形かを分類する。一方で、主節の述語が否定形であっても、主節全体が否定的なことがらを表さない場合もあり、逆に、主節の述語が肯定形であっても、主節全体が否定的な意味を表す場合もある。「望ましさ」の観点から分類するときには、前者を「+」とし、後者を「-」とする。例えば、以下のようである。

- 4) 進化していけば、今季中盤にはほかのチームに負けないはず

(「西日本新聞」2005)

→「主節の肯否」は「否定形」、「望ましさ」は「+」

- 5) 男性の収入がかなり高くなければ、生活水準は低下する。

表 2 から、バ節の主節は、主に、肯定形をとり、「バ＋望ましいことがら」となる事態間の関係を表していることがわかる。それに対して、ナケレバ節の主節は、「ナケレバナラナイ」類を除けば、形式的に肯定形と否定形の割合があまり変わらない。なお、「望ましさ」の観点からでは、「ナケレバ＋望ましくないことがら」という意味を表しているものが 8 割以上を占めている。ナケレバ節の否定形 310 件(78%)の中には、慣用的な表現である「ナケレバナラナイ」類が 230 件(58%)あるが、「ナケレバナラナイ」類を除いても、「ナケレバ＋望ましくないことがら」という類型が 115 件(68%)で、結果的には変わらない。

表 2 主節の述語の形と望ましさ¹⁴

	主節の肯否		主節の望ましさ		合計
	肯定形	否定形	＋	－	
バ節	1016 (89 ¹⁵)	124 (11)	990 (87)	150 (13)	1140 (100)
ナケレバ節	88 (22)	310 (78)	53 (13)	345 (87)	398 (100)

4.2 「否定的評価」を伴うナケレバ節

さらに、ナケレバ節をとる複文の主節には、従属節のことがらに対する話し手の否定的評価が表されている場合が多い。

(『国民生活白書』2003)

→「主節の肯否」は「肯定形」、「望ましさ」は「－」

¹⁴ 表 2 では主節が省略されている場合も件数に加えたが、ここでは従属節と主節の関係に注目するため、対象外とした。

¹⁵ バ節「肯定形」1016 件(89%)の中には、慣用的な表現である「－ばいい」が 120 件(11%)ある。

- (16) 全島民一人を、船で島の外に脱出させるという作戦をとろうというものだ。たいへんなことはわかっている。前例もない。けれどやらなければ、もっとたいへんなことになるかもしれないのだ。

(『命を救え！愛と友情のドラマ』2001)

- (17) 私も保子さんを知りませんし、保子さんもたぶんよく私というものをご存じではないだろうと思います。触れるところまで触れて、それでも私の真実が分らなければ、仕方ありません。

(『プロメテウス』2003)

- (18) メンテナンスをするにせよ解体をするにせよ、どんな場所にどんな素材が使われているかなどこと細かに情報が管理され、素材ごとのメンテナンスマニュアルがなければ、なかなかメンテナンスは難しいと思います。

(『エコハウスに住みたい』2003)

- (19) しかし彼女はそういうマイナスの感情をプラスに転じて、だから私がここからやろう、と思ったのだろう。いくら貧しい人を助けても政治のあり方を変えなければ、意味はない、とマザーを批判した人もいるらしい。

(『インド』2004)

- (20) 「それでは、本人に違うことを確認する必要がありますから、ご自身で領事館へおいでにならねば、まずいでしょう」

(『八十日間世界一周』2004)

- (21) 広く深くかつシステムティックに長時間集中して課題のありか、そしてその解決方法を考え続けられる存分な才能を有する博士課程出身者が、新技術創出・新産業創出の現場の中核に多数存在しなければ、海外との競争に勝ち続けることなど全く不可能である。

(『復活！日本の半導体産業』2004)

- (22) 「ボウシンがどんどんいなくなっている。自ら知識と技能を持ち、全体を束ねることのできる人たちが減ってきていることを、役所はもっともっと心配しなければ、だめだ」公明党の草川昭三参院会長は5月下旬、ものづくり白書の事前説明に訪れた経済産業省

の担当者に、こう忠告した。

(「読売新聞」 2005)

(16)～(22)は、主節の述語が動詞述語(16)(17)、形容詞述語(18)～(22)の場合であり、いずれも従属節のことがらに対する話し手の「否定的な評価」がうかがえる。また、この場合は、(16)(20)のように、「かもしれない」「でしょう」などのモダリティ形式や、(18)のように「－と思う」といった話し手の判断を表す形式と共起しやすい¹⁶。

以上から、ナケレバ節をとる複文の主節に、話し手の否定的評価が表れる場合は、主節の述語が、否定形であるほか、語彙的に否定的な意味を表す場合であることがわかる。この場合、話し手は、ナケレバ節のことがらに対し、「だからまさにそうすべきこと、そうしたほうがいいこと」という「義務」機能を表出するようになる。藤井(2008)では、このような「義務」機能を表す場合は、評価述語が否定的評価を表す述語である点が特徴的であると述べられている。この点は、ナケレバ節にもあてはまることである。つまり、否定形や否定的なことがらを表す主節を伴うナケレバ節は、「仮定条件」を表しながら「義務」機能を担うことができるといえる。

5 上接語の特徴から見るバ節

4 節の分析から、バ条件文は、その従属節が肯定形である場合（バ節）が圧倒的に多く、その主節の形式も肯定形が伴いやすい。また、意味的にも「望ましいことがら」となるのが顕著であることが確認できた。一方、従属節が否定形である場合（ナケレバ節）は、主節の述語の形式は否定形が多く、主節のこ

¹⁶ 宮部(2014)では、シナイト節をとる複文の主節述語のほとんどは、モダリティ形式がつかないと指摘しているが、ナケレバ節の場合は、(16)(18)(20)のように、モダリティ形式と共起しやすいことがわかる。このモダリティ形式の有無に関しては、シナイト節とナケレバ節を比較できる要素として判断し、今後の課題として考察を行い、別稿で論じる。

とがら全体が否定的なものとなっている場合が多かった。また、この場合、ナケレバ節のことがらに対する話し手の「評価」が表れることがあり、その「評価」が「否定形」や「意味的に否定的な述語」であるとき、「義務」機能を担えるようになることがわかった。

ただし、ナケレバ節の「義務」といった意味機能が成り立つためには、ナケレバの上接語句にも何らかの条件や偏りがあることが予測される。そこで、本節では、この点に着目し、バ・ナケレバ節の相違点を明らかにするため、バ・ナケレバの上接語の分析を行うことにする。まず、バ・ナケレバの上接語を品詞ごとに分類し、その結果を表 3 に示す。

表 4 からわかるように、バ・ナケレバの上接語は、いずれも動詞の場合が圧倒的に多い。ただし、すべての統計は延べ語数であるため、自・他動詞の実質的な割合に関しては再検討の余地があるが、バ・ナケレバの上接動詞は、いずれも他動詞のほうが多いことが見て取れる。

- (23) 「ここは豊かな土地だよ。荒々しいが、美しい。ルールを守れば、優しく包んでもくれる」ドラム缶のガソリンをポンプで給油しながらダグは言った。

(『小説宝石』 2001)

- (24) エサを入れた丸い容器にさまざまな人の顔写真をはってふたをする。うち、一つは写真を破れば、エサを得られるようにし、それ以外は内側にふたをして食べられないようにする。

(「読売新聞」 2001)

- (25) 物件価格の八十%までしか融資を受けられない、と聞いてがっかりしている人もいるだろうけど、チョット待って。残りの二十%は「頭金」で払えばいいのだ。

(『ゼッタイ失敗しないマイホーム購入大満足ガイドブック』 2003)

- (26) そのときは、運転手が責任をもって、島民たちを安全な場所に避難させなければならない。たいへんな仕事だ。けれど、だれかがやらなければ、多くの人が危険にさらされてしまうのだ。

(『命を救え！愛と友情のドラマ』 2001)

表 3 上接語の品詞ごとの分類(1)

上接語 \ 形式		バ	ナケレバ
動詞		1078(91.9)	342(82.4)
自動詞	非意志的	187(16.0)	17(4.1)
	意志的	134(11.4)	23(5.5)
他動詞		473(40.3)	222(53.4)
その他	ている/てある	44(3.8)	15(3.6)
	ておく	15(1.3)	5(1.2)
	くいく/ていく/てくる	18(1.5)	21(5.1)
	にいく	1(0.1)	0
	てみる	22(1.9)	2(0.5)
	てしまう	14(1.2)	0
	授受	48(4.1)	7(1.7)
	可能(「v ことができる」)	5(0.4)	0
	受身	40(3.4)	7(1.7)
	使役	16(1.4)	12(2.9)
	－たい	5(0.4)	0
	「－する」類 ¹⁷	13(1.1)	4(1.0)
	「－なる」類 ¹⁸	43	7(1.7)
名詞		40(3.4)	26(6.3)
形容詞 ¹⁹		33(2.8)	47(11.3)
準体助詞		22(1.9)	0
合計(%)		1173(100)	415(100)

¹⁷ 「くする/くやる/にする」

¹⁸ 「くなる/になる/となる/ともなる/ようになる」

¹⁹ ナケレバの上接語が形容詞である場合は、その用例のほとんどが非存在の「ない」(全 48 件中 42 件)であった。

- (27) そのような場所をいいあらわす言葉としては、h o u s e より h o m e の方がふさわしい。定期的に睡眠をとらなければ、人が生存できないように、h o m e は生きていくために不可欠なものだ。

(『いえづくりをしながら考えたこと。』 2002)

- (28) 前述の通り、作家のエージェントの収入は作家に入ってくる印税に多くを負っている。そのため、契約した作家が売れる作品を生み出さなければ、作家のエージェントの商売もすぐに干上がってしまう。

(『ザ・エージェント』 2005)

また、「非意志的自動詞」と「意志的自動詞」の分類において、ナケレバ節はほぼ同じ件数である反面、バ節の場合は、「非意志的自動詞」が多かった。

【意志的自動詞＋ナケレバ】

- (29) 「いくら市が花火を打ち上げ、研究所が研究しても、私たち市民が取り組まなければ、市民の文化レベルは上がらない。そう思って近松応援団を作り十五年間続けてきました」と、同応援団長の加藤道子さん。

(「産経新聞」 2003)

- (30) 付き合う仲間も料理人ばかりになってしまいがちである。だから出来るだけ、表に出て行って、付き合わなければいけない。レストランには、人格者や偉い方々が来ていることがいくらでもある。

(『辻静雄コレクション』 2004)

- (31) 貴子さんのケースでも、正夫さえ同意してくれば、彼女は自分の住所地である旭川の家庭裁判所に申し立てをすることができるが、今度は正夫が裁判のたびに旭川に出向かなければ、ならなくなり、そんなことは望むべくもないことだった。

(『弁護士む～みんの解決！女の一大事』 2004)

【非意志的自動詞＋ナケレバ】

- (32) 要するに、心のなかに神仏が存在しなければ、霊の世界でも彼らにとっては神仏は存在しないということになります。

(『霊能者』2001)

- (33) しかし、既に差し押さえがなされており、裁判所も和解を勧めている。判決までもらって金額が下がらなければ、意味がなく、ここで裁判全体の終結をすることも一つの選択肢である。

(『弁護士む〜みんの解決！女の一大事』2004)

- (34) しかも、その場合、講習後に大変難しい筆記試験があり、合格しなければ、免許取り消しになると交通課の方に脅かされました。

(「Yahoo!知恵袋 2005」)

【非意志的自動詞＋バ】

- (35) さらに機械制御式カメラなら1秒程度の低速にしてシャッターに「粘り」がないかどうか調べる。ジーという音が一定の速さ聞こえれば、問題ないが、不規則な音がすれば修理が必要だ。

(「アサヒカメラ」2001)

- (36) 今後、デフレの下で経済の低迷が長引き、パート・アルバイトが増えれば、さらに未婚化、晩婚化が進む要因となると考えられる。

(「国民生活白書」2003)

- (37) 考えることはどこの事務所も同じだ。大手のネット販売はすでに全機種が売り切れ。慌てて店頭に走れば、家庭用の小型しかない。最後はカタログ販売を頼ることになった。

(「朝日新聞」2004)

- (38) 小魚めがけて海にダイビングしたり、多摩川下流で羽を休ませたり。大都会の東京湾岸でも生活できる環境さえあれば、シギやチドリなど多くの鳥が集まり、たくましく生きる。

(「毎日新聞」2005)

非意志的自動詞が上接語となる(35)～(38)は、起こるかどうか分からないが、

ある事柄の実現によって、どのような結果となるのかという話し手の推論を表す「仮定条件」である。これは、バ条件節の複文の中で主に見られるパターンである。バの上接動詞は、非意志的自動詞の他、補助動詞や助動詞など多様な形式で現れ、その中でも「受身」「ーなる」「ている」類といった「状態性を表す」文法要素との共起がよく見られる。

- (39) 職員 1 人 1 人の行動が、病院サービスにつながる。自分の努力が評価されれば、いい意味での緊張感も生まれる。

(『サンデー毎日』 2001)

- (41) アラブ主要国やイスラム諸国は慎重・反対論を唱えている。国連決議が難しいとなれば、米国は北大西洋条約機構 (N A T O) 構成国やオーストラリアなど同盟国との多国籍軍を目指す選択肢もあるが (中略)

(「毎日新聞」 2002)

- (40) ゴルフ場には広大な土地が存在するので、土地神話と連動して、会員権を持っていれば、いずれ値上がりすると考えられていました。

(『経済界』 2002)

- (42) 滞納世帯の割合は 1. 2 ポイント上昇し十九. 二%で、ほぼ五軒に一軒。失業者の増加などが原因とみられ、徴収が困難になれば、保険財政の悪化につながる恐れがある。

(「西日本新聞」 2003)

その他、上接語が動詞以外の場合を以下に挙げる。

- (43) 言われてひびきはそうだったと思い出した。数年前だったが、やはり車で熊野に向かう時であった。康次は夏であれば、近くのインターから中央自動車道に入る。

(「週刊朝日」 2003)

- (44) 料理というのは、いい料理という絶対的なものがあるわけではな

い。食べた人がおいしければ、それがいい料理であるはずなのに、みんなが勘違いしている。

(『辻静雄コレクション』2004)

- (45) また、必要な物は？市区町村役場に標識交付証とナンバーを持参してください。面倒であれば、バイクショップなどでも代行してもらえenと思います。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

- (46) 金額が上がったので支払い方法を変更されたのだろうと解釈するしかないですね。2日経っても来ないのであれば、メールで問い合わせてもおかしくはないです。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

以上、バ条件節の用例を見てきた結果、動詞である場合が圧倒的に多く、上接動詞が本動詞である場合の他に、「状態性を表す上接語」を伴う場合がよく見られる。しかし、それに限らず、上接動詞が他動詞であるもの((23)~(25))の他に「ておく」「くいく/ていく/てくる」「てみる」「使役」「ーする」類などのような「動作性を表す上接語」との共起も見られる。

- (47) 信書の定義についても、国会答弁で「DMは信書」と政府側に約束させれば、一定の効果はあると判断した。

(「中日新聞」2002)

- (48) これはリーダーについても言えるのではないのでしょうか。それこそ指導者が一所懸命生きていけば、みんながいっしょに歩んでいくことができるわけですから。

(『家の光』2003)

- (49) タグにアルファベットと数字を組み合わせ六文字を表記にすれば、生産地や放流時期などを示すことができる。

(「産経新聞」2003)

- (50) それならば、千差万別、売り方のストックは、たくさんあったほうがいい。販売力のある鮮魚店は、どんな売り方をするか考えて

みればわかる。

(『田舎社長の成功経営術』2003)

- (51) 自分の実績カタログみたいなものですね。一度DTPソフトなどで編集しておけば、その都度新しい作品を追加するなどして印刷して綴じて、常に最新版を作れます。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

このようにバ上接動詞では特定の偏りは見られず、多様な文法要素との接続ができることがわかる。また、上接語動詞の場合に比べると著しく劣勢ではあるが、上接語が名詞、形容詞である場合も見られる。このように、バの上接語は、品詞ごとの数的な差はあるものの、ある特定の条件に限られるわけではなく、形式的に多様であるといえる。

6 ナケレバ節の「義務」機能の確立条件と固定化

5 節では、バ条件節で多様に見られる上接語のタイプが、ナケレバ節の場合では限られており、形式的にバの上接語より多様ではないことがわかった。そこで、ナケレバ節において「義務」機能といった意味機能が成り立つためには、ナケレバの上接語句にも条件や偏りがあることと関係があると予測される²⁰。

この点を明らかにするため、「義務」機能を持つ慣用表現である「ナケレバナライ」類と、後部要素が省略され、ナケレバの縮約形である文末のナキヤの上接語との比較調査を行う。「ナケレバナライ」類の用例は、「ナケレバ」節の全 415 件のうち 230 件であり、それらを考察対象とする。また、文末のナキヤの場合、「義務」機能に特化されているものを考察対象とするため、検索語「ナ

²⁰ 「義務」機能を担う形式としての、ナケレバ節かつ「義務」専用形式に関する研究は、「当為表現」や「条件表現」を研究対象として活発的に行われている。これらは主に、モダリティの観点や類義表現の形式間の意味用法の違いに関する記述が多いが、「義務」機能を担う条件節やバ・ナケレバの上接語句の特徴について考察したものは、管見の限りあまり見られない。

キヤ。」で収集した用例 208 件を考察対象とした。その分析の結果を表 4 に示す。

表 4 上接語の品詞ごとの分類(2)

形式 上接語	バ	ナケレバ	「ナケレバ ナラナイ」類	文末の ナキヤ
動詞	1078(91.9)	342(82.4)	218(94.8)	202(97.1)
非意志的自動詞	187(15.9)	17(3.9)	3(1.3)	1(0.5)
意志的自動詞(a)	134(11.4)	23(5.6)	16(7)	43(20.7)
他動詞(b)	473(40.3)	222(53.5)	148(64.3)	114(54.8)
(a)+(b)	607(51.5)	245(59)	164(71.8)	157(75.5)
ている/てある	44(3.8)	15(3.6)	3(1.3)	1(0.5)
ておく	15(1.3)	5(1.2)	5(2.2)	5(2.4)
くいく/ていく/てくる	18(1.5)	21(5.1)	16(7)	6(2.9)
にいく	1(0.1)	0	0	5(2.4)
てみる	22(1.9)	2(0.5)	1(0.4)	1(0.5)
てしまう	14(1.2)	0	0	0
授受	48(4.1)	7(1.7)	3(1.3)	12(5.7)
可能(「v ことができる」)	5(0.4)	0	0	0
受身	40(3.4)	7(1.7)	5(2.2)	0
使役	16(1.4)	12(2.9)	10(4.3)	5(2.4)
－たい	5(0.4)	0	0	0
「－する」類	13(1.1)	4(1.0)	5(2.2)	7(3.3)
「－なる」類	43(3.7)	7(1.7)	3(1.3)	0
にかかる/てかかる	0	0	0	2(1)
名詞	40(3.4)	26(6.3)	10(4.3)	5(2.4)
形容詞	33(2.8)	47(11.3)	2(0.9)	1(0.5)
準体助詞	22(1.9)	0	0	0
合計	1173(100)	415(100)	230(100)	208(100)

表4からわかるように、各形式のいずれも、上接語が動詞である場合が最も多いが、上接動詞のタイプには違いがみられる。「非意志的自動詞」の割合は、バ節で15.9%、ナケレバ節で3.9%、「ナケレバナラナイ」類で1.3%、文末のナキヤで0.5%で、バ節から文末のナキヤの順により小さい割合になる。

一方、意志動詞とみなされる「意志的自動詞」と「他動詞」をまとめた割合((a)+(b))は、バ節の51.5%に対し、ナケレバ節が59%、「ナケレバナラナイ」類が71.8%、文末のナキヤが75.5%を占めており、否定条件形式かつ「義務」専用形式で顕著に高いことがわかる。

このように、「義務」を示す否定条件形式の上接動詞の中で、意志動詞の割合が高いことは、「ている」、「受身」、「一なる」類といった状態性を表す動詞群が「ナキヤ。」では、あまり見られなくなったことと対比的である。また、バ節・ナケレバ節・「ナケレバナラナイ」類では見られず、文末のナキヤで新しく登場する上接動詞のタイプがある。その用例を以下に挙げる。

- (52) 気を引きしめてかからなきや。気がゆるんで、事態が手に負えなくなってしまうたら、どんな恐ろしいことになるか…

(『チート』2003)

- (53) ワトスンは「行くとすればすぐ仕度にかからなきや。三十分しか時間がないね」と言いながらも妻のすすめもあり、(中略)

(『シャーロック・ホームズの鉄道学』2004)

(52)(53)は、文末のナキヤに直接かかる上接動詞は「かかる」ではあるが、上接句の解釈に関わる上接動詞の文法要素は、「一てかかる」、「一にかかる」である。これらは、意志的にある動作に取り組もうとする動作性を表すものであり、文末のナキヤの上接語において、意志動詞の割合が高いことと関連付けができる。

また、上接語が名詞である場合は、バ節で最も多く見られ、ナケレバ節、「ナケレバナラナイ」類、文末のナキヤの順により小さい割合になる。なお、上接語が形容詞である場合は、バ節よりナケレバ節でより大きい割合になるが、「ナケレバナラナイ」類、文末のナキヤの順にその割合は減りつつある。そもそも

名詞はものそのものを表し、形容詞は人やものの属性を表し、いずれも状態性を表す性質を持つ。この状態性を表す名詞、形容詞を上接語としてとるのは、「ナケレバナラナイ」類、文末のナキャへの順に割合が小さくなり、「義務」機能に固定化すればするほど制限される条件としてみなされる。

以上のように、ナケレバ節と「ナケレバナラナイ」類、文末のナキャを比較すると、形式が固定化し、「義務」機能により特化するほど、その上接語はかなり限られた文法範囲で現れた。逆にいえば、この限られた条件において、「義務」機能に特化していくということができ、「ナケレバ」「ナケレバナラナイ」「ナキャ。」の形で固定化し、機能語として形態も変化していったと考えられる。

7 おわりに

バ条件文は、因果関係により成立しており、この「因果関係」は「仮定条件」を表すキーワードである。本調査の結果の限り、バ条件文は従属節が肯定形である場合（バ節）が圧倒的に多く、主節の形式も肯定形が伴いやすく、意味的にも「望ましいことがら」となるのが顕著であることが確認できた。

一方、従属節が否定形である場合（ナケレバ節）は、主節の述語は、否定形が多く、ことがら全体が否定的なものとなっている場合が多かった。このとき、ナケレバ節のことがらに対する話し手の「評価」が表れる場合があり、その「評価」が「否定形」や「意味的に否定的な述語」であるとき、「義務」機能を担えるようになる。

ナケレバ節において、「義務」といった意味機能が成り立つためには、ナケレバの上接語句にも何らかの条件や偏りがあると予測できるが、ナケレバ節の上接句の分析結果だけでは、その条件や偏りを明確に説明し切れない。そこで、「義務」機能にかなり固定化している「ナケレバナラナイ」類や文末のナキャの上接語句を合わせて考察した結果、ナケレバ節から「ナケレバナラナイ」類、文末のナキャへというように形式が固定化し、「義務」機能に特化した形式ほど、「意志的な動作性」を表す上接語を伴いやすいことがわかった。

ナケレバ節をとる複文は、主節に「否定的評価」を伴う場合「義務」機能を持つことができる。ただ、この場合も「ある事柄が実現しないと望ましくない

結果（否定的評価）となる」という「仮定条件」の延長線上にある。「ナケレバナラナイ」類や文末のナキャでは、「義務」機能に特化していく。本調査では、この「義務」機能に特化した形式では、「意志的な動作性」を表す上接語の出現傾向が高いことがわかった。つまり、「意志的な動作性」を表す上接語を伴うことは、「義務」機能に特化し、機能語化して、「ナケレバ」「ナケレバナラナイ」「ナキャ。」の形への固定化を促す一つの条件であるといえる。

第 2 章

否定条件構文における「デナケレバ」の多様性

1 はじめに

節と節をつなげる接続助詞「バ」は、一般的に「もうそろそろ帰らなければ、電車の時間に間に合わない。」というような「条件＋帰結」の構造を成り立たせる。しかし、常にこのように使われているわけではない。たとえば、「もうそろそろ帰らなければ。」のように、「ナケレバ」の後部要素が省略されていて、文末に位置する場合がその例である。この「バ」は節と節をつなげて複文を形成しているとはいえない。この他にも、「もうそろそろ帰ろう。でなければ電車の時間に間に合わない」のように、上接語が省略され、文頭で用いられる「。デナケレバ」も考えられる。

以上より、「(デ) ナケレバ」が導く構文として考えられるパターンを以下にまとめて示す。

- (1) a もうそろそろ帰らなければ、電車の時間に間に合わない。
b この件に関しては田中さんでなければ、解決できない。
- (2) a もうそろそろ帰らなければならない。
b この件に関しては田中さんでなければならない。
- (3) a もうそろそろ帰らなければ。
b この件に関しては田中さんでなければ。
- (4) a もうそろそろ帰ろう。でなければ、電車の時間に間に合わない。
b この件に関しては田中さんが必要である。でなければ、解決できない。

(1)は、「条件＋(デ) ナケレバ＋帰結」の構造をとる典型的な否定条件文であり、(2)は、「(デ) ナケレバナラナイ」の形で「義務」を表す定型的慣用表現である。(3)は、「(デ) ナケレバ」の後部要素が省略されており、(2)の定型的

慣用表現とほぼ同様の意味機能を持つと考える。(3)が主に文末で現れるのに対し、(4)は、主に文頭で現れ、「(デ) ナケレバ」の上接語が形式として示されないパターンである。

このように、同じ「(デ) ナケレバ」であっても、文の中で現れる位置や文脈の前後関係によって、それらの意味機能が異なる。その理由はどのように説明できるのか。本節では、否定条件構文の全体像の様相を考える一段階として、文末、文中、文頭のいずれにも現れうる形式である「デナケレバ」を取り上げ、その構文的特徴や意味機能について考察する。

2 先行研究と本章の目的

先行研究としては、「(デ) ナケレバ」そのものを考察の対象としたものは管見の限り見当たらず、主に当為表現を考察対象とした研究の中で触れられていることが多い。当為表現に関する研究は、複雑かつ多様なバリエーションをまとめ、その推移と変遷を整理している史的研究（渋谷 1988；田中 1967、2002；矢島 2013 など）と「ナケレバナラナイ」を中心とした類義表現との比較研究（郷丸 1995；小西 2008；高梨 2010；田村 1997、1999；野林 1996；森山 1997 など）の 2 種類の観点から行われている。また、条件表現に関する研究では、条件形の肯定形を中心としたものが多く（益岡 1993；田中 2006；日本語記述文法研究会 2008；前田 2009 など）、否定条件形式を研究対象としたものはあまり見られない。

否定条件形式を対象とする数少ない研究としては、藤井（2008）がある。藤井（2008）では、話し言葉談話データにおける「～ないと」「～なきゃ」「～なくちゃ」の構文タイプを分析し、「義務」機能の表出について記述を行っている。しかし、「否定的評価」から表出される「義務」機能に注目しているため、それ「否定的評価」以外の場合にみられる構文的特徴については言及していない。

本節では、これらの先行論を踏まえ、否定条件形式の中でも上接語の品詞の制約がかかってくる「デナケレバ」を調査対象とし、否定条件構文における「デナケレバ」の構文分析を行う。現代日本語における「デナケレバ」構文の多様

性と独自性を考察することを目的とする。

3 調査概要

本調査では、国立国語研究所（2017）「現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）」（BCCWJ・NT1.1）を用い、「コーパス検索アプリケーション『中納言』（2.4）」によって検索を行った。非コアデータを含む全ジャンルを調査対象とする。検索文字列「デナケレバ」で、検索した結果、全 3957 件が見つかった。その中で、検索結果として表示順に 1000 件を調査対象とした²¹。

4 構文分析

本調査で採取した 1000 件の用例から、「デナケレバ」構文の種類は、「一般的否定条件構文」「定型的慣用表現構文」「評価的述語後続構文」「主節省略構文」「上接語省略構文」の 5 つに分けられた。構文の種類を判断する基準は、以下の通りであり、その様相は表 1 にまとめる。数字は件数であり、括弧内はパーセンテージを示す。表 2 以降についても同様である。

- 「一般的否定条件構文」：「デナケレバ」節をとる複文である場合
- 「定型的慣用表現構文」：「でなければならぬ/でなければいけない」といった慣用的表現である場合
- 「評価的述語後続構文」：「デナケレバ」の直後に否定的・肯定的評価述語が後続する場合
- 「主節省略構文」：「デナケレバ」の後部要素が省略されている場合
- 「上接語省略構文」：「デナケレバ」の上接語が省略されている場合

²¹ 表示順 1000 件において、ジャンルごとの様相を以下表に示す。数字は件数を示し、括弧内はパーセンテージを示す。「でなければ」の用例は、「Yahoo!知恵袋(45.2%)」と「書籍(42.2%)」への割合が高く、「法律(4.4%)」「国会会議録(4.2%)」「ベストセラー(2.0%)」「広報誌(2.0%)」などからも見られ、特定のジャンルに偏る傾向は見られない。

次節から構文ごとに考察を行っていく。

表 1 「デナケレバ」の構文様相

構文の種類	件数
一般的否定条件構文	615(61.5)
定型的慣用表現構文	255(25.5)
評価的述語後続構文	63(6.3)
主節省略構文	18(1.8)
上接語省略構文	49(4.9)
合計	1000(100)

4.1 一般的否定条件構文

「一般的否定条件構文」は、「デナケレバ」節をとる複文であり、主に、前件と後件の事態の間の相関関係・依存関係を表す。「一般的否定条件構文」は、全 1000 件のうち 615 件で、最も多く見られる。

まず、「デナケレバ」節をとる複文の主節の分析を行う。主節の形自体が肯定形か否定形かという形式的な観点、加えて「望ましさ」という意味的な観点によって分析していく。主節の分析において、主節の述語が否定形であっても、主節全体が「望ましいことがら」を表す場合がある。一方、主節の述語が肯定形であっても、主節全体が「望ましくないことがら」を表す場合もある。このように「望ましさ」の観点から分類するとき、前者を「+」とし、後者を「-」とする。例えば、以下のようなものである。

- (5) それを外せば元の黒色にもどります。が、何かに利用するのでなければ、特に問題はありませんからそのままでもいいでしょう。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

→「主節の肯否」は「否定形」、「望ましさ」は「+」

- (6) そして、これらを自分の中でしっかりまとめ、周りの人を説得し、協力してもらえくらいでなければ、成功は難しいでしょう。

(『個人事業の経理』2000)

→「主節の肯否」は「肯定形」、「望ましさ」は「－」

このような分類方法によって、「デナケレバ」節をとる複文の主節を分析した結果を表 2 に示す。

表 2 主節の述語の形の望ましさ

主節の形式		主節の望ましさ		合計
肯定形	否定形	＋	－	
340 (55.5)	273 (44.5)	286 (46.7)	327 (53.3)	614 ²² (100)

表 2 から、「デナケレバ」の主節は、形式的には肯定形が否定形より 1 割程度高く見られ、意味的には「デナケレバ＋望ましくないことがら」となる場合が「デナケレバ＋望ましいことがら」となる場合よりやや高いことがわかる。

第 1 章では、否定条件形式「ナケレバ」全体における主節の述語や望ましさについて分析している。その結果、主節の「望ましさ」は「望ましくないことがら」を表す場合が 87%で、「望ましくないことがら」タイプに大きな偏りがあることがわかった。しかし、「デナケレバ」に限って示すとその偏りがなくなることがわかる。これは否定条件形式「ナケレバ」一般とは区別できる「デナケレバ」の特徴であるといえる。

²² 「一般的否定条件構文」は、全 615 件であるが、以下の 1 件は、主節が省略文であるため、肯否および望ましさの観点から判断しにくいものは未分類とし、対象外とした。

- 1) 「警告するのもこれが最後だぞ。きみの芝居じみた真似にはこれ以上付き合いきれない。もう、いいかげんにしてくれ。そうでなければ、ぼくは……」
(『ロスト・フレンド』2002)

4.1.1 「デナケレバ+望ましくないことがら」タイプ

「デナケレバ」の主節の述語が「望ましくないことがら」となる場合を以下に挙げる。

- (7) たとえば、接見の日時・場所等を指定して、「この日でなければ、弁護人は被疑者に会えない」と一方的に告げることができるようになっているわけです。

(『入門刑事訴訟法はこう読む』2000)

- (8) 「そんな比喻は明らかに偽りだ」と弁じ立てる。「蜻蛉は、ごく例外的な状況のもとでなければ、海の底で生きていられないからな。それに、文学が真理と枕を交わす花嫁でないならば、文学とは何なのだ？ちくしょう」と叫ぶ。

(『オーランドー』2002)

- (9) たとえば『風立ちぬ』の中に、軽井沢の教会で神父さまが空を見上げて、「こんな美しい空は、こういう風のある寒い日でなければ、見られませんですね」と呟く場面がありますでしょ。

(『夫・遠藤周作を語る』2000)

- (10) 小野篁は、昼は参議として朝廷に仕え、夜になると六道珍皇寺の井戸から冥界へ赴いて閻魔大王に仕えていたのだ。仕事好きでなければ、それほどまでには働けない。

(『姫神さまに願いを』2000)

- (11) これでは時間の経過とともに尻つぼみになってしまうではないか。あとから来る人間が次々にベテランや経験豊富な人を追い越していく組織でなければ、成長しないではないか。

(『休日にじっくり読む「呻吟語」』2001)

- (12) 「精神的な障害なのか、脳そのものの障害なのか見極めるのがきわめて難しい。専門医でなければ、なかなか的確な治療ができないのが現状だ」

(『ST 青の調査ファイル』2003)

(7)～(12)は、「デナケレバ+～ナイ」という形式をとっている。この形は「デナケレバ+望ましくないことがら」という組み合わせを成り立たせる顕著なパターンであることがわかる。それに対して、主節の述語は、形式的には肯定形でありながら、主節全体の意味は「望ましくないことがら」を表すものもある。

- (13) 同様にして「私はある」の方もまた、「私はある」でなければ、おかしな感じになるだろう。無生物には「ある」、生物には「いる」を使うのが現代語の常識であるからだ。

(『日本語は進化する』2002)

- (14) さまざまな判断のそのような多様さを生徒に見せてやるようにするのがよく、生徒に力があれば選ぶでしょうし、そうでなければ、疑いのなかにとどまるでしょう。

(『エッセー』2002)

- (15) いや、問題はまさに、ギュゲスの指輪に類するものがこの世界に現に存在していることにあるのだ。そうでなければ、問題そのものが無意味になっちゃうぞ。

(『倫理とは何か』2003)

- (16) 江戸城の鉄砲蔵から数百挺もの火縄銃を運び出すには、ある権限を持った者でなければ、とても不可能だ。それは友之進が口走ったように、二名いる鉄砲簞笥奉行のどちらかということになる。

(『血笑剣』2004)

- (17) それに、妻へ給与を払っている人は、その妻を扶養に取することはできません。よほど儲かっているのでなければ、かえって損になります。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

- (18) どういうところに就職したいのでしょうか？国文科は世間からは癖のある学科のように思われているので、ある程度、頭のいい大学でなければ、就職は厳しいかもしれないですよ。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

(13)～(18)は、「おかしい (感じ)」「疑い (のなかにとどまる)」「無意味 (になる)」「不可欠だ」「損 (になる)」「厳しい」といった語彙的意味そのものが否定的な場合である。これらからは、いずれも否定条件節のことがらに対する話し手の「否定的評価」がうかがえる。

また、「否定的評価」がうかがえる場合は、「だろう」(13)(14)「かもしれない」(18)などの話し手の判断を表すモダリティ形式と共起しやすい。「だろう」「かもしれない」の以外のモダリティ形式としては、以下のような用例が見られる。

- (19) 笑うにはあまりに深刻な高所恐怖症ぶりである。ダブルオーの操縦の際、妹尾の操縦席が一番低い脚部でなければ、おそらくあのような素晴らしい操縦もできないに違いない。

(『歩兵型戦闘車両ダブルオー』2002)

- (20) オークションの出品者を個人か、個人でないか見分ける方法は？基本はストアーかそうでないかでしょう。ストアーでなければ、法人で登録できないはずです。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

以上から、「デナケレバ+望ましくないことがら」タイプは、主節の述語が否定形である（「デナケレバ+～ナイ」）場合、語彙的な意味そのものが否定的であり、話し手の「否定的評価」がうかがえる場合の2種類に分けられる。どちらの場合においても、話し手は否定条件節のことがらを受けた後続節事態において、帰結として「まさにそうなる、そうなる必然性が高い」という「義務」的な認識を表出していると考ええる。

4.1.2 「デナケレバ+望ましいことがら」タイプ

4.1.1 では、「デナケレバ+望ましくないことがら」となる場合を確認した。次は、「デナケレバ+望ましいことがら」となる場合を見してみる。

- (21) このような条件でも問題なく使用できるでしょうか？ご教授のほどよろしくお願いします。コンクリート壁でなければ、問題ないはずです。電話機のコードレスが使えれば、概ね大丈夫ですよ。

(『Yahoo!知恵袋』 2005)

- (22) 手紙文で文章のつなぎ目に、『ですので』と入れるのはおかしいでしょうか？連発するのでなければ、使ってもおかしくはありませんが、歯切れの悪い感じを受けることは確かにあります。

(「Yahoo!知恵袋」 2005)

- (23) U n i x . P e n g u i nで検索してみてください。U n i xをお使いでなければ、脅威ではないようですが駆除の方法も詳しく書かれていますので。

(「Yahoo!知恵袋」 2005)

(21)～(23)は、「デナケレバ」の主節の述語が形式的には否定形をとるが、意味的には「望ましいことがら」を表している。これらは「はずだ(21)」「ようだ(23)」のようなモダリティ形式と共起しやすいことがわかる。また、主節の述語が形式的に肯定形をとり、意味的に「望ましいことがら」となる用例を以下に挙げる。

- (24) 犬や猫の場合、仮にがんと診断されても、悪性で転移するものでなければ、手術によって比較的簡単に解決することができます。

(『ペットの万能薬』 2000)

- (25) まるで絵が歪むように、透明のなにかが突き進んでくるのが見えた。(透明化！？)完全な透明化ではない。野外で遠目でなければ、すぐに見分けがつくだろう。

(『我が聖域に開け扉』 2003)

- (26) 「ありがとう、キャロル。『気がかり』というのはびったりの表現だと思う。どんなアドバイスが飛び出すのか心配で…」「事業を拡大するように、というアドバイスでなければ、安心してもらえるのよね？」

(『ビーンズ！』 2004)

- (27) 小学校の時は歌のテストがあるとお腹痛くなったし、今までの人生でカラオケに行った回数も、片手で数えきれるほど。でも、人前でなければ、歌は好きなんです。

(『キッパリ！』 2004)

- (28) そういう意味でエンジンルームから配線を引く事を考えられているのでしょうか？そうでなければ、車内から電源取った方が安全ですし簡単です。

(「Yahoo!知恵袋」 2005)

- (29) 自分でつくったのが持ち込み可能「簡単ホームページ」のような特殊なサーバーでなければ、ほぼ全てのレンタルサーバーでOKです。

(「Yahoo!知恵袋」 2005)

(21)～(29)は、「デナケレバ」の主節の述語が否定形であれ、肯定形であれ、意味的には「望ましいことがら」を表す。一方、これらのタイプとは異なる場合が見られる。

- (30) 「この辺は旗本だの、御家人だのというものの屋敷が多い」とは書いてあるが、江戸の市街は何処も殆ど社寺でなければ、武家屋敷ばかりである。

(『果てもない道中記』 2002)

- (31) 亭主から「点前中にでもどうぞ」とか、点前する人と亭主が異なり、ご説明いただければよいが、そうでなければ、点前のごくはじめの頃か、またはお茶が点ったあとでおたずねするのがよい。

(『茶席の会話集』 2003)

- (32) 「自国を統治できない。彼らはこれまでと同様に、統治者を必要としている。それが中国でなければ、ロシアか日本ということになる。日本に韓国を統治させるべきである」

(『アメリカの対日占領政策とその影響』 2004)

- (33) ソフトは毎日更新していなければ使い物になりませんよ。ウイルスでなければ、電源関係でしょう。(ノートパソコンでしょうか？機種がわかりませんが) 修理にだすことをおすすめします。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

- (34) よくホテルのバターで塩っ化がないバターがありますがあれは普通に無塩バターですか？すごく美味しいですが…。少し酸味を感じるのであれば、醗酵バターで、そうでなければ、無塩バターです。でも、無塩バターでもメーカーによって味は異なります。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

(21)～(29)は、「デナケレバ」をとる複文が「仮定＋帰結」の構造をとる典型的な因果関係を表す仮定条件構文である。一方、(30)～(34)は、「A でなければ B」という形式で、A と同時に A が成り立たない場合の、その他の選択肢 B を提示する、すなわち「選択肢の提示」を表す機能といえ、因果関係を表す構造とみられにくい。

また、これらは、主に、形式的に「名詞（指示詞）＋でなければ＋名詞述語」という構造となっているのが特徴的である。この「選択肢の提示」機能は、「物」や「こと」自体を表す本来の名詞の性質と関連付けができると予測される。しかし、「選択肢の提示」機能を確立する条件として「デナケレバ」の上接語や主節の述語が必ず名詞であるとは限らない。(31)は、「指示詞＋でなければ＋動詞述語」となっているものであるが、「「ご説明いただければよい」でなければ「おたずねするのがよい」」のような「A でなければ B」という同様の「選択肢の提示」機能を持つ。

4.2 定型的慣用表現構文

「定型的慣用表現構文」は、一語化した「デナケレバナラナイ」「デナケレバイケナイ」の形式である。元々「ナケレバナラナイ」は熟語的な慣用・定型表現としてとらえられている。グループ・ジャマシイ（2002）は「ナケレバナラナイ」について、社会常識やことからの性質から見て、そのような義務・必要

性があるという一般的な判断を述べる場合に用いられることが多いと述べている。

本調査で「デナケレバ」の「定型的慣用表現構文」（「デナケレバナラナイ」「デナケレバイケナイ」）は、全 1000 件の中、255 件が見られる。以下に用例を示す。

- (35) でも、夫婦関係がこれから先の人生に大きく左右する中高年の時代こそ、周囲の状況をしっかりと見極め、女房を上手にリードできる亭主でなければならないというのが私の考えであり、理想的な中高年の男性像でもあるのです。

（『7つの自立力』2000）

- (36) 徴に現れた細部の微妙な違いはメッセージの微妙な違いでなければならない、本来、解釈には、その微妙な違いまで反映されなければならないはずだったからである。

（『占いの宇宙誌』2001）

- (37) 事故で壊れた車を修理して尚且つ新しくスポイラーも取り付けてよと言っている様なものですから。ただ、個室でなければいけないという明確な（保険会社が認める様な）理由があれば、認めてくれるかも知れませんね。

（「Yahoo!知恵袋」2005）

- (38) 大人の女性とつきあおうと思ったとしても、ばかにされたり、傷つくことを恐れていると、知力も腕力も経済力も、完璧でなければなりません。

（『少女はなぜ逃げなかったか』2000）

- (39) 私のところにもよくこの種の問い合わせがくるが、こういった一般化にはかなり慎重でなければならない。

（『中年期とこころの危機』2000）

- (40) しかし、美しい花々はかならず子どもの心に作用していると思う。子どものだいじな環境をつくっている絵本は、この花々でなければ

ばいけない。そこで、一冊のよき絵本は「伝統につながる」と思っている。

(『私の絵本ろん』 2005)

「デナケレバナラナイ」「デナケレバイケナイ」は、(35)～(37)のように文中で用いられる場合もあれば、(38)～(40)のように文末で用いられる場合もある。いずれも、ある状態に直面して何らかの行動を行うとき、そうすることが義務だ・必要だ、あるいは、それ以外の選択肢はないという判断を表す。

4.3 評価的述語後続構文

「デナケレバナラナイ」「デナケレバイケナイ」という表現は慣用性が高く、定型化している。しかし、用例を実際に見てみると、上記の定型的慣用表現で使われている後部要素「ナラナイ」「イケナイ」以外にも様々な評価述語が使われていることがわかる。本節では、「ナケレバ」の後部要素として「ナラナイ」「イケナイ」以外の評価的述語を伴う場合、また、定型化されているとは言えないが、「デナケレバ」に評価的述語が直接後続して働いている場合を「評価的述語後続構文」とする。用例は、全 1000 件の中で、63 件が見つかる。以下に用例を挙げる。

- (41) 別のメッセージに移る前に、一般的に瞬時で消えてしまう単純化が行なわれる。これは定義が曖昧だからできることで、そうでなければできないことだ。

(『女の身体、男の視線』 2000)

- (42) 最近のサーバ過負荷を鑑みて、違反質問を徹底的に削除しているのではないのでしょうか。いくらちゃんと B A を決めても、ちゃんとした質問でなければ意味がありません。

(「Yahoo!知恵袋」 2005)

- (43) 村の守り神として大切にされてきた泉や、ふるさとの川や湖が、開発の犠牲になって荒らされ、消えていく。その悲しみは地元の

者でなければわからない。

(『ムラセ係長、雨水で世直し!』2005)

- (44) 今のリサイクルショップは買い取り結構厳しいです。あなたが自分の服を見て、リサイクルショップで売ってたら買いたいと思うものですか? そうでなければ難しいです。

(『Yahoo!知恵袋』2005)

- (45) 派遣先の会社によると、そういうこともできるんだそうです。この場合やはり、現在と同じ契約金の派遣会社でなければ無理ですか? また個人的に各派遣会社に連絡して聞くべきなのか、誰にも相談できず悩んでいます。

(『Yahoo!知恵袋』2005)

- (46) 水惑星の地球 水がなければ生物は生きてゆけない。水といっても「液体の」水でなければだめだ。水は温度が低いと「固体の」水すなわち氷となり、温度が高いと「気体の」水すなわち水蒸気となる。

(『新編理科総合B』2006)

(41)～(46)は、「デナケレバ」の後部要素として「できない」「意味がない」「わからない」「難しい」「無理だ」「だめだ」といった否定的評価述語が結び付けられている。藤井(2008)は、「～ない(否定形の述語)＋接続形態素＋否定的評価述語」という構文が「義務」「必要」の意味・機能を表すときのメカニズムを以下のように説明している。

この構文は、『何らかの事態 X がないこと(何らかの行為 X をしないこと)』が、よくない」という意味構造をもっている。『何らかの事態 X がないこと(何らかの行為 X をしないこと)』が、よくない」ということは、『事態 X・行為 X が起きること・行うこと』が必要である」ということである。したがって、日本語では、『何らかの事態 X がないこと(何らかの行為 X をしないこと)』が、よくない」という構文スキーマによって、『事態 X・行為 X が起きること・行うこと』が必

要である」という「義務」「必要」の意味・機能を表していることがわかる。

このことから「評価的述語後続構文」では、構文内の表現要素の組み合わせによって、「義務」「必要」を表出しているといえる。これは、「デナケレバ＋否定的評価述語」となる場合が顕著であるが、「デナケレバ」の後部要素が否定的評価述語ではない場合もある。

- (47) ご教授のほどよろしくお願いします。コンクリート壁でなければ、問題ないはずです。電話機のコードレスが使えるれば、概ね大丈夫ですよ。

(『Yahoo!知恵袋』 2005)

- (48) どんなに仕事ができても、路子や清子のように自立に苦しむのは先だろう。どうして離婚したのか、その理由が、胸のせいでなければよいが、と彼は思った。

(『近くて遠い旅』 2002)

- (49) 5台という台数はN T Tが推奨している台数です。何台でも接続は可能ですが、回線品質は落ちます。同時に利用をするのでなければ大丈夫かと思います。

(『Yahoo!知恵袋』 2005)

- (50) でも、好きな人にはたくさんメールを送りたいと思ってしまいます。割合的には、返信しなければと追い込まれるような頻度でなければOKです。

(『Yahoo!知恵袋』 2005)

(47)～(50)は、「デナケレバ」の後部要素として「問題ない」「よい」「大丈夫だ」「OK」といった肯定的評価述語を用いる場合であり、「評価的述語後続構文」全 63 件の中で、23 件であった。これらは、(41)～(46)の否定的評価述語を伴う場合とは対比されるパターンである。ただ、「デナケレバ」の主節の述語が否定的評価であれ、肯定的評価であれ、形容詞述語を伴いやすい傾向があるのは

共通する。

4.4 主節省略構文

「主節省略構文」は、表面的に否定条件節部分のみ明示する構文である。全1000件のうち、18件しか見られない。以下、用例を挙げる。

- (51) そしてアレン氏は読者にたずねます。「あなたの先生はだれだろうか」この質問に師と呼べる人がいて、その名前を挙げられる人はよいですが、そうでなければ…。

(『本調子』2004)

- (52) 舶来物がすべてといった時代で、ワインもそれまでの、「赤玉パンチが美味かろう」といったものから、「やっぱりワインはブルゴーニュでなければね」というように、日本人の舌は飛躍的に国際化した時代です。

(『日本酒美人』2004)

- (53) 自分も含めて不景気で仕事にすら就けないでいる人間が溢れている時に、どうして税金のムダ使いをさせるような行動に出るのか理解に苦しみます。政府も「不要・不急でなければ…」などと及び腰な表現を避け、「入国した人間に対しては、今後一切の救援、救出活動はしない」と明言して欲しいものです。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

- (54) そして、リスクの評価についても、管理官庁が管理をした上でなければと言いますけれども、管理をする管理の内容、仕方、プログラム、アメリカから来たと言っているデータ、きょう聞こうかと思ったけれども時間がなかった。

(「国会会議録」2005)

これらは、主節を伴わず「デナケレバ」で終止している用例である。この形式は「定型的慣用表現」、もしくは「評価的述語後続構文」の中で評価的述語が

否定的な場合に、後件部分が省略された形式として考えて矛盾がない。つまり、「デナケレバナラナイ」「デナケレバイケナイ」の後部要素「ナラナイ」「イケナイ」が表示されていないものと位置づけられる。

4.5 上接語省略構文

これまで確認してきた「デナケレバ」構文は、すべて上接語を伴う場合であったが、少数であるものの、上接語が省略されている場合²³がある。全 1000 件のうち、49 件が見つかった。

- (55) 「電子メールをつかう若い人たちは、いつもメールでしかやりとりしない。そういう考えがなくもなかった」「そうでもありません。でなければオフ会だって開かれないでしょう？」

(『雪が降る』2001)

- (56) 時効とか色々言われてますが、警察は事情を聞くべきですね。犯罪を犯したのは間違いないのでから。でなければ、国の秩序はメチャクチャになりますよ。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

(55)は、「。でなければ＋否定形」という形式であり、(56)は、語彙的な意味そのものが否定的な意味を表す述語をとっている。これらは、4.1.1 で確認した「デナケレバ＋望ましくないことがら」という組み合わせを成り立たせる顕著なパターンと同様である。それに対し、「上接語省略構文」では、4.1.2.の「デナケレバ＋望ましいことがら」を表す場合がより多く見られる。

- (57) 美味しく焼くには、トウモロコシの種類も気おつけて、生で食べても甘いのなら、そのまま、焼いてオッケー。でなければ、茹で

²³ 本調査では、上接語を伴わず、文頭で現れている場合のみを「上接語省略構文」と分類した。

てから焼くと美味しいですぜ。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

- (58) うーん、殴られたという映像でも残っていれば、プレイバックしてみんなで判断するのにね。残念です。私は、絶対に生徒が悪い、でなければ殴られたりしない、と思っています。

(「Yahoo!知恵袋」2005)

一方、4.1.2 で述べた「選択肢の提示」機能を持つ場合もみられる。

- (59) 隣人 誰か、脱がしてくれませんか。自由の身になりたい。通訳あなたの考えている「自由」なんて時代遅れですよ。今の自分のままでいなさい。でなければ、警察でも呼びなさい。

(『光とゼラチンのライブチッヒ』2000)

- (60) 「わかっています。必要とあれば、わたしはそちらの航空管制周波数にセットしてここに待機します。そちらは管制官に連絡するか、でなければ、携帯電話で同じ番号に掛けてください」

(『最後の人質』2000)

- (70) それどころか、彼は騒ぎ立てる連中に、軽侮の念をもっていたのである。一事件をよろこぶ書生か、でなければ、亡命の臣。といった連中が、つぎつぎと雑誌に執筆するのに怒りをおぼえていたようだ。

(『中国の歴史』2001)

- (71) いまルシアンには、養父と、名づけ親のような父がわりの人がいる。二人とも大魔法使い、でなければ、科学者、でなければ自然哲学者だ。名づけ親のような母もいる。

(『ストラヴァガンザ』2003)

- (72) 三木稔や原田甫は、たしかにいたように思うのだが、いずれにしても、そのほとんどが、その年、でなければ、翌年、でなければ二、三年のうちに、芸大の、あるいはべつなどこかの大学の、作曲科の学生になっているはずだ。

(『私の戦後音楽史』 2004)

- (73) まさにそれがポーカーをしながら味わう感覚だったのである。それが愛というものだろうか？でなければ、ただの欲望？そんなことはどうでもよかった。

(『オールイン』 2004)

- (74) 大きな額でなければ雑費ですね。レセプト手数料は「支払手数料」を、やはり追加科目で使っています。でなければ、やはり雑費ですね。

(「Yahoo!知恵袋」 2005)

(59)～(74)のような「選択肢の提示」用法である場合は、「主節の望ましさ」について、「否定的」とは言い切ることができないため、「肯定的」に分類している。これらを含め、「上接語省略構文」での「主節の述語の形と望ましさ」の様相を以下の表 3 に示す。

表 3 「上接語省略構文」における主節の述語の形と望ましさ

主節の肯否		主節の望ましさ		合計
肯定形	否定形	+	—	
39 (79.6)	10 (20.4)	31 (63.3)	16 (32.7)	49 (100)

以上から「上接語省略構文」は、「一般的否定条件構文」や「定型的慣用表現構文」「評価的述語後続構文」の意味機能とかなり重複していることがわかる。「デナケレバ」の上接語は、名詞や指示詞、形容動詞語幹などといった非活用の語句を伴いやすいため、上接語との接続関係が解消されやすい。そのため、自立性を持つ「。デナケレバ」の形式も生み出すことができたと考えられる。この自立性を持つ「。デナケレバ」は、前件と後件をつなげる接続語的な役割を果たしているといえる。

4.6 4 節のまとめ

4 節では、「デナケレバ」の構文分析を行い、そのバリエーションを考察した。「デナケレバ」は、「デ」の存在からその上接語は制限があるように予想される。構文ごとの上接語の様子を以下の表 4 にまとめる。

表 4 構文ごとの上接語の様相

	名詞	形容詞	指示詞	準体助詞	その他 ²⁴	合計
一般的否定条件構文	404 (65.7)	31 (5.0)	134 (21.8)	42 (6.8)	4 (0.7)	615 (100)
定型的慣用表現構文	210 (82.4)	26 (10.1)	5 (2.0)	13 (5.1)	1 (0.4)	255 (100)
評価的述語後続構文	46 (73.1)	4 (6.3)	7 (11.1)	5 (8.0)	1 (1.6)	63 (100)
主節省略構文	12 (66.7)	4 (22.4)	1 (5.6)	1 (5.6)	0	18 (100)
上接語省略構文						49
合計						1000

表 4 からわかるように、いずれの構文であっても「デナケレバ」の上接語としては名詞が多い。また、構文ごとの割合は、「一般的否定条件構文」>「定型的慣用表現構文」>「評価的述語後続構文」>「上接語省略構文」>「主節省略構文」の順に並べられる。

構文の性質から見ると、まず、「一般的否定条件構文」の場合、主節の述語は、形式的には否定形 44.5%、肯定形 55.5%で、肯定形のほうが高い。しかし、意

²⁴ 「一般的否定条件構文」では、副詞 2 件（「よほど」）、助動詞 2 件（「(る) ようだ」、「(し) そうだ」）、「定型的慣用表現構文」では、助動詞（「(る) ようだ」）、「評価的述語後続構文」では、助動詞（「(し) そうだ」）の 1 件ずつ見つかри、「その他」と分類した。

味的には「デナケレバ+望ましいことがら」46.7%、「デナケレバ+望ましくないことがら」53.5%で、主節が「望ましくない」ことがらとなる場合がやや高かった。「デナケレバ+望ましくないことがら」となる場合は、主節の述語が否定形であるほか、語彙的な意味そのものが否定的な意味を表す「否定的評価」が表される場合であり、このとき「義務」機能を担うようになる。それに対し、「デナケレバ+望ましいことがら」となる場合は、「仮定+帰結」といった事態間の因果関係を表しながら、「選択肢の提示」機能を持つ場合がある。このとき、「デナケレバ」の主節は名詞述語である場合が多い。

また、「定型的慣用表現構文」の場合は、「デナケレバ」の後部要素としては「ナラナイ」「イケナイ」が後続し、一語化した形式として、「義務」機能に特化している表現である。

「評価的述語後続構文」の場合は、「ナラナイ」「イケナイ」以外に「できない」「意味がない」「だめだ」「わからない」「難しい」「無理だ」といった否定的評価述語が後続している場合である。一方、「デナケレバ」の後部要素として、「よい」「大丈夫だ」「OK」といった肯定的評価述語を用いる場合もある。「評価的述語後続構文」の場合、「デナケレバ」の主節の述語が否定的評価であれ、肯定的評価であれ、形容詞述語を伴いやすい傾向があることがわかる。

そして、「主節省略構文」は、「デナケレバ」の後部要素が欠落している形式であり、主に「定型的慣用表現構文」と同様の意味機能を持つと考える。

最後に「上接語省略構文」は、「一般的否定条件構文」と同様のパターンがみられる。特に、「選択肢の提示」機能を表すときに、文頭で「。デナケレバ」の形で現れるものがある。この場合「。デナケレバ」は、接続語的な役割を果たし、この用法は「デナケレバ」の独自の用法とみなされる。

上述の内容を含め「デナケレバ」をとる複文の主節の様相を以下の表 5 にまとめる。

表 5 「デナケレバ」の主節の述語の様相

	動詞	形容詞	名詞	合計
一般的否定条件構文	447 (72.8)	92 (15.0)	75 (12.2)	614 (100)
定型的慣用表現構文	255 (100)	0	0	255
評価的述語後続構文	18 (28.6)	45 (71.4)	0	63 (100)
上接語省略構文	33 (67.4)	3 (6.1)	13 (26.5)	49 (100)
主節省略構文				18
全体				
				999

5 おわりに―「デナケレバ」の位置づけについて―

本調査の結果では、「デナケレバ」をとる構文は、大きく 2 つに分けられる。まず、「デナケレバ+望ましくないことがら」を表す場合である。「デナケレバ」の主節は否定形であるほか、意味的に否定的評価を表す述語をとる構造となる。このような構文は、全 1000 件のうち 638 件で、6 割以上を占めている。

次に、「デナケレバ」の主節の述語が否定形であれ、肯定形であれ、「デナケレバ+望ましいことがら」となる場合がある。この中には、「条件+帰結」という典型的な仮定条件を表す場合のほか、仮定条件の構造をとりながら「A でなければ B」という「選択肢の提示」機能を持つ場合がある。このときは、「名詞（指示詞）+デナケレバ+名詞述語」となる傾向がみられる。

このように、「デナケレバ」の構文は 2 種類に分けられるが、その割合はそれほど極端な偏りはない。これは「デナケレバ」に限って示した結果であり、否定条件一般「ナケレバ」とは異なる。「ナケレバ」全体では「望ましくないことがら」タイプに大きな偏りがあり、「義務」機能が特徴的となる。「デナケレバ」においても同じであるが、形の肯定、「望ましいことがら」か「望ましくないことがら」かというあるタイプに偏るわけではなく、同程度見られることが

特徴的である。

また、「デナケレバ」は、名詞や指示詞、形容動詞語幹などといった非活用の語句を上接語とするため、上接語の省略ができる。これにより、自立性を持つ「。デナケレバ」の形式を生み出すことができ、この自立性を持つ「。デナケレバ」は、接続語的な用法へまでその機能を拡大していると考ええる。

第 3 章

上接語からみる「デアレバ」の多機能性 —「デアル」との関連性を中心に—

1 はじめに

「デアル」という文末語は、室町時代から現れ、ある時期以降、観察されなくなるが、近世末期に外国語の「翻訳語」として改めて採用されたという（山本 1965）。一方、調査結果を先取りするが、「デアル」から派生して成立した「デアレバ」は、近世以前にはその用例が見られない。では、近世以前に現れる「デアル」の活用形²⁵には、どのようなものが見られるのか。以下にその用例を挙げる。

- (1) 鎌倉殿へ参ッて申しあづかり候はむ。聖、鎌倉殿を世にあらせ奉らんとて、わが身も流人でありながら、院宣うかがうて奉らんとて、
(平家物語(p.469)、鎌倉時代 13 世紀前半頃)
- (2) 能力乙「したたかな鳴りやうであつた。まづわごりよは何であらうと思ふぞ。
(謡曲集、道成寺(p.293)、南北朝時代～室町時代末期)
- (3) 又、かたはらよりは、「物狂ひでありさうな」といふ。
(仮名草子集、浮世物語(p.146)、江戸初期)
- (4) はなしに聞てゐやり申すだんべいが、わしどもが国なぞは、雷がたくさんで、此三十年ばかりも、あとのことであり、申たがふと夏でかく雷がなり申て、
(東海道中膝栗毛(p.114)、江戸後期 1802～09 年)
- (5) くま「左様サ。全体が女のやうなやさしいお子だから、其様に困り

²⁵ コーパス検索アプリケーション『中納言』『日本語歴史コーパス』および「ジャパンナレッジ Lib」で用例調査を行った。

も被成ないやうでありますヨ。

(人情本、春告鳥(p.577)、江戸後期 1836 年)

近世以前に見られる「デアル」の活用形として本節の調査の範囲内で採集できたのは、連用形「デアリ」(「デアリナガラ」「デアリソウナ」「デアリ」「デアリマス/デアリマシタ」) および、促音便のタ形「デアッタ」に限られる。その反面、「デアレバ」に関しては、近世以前には見られない。このことから「デアル」の仮定形「デアレバ」は、近代に入ってから成立したと考えられる。また、類似の条件表現「ナラ (バ)」「タラ」などに比べるとかなり新しいものと考えられる²⁶。

本節では、「デアレバ」の特徴についてその上接語との関係に注目し、記述することを目指す。また、現代日本語における「デアレバ」の条件表現としての位置づけについて考えるため、「デアレバ」の原型「デアル」との関連性について検討する。

次の 2 節では、近世から現代に見られる「デアル」について考察する。特に、「デアル」の上接語に着目し、時代ごとの相違点を把握する。3 節では、2 節と同じ調査方法で近代から現代に至る「デアレバ」について観察する。4 節では、「デアル」と「デアレバ」の連続性について考察を試み、その連続関係として「ノデアレバ」と「バ」節との関係について検討する。最後に 5 節では、現代語における「デアレバ」の分布状況をまとめる。

2 近世・近代における「デアル」

山本(1971)は、指定の助動詞「だ」の活用の歴史的変遷について述べている。それによれば、「デアル」「デア」「ヂャ」「ダ」は「ニテアリ→ニテアル→デアル→デア→ヂャ(関西)/ダ(関東)」という語史的経緯を経て、鎌倉時代

²⁶ 矢島(2004ab)では、近世中期頃に未然形+バが衰退する一方、タラ・ナラ・ト・仮定形+バが伸張することになり、明治末期以降大正期を境として、家庭表見の中でタラが用法領域を広げ、使用率が高めると述べられている。

から室町時代にかけてできたと述べられている。「デアル」は、江戸では「だ」の流行が妨げとなって、流通しなくなったというのが山本の見解である。このように、「デアル」は、中世前期から存在はしていたが、あまり使われず消失した。このことから近世末期以降見られる「デアル」は、外国語の「翻訳語」と位置付けられている（『日本国語大辞典』；山本 1965、1971；柳父 2011；川戸 2012）。

2.1 近世以前に見られる「デアル」の上接語

「デアル」は、その用例が中世前期から確認できる²⁷。

- (6) 大臣殿「見えたる事もなうて、いかゞ頸をばきるべき。さしも奉公の物であるものを。重能まいれ」とめしければ、

（平家物語(p.374)、鎌倉時代 13 世紀前半頃）

- (7) 筆の命毛のつゞく程は、ふみしてくどいておとして見ん」と、ひとり悦ぶを請人聞いて、「コレ留兵ゑそなたは本気であるまいは。

（浮世草子集、野白内証鑑(p.240)、江戸初期から中期）

- (8) たぶんこなたは筆屋どの。そなたは張箱屋、又は組帯屋殿であるべし」と思案しすまして申。

（井原西鶴集、好色一代男(p.157)、江戸中期）

- (9) 御事のみわすれず、郡山へ送りて送られとばかり。つひにその身は野送りのかなしさ。夢ではないか。夢であるかな。夢とはおぼしねさずや」と、

（井原西鶴集、男色大鑑(p.361)、江戸中期）

- (10) 押し開き、母の刀自、泣く / \ また教訓しけるは、天が下に住ま

²⁷ 近世以前の用例収集については、国立国語研究所（2018）「コーパス検索アプリケーション『中納言』『日本語歴史コーパス』（中納言 2.4.4）および「ジャパンナレッジ Lib」で用例調査を行い、その一部用例を採取している。全体用例の統計に関しては、別稿で改めて調査することが求められる。

んもの、ともかうも、入道の仰せは背くまじきことであるぞ。

(近松門左衛門集、心中宵庚申 (p.459)、江戸中期)

- (11) いらざる隣の貨を算て、他の国の大きい自慢、唐詩の白髪三千丈、
広いに縁て個の如く、髭髪までが長いであると、見て来た様なる
国字解。 (滑稽本、浮世床(p.246)、江戸後期)

中世前期に見られる「デアル」は主に、(6)のように「ものを」を伴って述語として働く。近世に入ってから助動詞を伴う場合(7)(8)、終助詞と共に起する場合(9)(10)、引用句の中で現れる場合(11)などが見られる。いずれも終止連体形として概ね文末で述語的な機能を持つことがわかる。なお、これらの用例に見られる「デアル」の上接語は、ほとんどが名詞であり、名詞以外の場合は、形容動詞語幹(7)、形容詞終止連体形に接続した(11)の2件しか見られない。しかし、古代語では、主名詞を持たない連体句というべき準体句の形が一般的であったので、(11)はその残存とみられ、文脈解釈としては名詞に相当すると考えられる。また、(7)の形容動詞語幹も名詞相当のものと見なせる。よって、近世以前の「デアル」の上接語は、名詞または名詞に相当する要素に限られるということがわかる。

2.2 近代²⁸に入ってから見られる「デアル」の上接語

本節で扱う用例は、国立国語研究所(2018)「コーパス検索アプリケーション『中納言』」の「日本語歴史コーパス」(中納言 2.4.4)から収集した。文字列検索で検索語を「である」とし、検索対象を明治・大正時期のコアデータで検索した結果、得られた計992件を調査対象とする。以下の表1に「デアル」の上接語の様相を示す。数字は件数であり、括弧内はパーセンテージを示す。表2以降についても同じである。

²⁸ 「近代」という時代区分の定義は、その観点によって研究者ごとに異なるが、本節では、主に扱っている用例の出典である「明治・大正」時期を「近代」とする。

表 1 近代における「デアル」の上接語

名詞 29	準体 助詞 ³⁰	形容 動詞 語幹 ³¹	助動詞	助詞 32	指示詞	副詞 33	省略 34	合計
528 (53.0)	270 (27.0)	88 (9.0)	45 (5.0)	41 (4.1)	11 (1.1)	4 (0.4)	5 (0.5)	992 (100)

表 1 からわかるように、近代における「デアル」の上接語は、名詞が最も多く、53%を占めている。これは、近世以前の「デアル」の上接語の制約を保持していると考えられる。

(12) 時は既に十一時近くであるのに、白井の教子なる其所の令息は、
未だ臥つてゐるとの事である。

(太陽 1901)

(13) 而して此は男性美を歌ふものとは反対で、専ら優しい性質の詩美
を發揮するのが其特色である。

(「女学世界」1909)

²⁹ 本調査では、「名詞」の分類において「指示代名詞」を除く。

³⁰ 本調査では、「準体助詞」の分類において「の」に限る。

³¹ 本調査では、名詞を連体修飾する際「-な」と活用する場合を「形容動詞」と分類する。

³² 本調査では、「助詞」の分類において「準体助詞」を除く。

³³ 本調査では、「副詞」の分類において「指示副詞」を除く。

³⁴ 本調査では、「である」が上接語を伴っていない場合を「省略」と分類した（表 2 の場合も同様）。「省略」に分類した 5 件は、全て下記の例のような「。であるから～」という形式をとる場合である。

- 1) この様に戦争を防止しようとする国際聯盟の議場は一の競争場である。であるから、国際聯盟は戦争を防止して、即ちこれを制度化する機関である。
(「太陽」1925)

- (14) そしてそれが、所謂本當の意味に於ける愛國心なのである。そしてこれが所謂國際心、インターナショナル・マインドである。

(「太陽」1925)

- (15) 武『恐れながら殿に申し上げます、只今の試合は相打と御覽なされるはお目違ひにございます』忠『然らば何れが勝利であるか』

(「婦人倶楽部」1925)

一方、近世以前には見られなかった名詞以外の上接語が多く見られる。その中で、注目できるのは、全体の 27% を占める準体助詞「ノ」である。近世以前は、「デアル」に上接する語はほとんどが名詞であり、また、上接語のうち述部の形式を取るものは、活用語連体形句のみが見られた。活用語連体句は名詞に相当するものと見なせるため、「デアル」の上接語は名詞あるいは名詞相当のもののみが現れることになる。つまり、近世以前の「デアル」は名詞述語文しか構成できないという制約があるということである。近代の用例では「ノ」の前に、タ形やナイ形、テイル形、ラシイなどが見られる。このことから、「デアル」文は、名詞述語文という制約から、「準体句＋（の）デアル」を介して、あらゆる「文＋の＋「デアル」」へ用法が拡張したと考えられる。

- (16) 人口の多少等の事に關して逆も匹敵すべくも無い事でありますからして自然學術上に於ても甚だしく差別を生じたのである事は疑いなく、

(「太陽」1895)

- (17) 笑ふ勿れ、其額は、引いて行く車夫の月給より、慥に一二圓は少ないのである。

(「太陽」1895)

- (18) 和歌は必ず總ての詩と同じく、想美と詞美と其調和とを具へなければ、和歌でないのである。

(「女学世界」1909)

- (19) 彼れらは其髮の裝飾に其服裝に其聲色に全力を盡して居ることは著しいに違ひ無い。されどかくて彼れらの眞價は益とやみに導か

れるのである。

(「女学世界」1909)

- (20) 又どうして之に教育を受けさせたら可いか、といふ様な問題が氣にかかつて、大層其の爲に心を痛められたものらしいのである。

(「婦人倶楽部」1925)

- (21) 今武藏が打を入れようとしたがト傳の體に少しも隙がない、只爐端に坐つて居るのであるが、それで打を入れる事が出来ない、(中略)

(「婦人倶楽部」1925)

本来「デアル」は、形態的に名詞に接続する（準体句を除き、動詞や形容詞に直接接続できない）という制約がある。しかし、「ノ」を補って、「のである」の形をとることによって、その制約が緩やかになり、あらゆる品詞を述部とする節に自由に接続できるようになる。

3. 近・現代における「デアレバ」

以上の「デアル」の様相を踏まえ、3 節では、近代から現代における「デアレバ」について見てみる。特に、「デアレバ」の上接語に着目し、時代ごとの相違点を把握する。

3.1 調査対象

本節では、近代から現代の「デアレバ」の用例を観察する。用例は、国立国語研究所（2018）「コーパス検索アプリケーション『中納言』」を用い、近代の用例を「日本語歴史コーパス」（中納言 2.4.4）、現代の用例を「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（中納言 2.4）から収集した。

「日本語歴史コーパス」では、文字列検索で検索語「であれば」とし、検索対象を明治・大正時期で検索した結果、全 205 件が見つかった。本調査では、

その中で対象外 6 件³⁵を除いた計 199 件を調査対象とする。また、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」においては、同じく文字列検索で検索語「デアレバ」と検索した結果、全 8760 件が見つかった。本調査では、調査範囲を「書籍（出版）」に絞り、得られた全 2589 件の中で、対象外と分類した 68 件³⁶を除き、計 2521 件を調査対象とする。

3.2 近・現代における「デアレバ」の上接語の変化

3.1 の調査対象から分析した「デアレバ」の上接語の様相を表 2 に示す。

表 2 近・現代における「デアレバ」の上接語の様相

	名詞	形容 動詞 語幹	準体 助詞	助動 詞	指示 詞	助詞	副詞	省略	その 他	合計
近 代	144 (72.0)	27 (14.0)	14 (7.0)	7 (3.5)	4 (2.0)	1 (0.5)	1 (0.5)	0	1 ³⁷ (0.5)	199 (100)
現 代	1492 (60.0)	239 (9.0)	591 (23.0)	56 (2.3)	83 (3.3)	51 (2.0)	0	9 (0.4)	0	2521 (100)

表 2 からわかるように、「デアレバ」の上接語が名詞である場合が最も多いのは近・現代で共通である。また、近代に比べ、現代では準体助詞や指示詞、助詞の場合、その割合が増加していることがわかる。

³⁵ 「対象外」としたものは、慣用句として固定化している「～であればあるほど」5 件、「～頼んであれば」1 件を併せた全 6 件である。

³⁶ 「対象外」としたものは「～であればあるほど」68 件である。

³⁷ 「その他」に分類した用例は、以下の通りである。

- 1) 日露戦争論も随分起つて居る又日露の間は早晩戦争を免れぬであれば、寧ろ今日が最も好時機である吾が軍備は決して敗を取るの虞はないと云ふ論もあり（中略）（「太陽」1901）

まず、助詞の場合を見てみよう。近代期の「デアレバ」の上接語が助詞である場合は、(22)の1件しか見られない。

- (22) 文脈にしてもその通り、漢文流か直譯流かであれば、文の如くに思はれ、現在の日本語の文脈で書けば、あれは俗文であると嘲けられます。

(「太陽」1895)

だが、現代では、(23)～(31)のような「副助詞/複合助詞+であれば」が見られる。この変化は、指示詞の場合³⁸のような全く同じ語例の量的増加とはその意味が異なり、接続可能な機能語の範囲がより多様な助詞類へと拡大していることがわかる。

- (23) もっとも簡単な食味試験のみであれば、実習作業台で行なえないこともないが、厳格な意味の官能審査室は、静かな明るい環境のもとで行なえる施設がほしいことになる。

(『食品学実験実習書』2002)

- (24) 「中止するのは無理としても、あと三日…いえ、せめてあと二日、句章への進軍を遅らせるぐらいであれば、中郎将としての卿の権限で…」

(『中国遊侠伝』2003)

- (25) アロガンスの後頭部の発色がピンク色ぐらいまでであれば、問題なく成功するだろう。

(『カオスレギオン最速攻略本レギオンマスターズガイド』2003)

- (26) 次兄がわざわざ付いてきてくれる家庭環境であれば、実家で支援を受けながらであれば、きっとなんとか子どもを育てていける。

³⁸ 指示詞の場合は、近代では「そう(3件)、こんな(1件)」であり、現代では「そう(82件)、こう(1件)」である。「そう」という同じ語例が量的に増加していることがわかる。

(『弁護士む〜みんなの解決！女の一大事』 2004)

- (27) スポーツの紹介されたさきが、大学、師範学校、兵学校などであれば、「アマ」は、当然の流れともいえる。

(『スポーツマネジメントの時代を迎えて』 2005)

- (28) 口座にどのくらいの資産余力があるのかを確認するだけであれば、これだけで十分です。

(『超活用ネット株で稼ぎまくれ！』 2005)

- (29) また、今、実仁が軍人として新城を迎えている点にも関わりがある。皇族としてであれば、一対一で話すどころか、直接の対話が叶うかどうかすらあやしい。

(『皇国の守護者』 2001)

- (30) 言語に関する知識の学習についてであれば、例えば読解の指導において、微妙な表現効果をもたらす助詞の「も」の扱いが子どもの間で問題になったとします。

(『評価で変わる国語の授業』 2001)

- (31) 「明日、日曜日、出社して残務整理にあたってくれないか」といった重圧になる請求に対してであれば、後者の返答が、少なくとも「お断りします」とキッパリはねつけるより、相手にしてみれば配慮のある表現になるでしょう。

(『親愛なる日本語様へ』 2002)

次に、現代では、近代には見られない「上接語の省略」（上接語を伴わず、文頭で用いられるタイプ）が新しく見られる。

- (32) 安吉がかれの手許を眺め、ごくりと生唾を飲みこんだ。「そら欲しいゅうおますけど」「であればわしのたずねることに答えてもらいたい。それを取っておけ」

(『見えない橋』 2003)

- (33) しかし預貯金等の安全確実な貯蓄商品で、財形年金貯蓄のように

積立式に利用できて、かつ金利も高いという商品は現状では見当たりません。であれば、利子に対して税金を課せられるより、非課税で貯蓄できる方が有利になります。

(『年金はこうしてもらいなさい』 2005)

- (34) しかし彼は、軍人らしく任務と私情をはっきり分けることのできる人物であった。であればこそ、私とも気脈を通じ、病院管理の重責を任せてきたのである。

(『医者井戸を掘る』 2001)

- (35) 「その後は死ぬるばかり」(一休宗純)と言い切ってしまうところに禅の人生観が凝縮している。であればこそ、一度の食事をかけがえのない体験として味わいたい。

(『現代人のための禅問答入門』 2002)

(32)～(35)は、「。デアレバ」は、上接語無しで独立的に現れ、接続詞的な用法を持つ。さらに、(34)(35)「。デアレバこそ」は、固定化した形として「だからこそ」との入れ替えが可能な用法と考えられる。このように、現代では、上述の「副助詞/複合助詞＋であれば」や「上接語の省略」という新しい構造が見えてきている。これは、「デアレバ」の機能がより広くなりつつあるということである。

一方、「デアレバ」の上接語が準体助詞である場合、近代 7%から現代 23%で、大きく増加している。「ノデアレバ」の場合、その連体修飾節のパターンが現代に入ってから多様化している。例えば、近代では、「ノデアレバ」の場合、主に、(36)(37)のように「動詞（＋助動詞ない）＋のであれば」という構造をとる。

- (36) 若し原氏の何等の變動がないと大聲する意味が茲にあるのであれば、勿論政友會そのものは變動しないであらう。

(「太陽」 1909)

- (37) 骸は佛家の所謂地水火風の四大に歸して、其所に何等の形も影も留めないのであれば、死後の虚榮虚譽は、畢竟遺族の虚榮虚譽で、

死者自身には露程の痛痒を感じないのである。

(「太陽」 1901)

だが、現代では、(38)～(43)のように、現代に見られる構造以外にも多様なパターンが見られるようになる。この点が、近代と対照的であるといえる。

- (38) いい大学に行きたいのであれば、可能な限りそれを実現させてみせます。

(『教育再生！』 2003)

- (39) もし、鎌足が、中大兄と世間で思われているような関係を持続しているのであれば当然新羅船団の怪しさを告げていたであろう。

(『役小角』 2002)

- (40) 伯父が五十両の資金を出してくれるのであれば、それを使い果たすまでに掘抜かなくてはならず、

(『天保山夢の川さらえ』 2003)

- (41) あと質問よろしいでしょうか。よろしいのであれば、小学校の皆さんは退席しますが、よろしいですか。

(『緑の地球を子どもたちへ』 2003)

- (42) したがって、それが可能なのであれば、金融政策によってインフレ・ギャップもデフレ・ギャップもない状態を作り出すことが最も望ましいといえる。

(『構造改革論の誤解』 2001)

- (43) だが、いずれ仕事に就くつもりなのであれば、学生時代のうちに自分の進路を決めておくべきではないか。

(『若者はなぜ「決められない」か』 2003)

以上より、「ノデアレバ」形式の連体修飾節の様相を以下の表 3 にまとめる。

表 3 からわかるように、近代の「ノデアレバ」の場合、主に「動詞＋のであれば」の構造しか見られない。現代に至っては、動詞以外の品詞との組み合わせが見られるのはもちろん、動詞の場合であっても、助動詞・補助動詞の接続

した述部語句との承接関係も見られる。これは、「デアル」の場合と並行して、本来「デアレバ」の形態から制約を受ける上接語の範囲が「ノ」を補うことによって、その範囲がより多様に拡大してきた結果と考えられる。

表3 「ノデアレバ」形式の連体修飾節の様相

	動詞						形容詞	形容動詞（な）	名詞（な）	副助詞（な）	指示詞（な）	合計
	本動詞	助動詞「くない」	引用「という」	補助動詞 ³⁹	助動詞「くたい」	その他 ⁴⁰						
近代	5 (35.7)	5 (35.7)	4 (28.6)	0	0	0	0	0	0	0	0	14 (100)
現代	315 (53.3)	51 (8.6)	56 (9.5)	80 (13.5)	23 (3.9)	37 (6.2)	20 (3.4)	4 (0.7)	3 (0.5)	1 (0.2)	1 (0.2)	591 (100)

4 「ノデアレバ」による「バ」節の領域拡張

2 節では、近代に見られる「デアル」が近世に見られる「デアル」に比べ、数的にも機能的にも拡大していくことを確認した。この時期は、翻訳語としての「デアル」の登場と重なる。近世にはあまり使われなかった「デアル」が近代に入ってから多く用いられるようになり、それにつれて「デアル」の上接語の文法要素も多様になる。特に、近代では「デアル」に上接する語の種類が形

³⁹ 「補助動詞」の語例としては、「～ている」62件、「～てくれる」4件、「～ていただく」4件、「～ていく」4件、「～てくる」2件、「～てしまう」2件、「～てくださる」1件、「～てみせる」1件で、全80件である。

⁴⁰ 「その他」に分類したのは、「～くなる/～になる/～となる」11件、「～とする」24件、「～による」2件で、全37件である。

態的に制約されていたが、現代では上接語の種類が「ノ」によって、多様化する。古代語では、主名詞を持たない連体句（無主名詞連体句）ともいえる準体句が発達していたが、連体節に主名詞が必要となる構造の変化が生じ（宮地 2005）、「準体型」の機能は「ノ型」が引き継ぐ形となっている（青木 2005）。

一方、坂井（2015）によると、準体句の主名詞位置に「ノ」が入る過程は、近世後期から近代にかけて大きく進捗したと述べられている。本調査の結果から、近代に入ってから「ノ」の使用率が高くなっていくことも、この歴史的な背景に矛盾しないと考えられる。3 節では、「デアレバ」の用例において「ノ」を補うことによって、「デアレバ」の上接語のパターンがより多様に拡大していくことを確認した。現代の「デアレバ」の用例は、本節の調査範囲においては、近代に比べ数的に増加していく。それと同時に、その上接語のパターンも多様になる。特に、「デアレバ」の上接語の全体の中で、準体助詞「ノ」の割合が近代 7% から現代には 23% まで高くなる。このような「デアレバ」の上接語の変化は、準体句の主名詞位置における「ノ」の使用率が高くなっていった歴史的変化と連動した現象であるといえる。

ここで、現代語における「デアレバ」と「ノデアレバ」の相違について確認するために、有田（2017）の知見を援用する。有田（2017）は、話し手の信念と前件の既定性に基づき、日本語の条件文を分類する。その上で、レバ形式（本節では「バ」節と呼ぶこととする）は「認識的条件文」の前件に出現しにくいと指摘している。しかし、「ノデアレバ」（あるいは、その縮約形の「ンデアレバ」）の形式を構成する場合は「認識的条件文」に現れると述べている。

(44) *明後日出張すれば、今夜準備しないといけない。

(45) 明後日出張するのであれば、今夜準備しないといけない。

（有田 2017: 20-21 引用）

つまり、「ノデアレバ」形式は、本来制限のあった「バ」節の役割を補い、「バ」節の領域を拡張してきたと推測できる。この条件文としての意味用法の推移については、今後の課題である。

5 「デアレバ」形式の多機能性

3.2 で、上接語無しで文頭に現れる「。デアレバ」の接続詞的な機能について触れた（(32)(33)参照）。さらに、「。デアレバこそ」というのは、かなり固定化した形として「だからこそ」と同様の意味用法を持つ接続詞的な用法であることを確認した。

「デアレバ」は、その前件と後件が「デアレバ」に直接接続することが求められる。いわば、接続助詞な役割を果たすということである。しかし、(32)(33)は、その前件に当たる上接語を伴わず、独立的に「。デアレバ」という形で文頭に現れ、本来の機能を離れていることがわかる。このように、「デアレバ」は、上接語無しで独立的に一語化した形として、接続詞的な役割へその機能を拡大している。

次に、「デアレバ」と後続要素がかなり固定化した類も見られる。

- (46) 宿泊していれば嫌でもフロントの前を通るのだから、フロントと顔を合わせるたびに嫌な思いはしたくないもの。ましてや長期間滞在するつもりであればなおさらだ。

（『英語でコミュニケーションできてますか』2001）

- (47) 昔の農村は親代々の住居とストックで生活できていたので、農業生産はランニングに見合う内容であればよかった。

（『「農」の時代』2003）

- (48) 絶対に後悔はさせません」と言うでしょう。私が作る小学校でしっかり学んだ子供であれば大丈夫です。

（『教育再生！』2003）

- (49) ロンドン滞在には個人的に楽しみにしていることがあった。アンティークだ。厳密な意味でのアンティークではなくて私にとっては古くて形のいい家具であればいい。

（『自家中毒』2005）

(46)～(49)は、「デアレバ」と直接的に後続する要素を分離せず、「デアレバ

ナオサラダ」「デアレバヨカット」「デアレバ大丈夫」「デアレバイイ」というように習慣化した形で解釈するのが自然である。この場合は、主に、文末で述語的な役割を果たす。

また、「デアレバ」に後続する要素が省略され、文末で現れる「デアレバ」の場合がある。

- (50) 「いいですよ。わたしの話さえちゃんと聞いてくださるのであれば」「わかった、謝る。如水さまの知らせは、寝吉がもたらしたものだ」と勘違いしていた」幸村は、ついに開き直った。

(『異戦国志』 2001)

- (51) 結果によると、たとえ、「おまえなんかさっさと辞めちまえ！」などという激しい叱り方でも、ときには叱られている当人の利益になることがあるのだという。ただし、“ひと言であれば”という点が重要である。

(『勝つための「心理戦略」』 2001)

- (52) どうだろう、旅は定年後と似ている、と思わないだろうか？ 想念上のこととしていえば、定年後は「毎日が旅行日」であれば、と願わないだろうか？

(『定年と読書』 2002)

- (53) 将来の花嫁が魅力的であるのはけっこう。ただし、僕が求めすぎない程度であれば。

(『シークとプリンセス』 2003)

(50)～(53)は、(46)～(49)のような「デアレバイイ/デアレバ大丈夫」の後部要素「イイ/大丈夫」が省略された形と考えられる。後部要素は省略されているが、「デアレバイイ/デアレバ大丈夫」と同様に意味解釈ができる。

以上より、現代語に特徴的な用法として、接続詞的な「デアレバ」、後部要素がかなり固定化した形としての「デアレバ」、述語的な「デアレバ」の 3 用法が挙げられる。「デアレバ」の上接語は、名詞や指示詞、形容動詞語幹などといった非活用の語句を伴いやすい。上接要素が「文」まで拡大したために、前

文を上接要素として、自立性を持つ「。デアレバ」の形式を生み出すことができたと考えられる。このような文頭で現れる「。デアレバ」は、近代には見られず、現代に至ってから現れる形であって、接続詞的な用法を持つ「デアレバ」の独自用法といえる。

一方、以下のような「であれば＋の＋名詞」という構造をとる用例が見られる。

- (54) また、文化というものは異質な要素を自らのうちに取り込み、同化させることができますが、これは十分な活力を持った文化であればの話です。

(『グローバル化で文化はどうなる?』2003)

(54)は、「デアレバ＋ノ＋名詞」の構造とっており、「話」という名詞を「デアレバ」節が連体修飾している。この連体修飾用法は近代には見られず、現代でも 1 件しか見られない。上述の「。デアレバ」、「デアレバ。」、「デアレバ」の連体修飾用法から、現代の「デアレバ」の分布がより拡張していることが確認できる。

6 おわりに

本節では、「デアレバ」の機能分化について上接語との関連から調査した。まず、「デアレバ」の原型である「デアル」との関連性について検討した。本調査では、「デアル」の上接語の多様化は、「ノ」を補う類型の確立とともにその範囲が拡張してきたことが確認できた。このような「ノ」による上接語の多様化は、「デアレバ」の場合も同様に見られる。「デアレバ」の上接語における「ノ」の割合の増加、「ノデアレバ」の連体修飾節の多様化は、「デアレバ」の上接語の多様化につながり、「バ」節の領域拡張の中で位置づけられる現象であると考えられる。

また、現代の「デアレバ」は、近代よりその分布状況がより多様になっていることがわかる。特に、独立的に文頭で現れる場合は、近代には見られず、現

代に至ってから現れる形である。接続詞的な「デアレバ」の独自用法といえる。その他にも、「デアレバ＋ノ＋名詞」の構造をとる連体修飾用法も見られる。このように、本来、主に条件句として働く「デアレバ」は、現代に入ってからその分布状況がより自由に多様になっており、「接続詞的用法」、述語的用法、連体修飾用法という自立性を持つ用法へまでその機能を分化しているといえる。

第 4 章

現代日本語における「ナキャ」の多機能性について —「ナケレバ」との比較を中心に—

1 はじめに

条件文は、後件（主節）で表される事態の成立が前件（条件節）で表される事態の成立に依存し、かつ、前件が非現実の事態を表す（益岡 1993）。未来の事態、まだ生起していない未実現の事態間の因果関係を表す「仮定条件」は、条件文の最も典型的・中心的な用法であり、その中で、順接条件をなす接続助詞として広く扱われるのが「バ」である。「ナケレバ」は、「バ」の上接述語の否定形であり、「ナキャ」は、通常「ナケレバ」の縮約形として、主に、話し言葉で用いられる。

条件表現「バ」の否定形「ナケレバ」は、主として、動詞の否定形や「無理だ」「むずかしい」などの否定の表現を文末に伴い、あることがらが成立しない場合には、別のことがらも成立しないという意味を表す（グループ・ジャマシイ 1998）。また、「ナケレバ」は現代日本語の代表的な義務表現である「ナケレバナラナイ」「ナケレバイケナイ」の前項部となり、主述揃った後件を伴わない形を構成することができる。また、「ナケレバ。」のように後項部を伴わず、前項部単独で述語をなすこともできる。以上に示した文中・文末での「ナケレバ」の用例を以下に挙げる。

- (1) いくら貧しい人を助けても政治のあり方を変えなければ、意味はない、とマザーを批判した人もいるらしい。

（『インド』 2004）

- (2) デジタル放送の話は、いつの間にか「だから受信料をしっかりと集めなければ」という主張にすりかわっていく。

（「週刊現代」 2004）

(1)(2)はともに意味上「ナキヤ」と矛盾なく置き換えができる。では、「ナケレバ」と「ナキヤ」は同様の機能を持つ形式として相違点はないのだろうか。本節では、「ナキヤ」の用法を文中の位置や上接要素に着目して統語的に検討し、「ナケレバ」との比較を通じて、現代日本語における「ナキヤ」の用法をまとめる。これにより、「ナケレバ」と「ナキヤ」の相違点を明確に記述するとともに、「ナキヤ」に独自の用法と、制約があることを示す。

2 条件句における統語的観点の必要性

「ナケレバ」に関する研究は、義務表現「ナケレバナラナイ」に着目したものを中心に多くの蓄積があるが、「ナキヤ」に特化した記述は管見の限り見られない。「ナキヤ」は「ナケレバ」の縮約形という位置づけに留まっている。

「ナケレバ」句の用法については、上述の(1)(2)のように、文中での位置（文頭か、文中（従属節末）か、文末か）によって意味用法が分化していると考えられる。

このような統語的観点から条件句を包括的に言及しているものとして、国立国語研究所（1964）がある。国立国語研究所（1964）では、条件句一般の基本的用法として、陳述的用法（すればいい）、前置き（たとえば）、客観的用法（条件と呼ぶのが最もふさわしい、きっかけ、因果関係、前提など）と大きく3つに分類する。先に見た(1)は、客観的条件に相当する基本的用法となるが、この他に、陳述的用法、前置き用法を条件句一般の基本的用法と見ている点で特徴がある。

前田（2009）は、国立国語研究所（1964）を踏まえ、「レアリティ」の観点から「仮定的用法」「非仮定的用法」「非条件的用法」の3つに大別している。特に、「非条件的用法」は、仮定性も因果関係も持たないため、「条件」とは別個の表現として捉えるのが適切だと述べる。「非条件的用法」はさらに、「並立・列挙」「評価的用法」「終助詞的用法」「後置的用法」「接続詞的用法」に分類できると指摘している（前田 2009）。

条件句一般の広がりを考える上で、このような統語的な観点からの観察は必要である。基本的用法か否かを考える際には、前田（2009）のように、本来の

仮定条件の機能の有無に着目するのが有効であると考え。前田（2009）の分類に従うと「ナケレバ」の(1)は仮定的用法、(2)は非条件的用法の「終助詞的用法」に相当するが、「ナキャ」についても条件句一般の用法分化に即して、文中位置や共起する要素の偏りによって意味用法が分化していることが予想される。さらに、筆者は「ナケレバ」と「ナキャ」の関係は同等とは思えない。「バ」節一般と比較した「ナケレバ」の研究⁴¹や「ナケレバ」と比較した「ナキャ」の観察、記述の必要があると考えられる。

3 調査概要

本研究では、国立国語研究所（2018）「現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）」（BCCWJ・NT1.1）を用い、「コーパス検索アプリケーション『中納言』（2.4）」によって検索を行った。「ナケレバ」「ナキャ」ともに非コアデータを含む「出版・書籍」を調査対象とする。文字列検索を用い、検索語「なければ」を指定した結果、全 15,642 例が検出された。本調査では、その中で表示順 1000 件を調査対象とした⁴²。また、「ナキャ」の場合、検索語「なきゃ」を指定した結果、計 878 件を調査対象とした。

4 調査結果の分析 — 「ナケレバ」との比較を中心に —

本節では、前田（2009）の条件文の分類に従い、条件的用法と非条件的用法に分けて分析を行う。また、条件文の分類による「ナケレバ」と「ナキャ」を観察し、両者の相違点を比較する⁴³。

⁴¹ この考察については、第 1 章で整理した。

⁴² 本来はランダムに並べ替えて抽出するべきではあるが、1000 件の詳細は、総記（85 件）、哲学（214 件）、歴史（177 件）、社会科学（524 件）にまたがっており、特定のジャンルに偏った傾向にはならないと考える。全件を対象とした調査は今後の課題とする。

まず、「ナケレバ」と「ナキャ」の用法分布の概要を以下の表 1 に示す。数字は件数、括弧内はパーセンテージを示す。表 2 以下についても同様である。

表 1 「ナケレバ」と「ナキャ」の用法の様相

	条件的	非条件的				合計
		評価的	終助詞的	接続詞的	並列・列挙	
ナケレバ	217 (21.7)	762 (76.2)	10 (1.0)	1 (0.1)	10 (1.0)	1000 (100)
		783(78.3)				
ナキャ	150 (17.0)	548 (62.4)	159 (18.1)	18 (2.1)	3 (0.4)	878 (100)
		728(83.0)				

「ナケレバ」の場合、条件的用法は 21.7%であり、非条件的用法は 78.3%を占めている。「ナケレバ」の非条件的用法としては、「評価的用法」が 76.2%で最も高く、「終助詞的用法」と並列・列挙が各 1%、「接続詞的用法」は見られるが 0.1%に過ぎない。「ナキャ」の場合、条件的用法は 17%であり、非条件的用法は 83%で、非条件的用法に偏っており、「ナケレバ」より偏りの度合いが僅かに高いことがわかる。また、「ナケレバ」より「終助詞的用法」と「接続詞的用法」の割合が高いのが特徴的である。このように、「ナケレバ」と「ナキャ」においては、条件的用法より非条件的用法の割合が高いという点は共通する。ただ、その分布状況にはばらつきがあるように見える。次節からは、用法ごとに検討しつつ、両者の相違点について記述する。

なお、非条件的用法の内、「並列・列挙」については、ナケレバ 1%、ナキャ 0.4%と、ともにごく僅かである。(3)(4)のように、「(デ) モ (…) ナケレバ (ナキャ) ～ (デ) モナイ」という固定化した形式をとる。「ナケレバ」「ナキャ」

⁴³ 前田 (2009) では、「非条件的用法」には、「後置的用法」があるとしている。本調査の結果では、「ナケレバ」と「ナキャ」のいずれも「後置的用法」は見られなかった。

の差異も見出しがたいため、本節では扱いを保留する。「並列・列挙」用法と、他の用法との関係性も含め、今後の課題としたい。

- (3) どこかで誰かが、陰口をたたいているような、いやな夢をみたこともあった。これも運命でもなければ、宿命でもない。偶然の重なった出来ごとにすぎないと思う。

(『負けてたまるか車椅子』2001)

- (4) しかもその後退が更に白伊といどまれてまたまた後退を余儀なくされるのだ。金もいらなきゃ、名もいらぬ、わたしや隅の地が欲しい、なんて暮じゃいつまでも手はあがらんね。

(『置碁の戒め』2005)

4.1 条件的用法 —主節の「形」と「望ましき」—

宮部（2014）は、ト条件節においてスルト節かシナイト節か、すなわち肯定形か否定形かにおいてその用法が異なることを指摘する。具体的には、主節に「望ましくないもの」をさしだす用法が、否定形シナイト節の場合に偏ることを示している。宮部（2014）では、シナイト節の従属複文において、主節を「形」だけではなく意味的な「望ましき」という観点から分析してその偏りを見出している。本調査では、この観点に基づき、「ナケレバ」と「ナキャ」の従属複文の主節を分析する。その結果を以下の表2にまとめる。

表2 「ナケレバ」と「ナキャ」の主節の様相

	主節の形		主節の望ましき		合計
	肯定形	否定形	肯定的	否定的	
ナケレバ	88 (39.0)	129 (61.0)	52 (24.0)	165 (76.0)	217 (100)
ナキャ	58 (39.0)	92 (61.0)	3 (2.0)	147 (98.0)	150 (100)

表 2 で明らかなように、「ナケレバ」と「ナキヤ」の従属複文の主節は、形式的に否定形である場合が 6 割以上であり、主節のことがら全体の望ましさにおいても、否定的となる場合に偏っている。

特に「ナキヤ」は、主節のことがら全体で否定的となる場合が 98% で、ほぼ全体を占めていることがわかる。主節事態の望ましさが否定的なものが現れやすいという点では「ナケレバ」の場合も同様ではあるが、「ナキヤ」の場合に、より際立っている。以下に「ナキヤ」の例を示す。(5)(6)に「ナキヤ」の例を示す。

- (5) まっとうな時代の価値観は、つねに、際だった独創性とプロフェッショナリズムが手をたずさえなきや、発展しませんから。

(『これでいいのか、子どもの本!!』2001)

- (6) でもあまり安眠妨害されると実力行使をせざるを得ないし、彼等だってお医者さんになれなきやあ親御さんだってガッカリするだろうしねえ、どうしましょうか? って言ってたよ。

(『脳のことなど話してみよう』2003)

- (6) 天の見ていた占いは当たるらしい。きっと全国津々浦々の山羊座が今頃トラブルに遭遇しているはずだ。そうでなきや、ちょっとむかつく。

(『エロティック・パフューム』2003)

- (7) 音楽はまったく個人的なものなんです。もちろん、どこかへ行って指揮するとか、お客もオーケストラもなきや、音楽会は成り立たないとかいろんなことがあるんですけども、根本的には非常に個人的なものです。

(『同じ年に生まれて』2004)

- (8) 「マリー、私にもパパとママがいるの。あの世界に置いてきた、っていうか、あの世界でなきや、生きられない人たち。その人たちのためにも帰らなくちゃ。帰って、この世界に生まれ出るにはほど遠い、私たちのところをなんとかしなくちゃね」

(『ユカのこころの旅』2005)

一方、割合としては 2%に過ぎないが、「ナキャ」を受ける後件が肯定的な場合がある(9)。

- (9) 「この状況、どう見る?」「恐らく人員は囷だろうね。こちらに光火兵器を使わせたいんだろう。囷じゃなきや、まずは有機衛星同士をある程度交戦させてから転送するのが自然だし」

(『ルナティック・ムーン』 2005)

(9)は、「囷ではない」という仮定的な事態に対して、話し手の「有機衛星同士をある程度交戦させてから転送するのが自然だ」という判断が示されている。意味的な観点からは、否定的とは判断しがたい。このような用例は 3 件しか見られず、極少数である。このように、「ナケレバ」と「ナキャ」の両者は、偏りの度合いの差はあるが、「否定的なことがら」を表す主節を導きやすい傾向がある点では同様であり、「ナキャ」はよりその傾向が著しいことがわかる。このことから、条件的用法において「ナキャ」は、「否定的なことがら」を表す主節を導くことに特化した形式といえる。

4.2 非条件的用法 (1)「評価的用法」

4.1 では、「ナケレバ」と「ナキャ」の条件的用法について見たが、本節からは、非条件的用法について検討していく。

まず、最も割合の多い「評価的用法」から見よう。前田(2009)では、「評価的用法」について次のように定める。すなわち、条件接続辞「イイ」が付属した「スレバイイ/シタライイ/スルトイイ」や「ナラナイ/イケナイ」などが付属した「ナケレバナラナイ/シタライケナイ/シナイトイケナイ」のように、評価のモダリティ形式を後接して文末に出現し、当為的意味を表す場合を「評価的用法」としている。

また、高梨(2010)では、事態を受ける接続形式「～ト、～バ、～タラ、～テハ、～テモ、～ハウガ」と「イイ/イケナイ/ナラナイ」などの評価形式が複合したものである場合を「評価的複合形式」としている。このような「評価的

複合形式」は、内部の構成要素の独立度が高いが、全般的に文法化の度合いが低いという（高梨 2010）。このことは、「評価的複合形式」の認定の問題につながる。つまり、「イイ/イケナイ/ナラナイ」に近接した意味を表す場合、例えば「大丈夫だ/だめだ/困る」などは「評価的複合形式」に含められるのかという問題がそれである。

本節では、慣用表現の典型的な後部要素「イイ/イケナイ/ナラナイ」とそれらに隣接した表現を含めて「評価的用法」の用例として分類した。本調査の結果としては、「いい」に隣接した表現は見られず、「いけない/ならない」に隣接した表現は多様に見られた。以下にその様相を詳述する。

「ナケレバ」:「だめだ(5)」「意味がない(2)」「おかしい(2)」「できない(2)」「わからない(2)」「無理だ(2)」「無効だ(1)」「無意味だ(1)」
(異なり 8 種類/延べ 17 件)

「ナキャ」:「だめだ(54)」「わからない(10)」「困る(5)」「嫌だ(4)」「損(4)」「おかしい(3)」「できない(2)」「まずい(2)」「無理だ(2)」「悪い(2)」「意味(が)ない(2)」「危ない(1)」「しょうがない(1)」「つまらない(1)」「おかしい(1)」「仕方がない(1)」「嫌いだ(1)」
(異なり 17 種類/延べ 96 件)

また、矢島（2008）では、「評価的複合形式」の当為表現において、「いい」を「適当」表現、「イケナイ」などを「不適當」表現と分類している。本調査では、それに従って分類を行う。「ナケレバ」と「ナキャ」と上述の「ナラナイ/イケナイ」の隣接表現を含めた「評価形式」との組み合わせの様相を以下の表 3 に示す。

表 3 の結果を見ると、「ナケレバ」と「ナキャ」はともに、「適当」より「不適當」を表す「評価形式」との組み合わせが多いことがわかる。「不適當」を表す場合、「ナケレバ」は、「ナラナイ」との組み合わせが 9 割以上で圧倒的に多いが、「ナキャ」は、「イケナイ」と「ナラナイ」への偏りは顕著ではない。

表 3 評価形式との組み合わせ⁴⁴

	適 当		不 適 当			合 計
	イイ	隣接表現	イケナイ	ナラナイ	隣接表現	
ナケレバ	6 (1.0)	0	26 (4.0)	590 (92.3)	17 (2.7)	639 (100)
ナキャ	19 (4.0)	0	201 (42.3)	159 (33.5)	96 (20.2)	475 (100)

【「ナケレバ」】

- (10) 刺激があれば、環境がよければ発達するのに十分だというわけではなく、本人自体のなかに準備ができていなければならないのだという。発達には、内部の変化、内部のレデネスを必要とする。

(『介護福祉士養成講座』2001)

- (11) 父なる神からすべてを受けて生きているのだから、最も個人的な恵みでさえ、父がすべての子供たちのために与えたのだと考えなければならない。

(『自由世界の解放の神学序説』2001)

【「ナキャ」】

- (12) 「一昨日とはゴンドラの位置が違うんだよ。昨日は午後から雨だったから、作業自体が行われていない。いずれにしても、百一号室を撮影するとしたら、ゴンドラから思いっきり身を乗り出して、

⁴⁴ 表 3 では、「不適當」を表す「評価形式」である「イケナイ」と「ナラナイ」の様相を示す。その他に見られるバリエーションは以下の通りである。

「ナケレバ」:「いけません(6)」「いかん(3)」「なりません(86)」「ならず(20)」「ならぬ(5)」「ならん(1)」「なるまい(1)」「なれない(1)」(全 123 件)

「ナキャ」:「いかん(14)」「いけねえ(4)」「いけません(3)」「いかんです(1)」「ならん(18)」「なんない(13)」「ならねえ(11)」「なりません(5)」「なんねえ(3)」「なるめえ(1)」(全 73 件)

半分宙づりになるような体勢をとらなきゃならない。そんな状態でカメラを構えるなんて、まず無理だ」

(『ダミーフェイス』 2001)

- (13) ほかにやつらを何とかできる人間がいるとしたら、このぼくしかない。だったら、ぼくがやらなきゃいけないんだ。

(『トロール・フェル』 2005)

また、「ナキヤ」は「ナケレバ」と異なり、不適當を表す「評価形式」に相当する形式との組み合わせが多様に見られる点は注目に値する。

- (14) 「ありがとう、助かります。わたしたちも、コロンバスに…」「来てもらわなきゃ困るさ。そのためにあたしたちに連絡をよこしたんだろ」

(『ニコチアナ』 2001)

- (15) 「思い上がりもはなはだしいわ！ 1人で政府と戦う？ バカじゃないの？ そんなの無理に決まってるじゃない」「やってみなきゃわからないよ」

(『撃破！ 日本消滅計画』 2002)

- (16) 「こいつ、おまえ、不良高校だな、学校はどこだい」「あんたには言えない。ちゃんとまともな警官じゃなきゃいやよ。あんたなんか、クビだよ」

(『はだかの少女』 2003)

- (17) 手術は嫌だが、痛いのを一週間位我慢すれば、その後は普通に生活できる。これから先何年生きられるか分からないが、痛い思いをした分は生きなきゃ損と、頑張れるかもしれない…。

(『癌借金妙な狂詩曲』 2004)

- (18) 「朝っぱらから浮かれてるからだ。猫は言葉を話せないから、人間がちゃんと面倒をみてやらなきゃだめだ。しっかり奉仕しろ」

(『家政夫様には逆らえません』 2005)

- (19) そういうタイプのプレイヤーだっているってことなのよ。そうい

う人たちに対しては、ゲームもそれなりの対応をしなきゃおかしい。そうじゃない？

(『クラインの壺』2005)

(14)～(19)のように「ナキャ」は「ナケレバ」に比べ、「困る」「わからない」「いや(だ)」「損(だ)」「だめだ」「おかしい」など多用な「評価形式」と結びつきやすいということかわかる。このことから「ナケレバ」は「ナケレバナラナイ」という形式に一語化し、文法化が進んでいるが、「ナキャ」は後部要素との組み合わせの固定度が「ナケレバ」より弱く、形態的に独立性が高いといえる。

4.3 非条件的用法(2)「終助詞的用法」

次に、主節を伴わず、従属節が単独で現れる場合を観察する。このような場合を「終助詞的用法」という。表1で確認したように、「ナケレバ」は、計10件で1%に留まるが、「ナキャ」は、計159件で18%以上を占めている。

- (20) 時代は変わっても親は親、子は子。親と子の縁を大事にしなければ。ホトケサンを大事にすると先祖の顔に泥を塗らないように生きるようになる。

(『位牌分け』2001)

- (21) 「解けない謎なんてないよ。だから元気を出そうよ。しょげてたらあいつらがよろこぶだけなんだから」「そうね。元気を出さなきゃね。娘と母にもへんに思われちゃうわね」

(『剥がし屋』2001)

- (22) 「お父さんもお母さんも、働かないで妹叩くから、ワタシが助けなきゃって思った。シンナーもやめて、一生懸命働いた。でも、ぜんぜんオカネ足りない」

(『真夏の夜の夢』2005)

(20)～(22)のような文末で用いられる「ナケレバ」と「ナキヤ」は、4.2 での「評価的用法」のうちで、「不適當」を表す「評価形式」の省略形と考えられる。藤井（2013）では、日本語の条件表現において、右端（発話末）が語用標識化・談話標識化の温床となりやすくなっていると述べている。「ナケレバ」「ナキヤ」の「終助詞的用法」も、「ナケレバ」「ナキヤ」それぞれが語彙標識化・談話標識化したものであるとすることができる。

また、藤井（2008）では、「～ナイト」「～ナケレバ」「～ナキヤ」「～ナクテハ」「～ナクチャ」で完了する前件発話について言及している。これらの形式は當為的「義務」機能が定着している事例等、本来従属節である条件構文の前件節が単独で独立節構文として用いられ、語用標識化しているとしている。(20)～(22)は、話し手が聞き手に対して「ある行為を促す」働きかけが窺え、談話機能としての「働きかけ文」であるといえる。ただし、(22)は働きかけの相手が聞き手ではなく、話し手自身である点では(20)(21)とその性質が異なる。だが、「働きかけ」の相手が聞き手であれ、話し手自身であれ、ある行為の「働きかけ」機能がみられるということは共通する。特に「ナキヤ」の場合では、(21)のように終助詞「ね」との接続が見られる。このことから「働きかけ」を強調すると同時に独立的な文末形式として働いていることがわかる。

このような「働きかけ」機能を持つ「終助詞的用法」は、主節を伴わず、従属節単独で現れる。この用法は表 1 で確認したように、「ナケレバ」では計 10 件で 1%に過ぎないが、「ナキヤ」では計 159 件 18%以上あり、「ナケレバ」より高い割合を示す。4.2 では、「ナキヤ」が「評価形式」に隣接した表現との組み合わせが多様に見られることについて、「ナキヤ」の形態的独立性に起因するということを指摘した。後部要素の有無と関係なく、単独形式として現れる「終助詞的用法」において、「ナケレバ」より「ナキヤ」が顕著である要因も「ナケレバ」より「ナキヤ」の形態的独立性が高いためであると考えられる。

4.4 非条件的用法（3）「接続詞的用法」

「ナケレバ」と「ナキヤ」には、文頭で独立的な句として用いられる場合が

ある。これを「接続詞的用法」⁴⁵と言う。この用法は、「ナケレバ」では1件で0.1%に過ぎないが、「ナキヤ」では18件で2.1%であり「ナケレバ」より多く見られる。

- (23) どこからかカネが入ってきているのである。でなければ、こんな
厳しい経済状態でなければ、そんなことができるわけがない。

(『これでも議員ですか』2001)

- (24) だれかにとって納得できないものであったにせよ、なにかの参考
にはなるのではないか。でなきや、書く意味はない。

(『週末バーテンダーのすすめ』2002)

(23)(24)のように、文頭で現れる「ナケレバ」と「ナキヤ」は、単独ではなく必ず「デ」を伴うということが特徴的である⁴⁶。藤井(2013)では、発話冒頭で使われる条件関係の意味範疇について、「ナラバ」「ダッタラ」「デシタラ」「ダト」「デスト」「ト」「ナラ」「デハ」「ジャ」などを挙げる。これらは、本来非自立的に用いられる断定辞「だ」や節接続形態素が、発話冒頭でむき出しで自由標識的に使用されているものと位置付けている。

藤井(2013)では、発話冒頭で使われる「ナキヤ」に関して直接的な言及はない。しかし、藤井(2013)の挙げる、断定辞を伴った条件句が発話冒頭に用いられるものの語例として位置づけられると考えられる。また、「接続詞的用法」の標識化のプロセスに関して、藤井(2013)では、「ソウナラ」「ソレナラ」

⁴⁵ 本調査では、接続詞的用法の判定において、上接語を伴わずに文頭に現れる場合のみを接続詞的用法とする。以下の用例のように、文頭に現れても上接語を伴っている場合は、「条件的用法」として扱う。

- 1) 神でなければ、その契約は神との契約にならないのですから、

(『ユダヤキリスト・イスラム集中講座』2004)

- 2) これは化物だ。逃げなきや、食われっちまうぞ

(『新釈水滸伝』2001)

⁴⁶ 「ナキヤ」の場合、「。ジャナキヤ」という形式も2件見られる。

の使用基盤から「ナラ」へ、「ソウダトシタラ」から「ダトシタラ」、「ソウスルト」から「スルト」へ、というふうに、合成的な指示詞照応型の談話での使用が基盤となっているという仮説を立てている。「ナケレバ」「ナキヤ」においても、「ソウデナケレバ」「ソウデ（ジャ）ナキヤ」のような指示詞を上接語とする用例が見られ、藤井（2013）の仮説が適用できる可能性がある。

- (25) 普通の人間なら、だれでも心の奥にロマンチックな感性というものがひそんでいるはずです。そうでなければそもそもだれかを好きになったりすることなどあり得ません。

（『好きな人と最高にうまくいく本』2001）

- (26) 「本気さ。だってこの死返玉にどんな力があるのか、見極める必要があるじゃないか。そうじゃなきゃ、この玉は使えない」

（『一千年の陰謀』2002）

しかし、談話標識化のプロセスについては、共時的データの分析に基づく一般化は避けるべきである（藤井 2013）。「ナケレバ」「ナキヤ」の「接続詞的用法」の標識化の原因についても共時的なデータの分析からは判断しがたく、「指示詞の脱落」という説に限るのは難しい。ただし、本調査では指示詞を上接語とする場合、必ず「ソ」系の指示詞のみが現れ、「コ」系や「ア」系の用例は見られなかった。これに加えて、「デ（ジャ）」を伴う文頭の「ナケレバ」「ナキヤ」は、「体言性を持つ上接語」と生起しやすい。この上接語が省略でき、「接続詞的用法」を持つようになる可能性も併せて検討する必要があると考えられる。

また、前田（2009）は、「接続詞的用法」を、「ソ」系の指示詞や、後置詞的用法と同じく形式化した動詞を伴って、一つの接続詞的な機能を果たす形式となるものと定義する。その例として「考えてみれば」「何とすれば」「できれば」「聞けば」「思えば」「どちらかと言え」「そう言え」などを挙げている。これらは、すべて上接語を伴う場合である。これに対して、「ナケレバ」「ナキヤ」の場合、上接語を伴わず、「。でナケレバ（ナキヤ）」という自立的形式を生み出すことができる。

このように、形態的独立性が高い「ナキヤ」は、文末では「終助詞的用法」

を果たし、文頭では「接続詞的用法」を果たす、というようにその機能が多様になる。その現象は「ナケレバ」「ナキャ」に共通するが、「ナキャ」において「ナケレバ」より顕著であるということが確認できる。

4.5 4 節のまとめ

4 節では、否定条件形式の「ナケレバ」と「ナキャ」の用法について検討した。大きく、「条件的用法」と「非条件的用法」に分けて調査を行った結果、「ナケレバ」と「ナキャ」はともに、「非条件的用法」への偏りが大きいことがわかった。「非条件的用法」は、「評価的用法」「終助詞的用法」「接続詞的用法」「列挙・並立」に 4 分類される。「評価的用法」では、「ナケレバ」と「ナキャ」は、「不適當」を表す評価形式と共起しやすい。特に「ナキャ」は、「不適當」と表す「評価形式」に隣接した表現との結びつきが多様に見られる。これは、「ナキャ」の形態的独立性が高いということに起因する。このことは、従属節単独で現れる「終助詞的用法」において、「ナケレバ」より「ナキャ」が顕著である要因に持つながる。

また、文頭の独立的な句として用いられる場合では、必ず「デ」を伴うということが特徴的である。この点については「デナケレバ（ナキャ）」が、その形態上、非活用の上接語と生起しやすいことが 1 つの要因として挙げられる。その上接語が省略された場合、「デ（ジャ）」を残した形で「接続詞的用法」を持つようになると考えられる。

5 おわりに

本節では、文の位置による「ナキャ」の用法を統語的に検討するにあたって、「ナケレバ」との比較を通じて述べてきた。「ナケレバ」と「ナキャ」はともに、「条件的用法」より「非条件的用法」に偏っているが、その偏りは「ナキャ」においてより著しい。「ナケレバ」においては、「非条件的用法」の中で圧倒的に高い割合を見せるのは「評価的用法」である。この点は、「ナキャ」も同様であるが、「評価形式」との組み合わせの様相においては異なりが見られる。「ナ

ケレバ」は「ナケレバナラナイ」という形式で固定化、一語化している傾向が見られるが、「ナキヤ」は、後部要素との固定度は低く、形態的独立性が高い。言い換えれば、「ナキヤ」は後部要素の有無や制限が「ナケレバ」より緩やかであり、単独形式としての機能がより自由であるといえる。「接続詞的用法」において「ナケレバ」は極小数であるが、「ナキヤ」のほうがより高い割合を見せる。この点についても、「ナキヤ」が形態的により高い独立性を有しているため、単独形式として文頭でも用いやすくなったのではないかと考えられる。

一方、「ナケレバ」「ナキヤ」の用法の広がりという点においては、本節で記述した他にも、新しい用法が見られる。調査範囲を拡大し、BCCWJ の全ジャンルを検索対象とすると、以下のような用例が検出された。

(27) 「(中略) もちろん、これ以上私を引き止めておく理由があなたに
なければの話ですけど」

(『わが愛しのワトスン』 1992)

「ナケレバ (ナキヤ)」は、従属節として主節を連用修飾するのが本来の用法である。(27)は、主節を伴わず、従属節単独で現れ、「ノ」を介して名詞を修飾する「連体修飾用法」である。この「連体修飾用法」は、ほとんどの場合、「ナケレバ (ナキヤ) ノ話」という用例であり、「ナケレバ (ナキヤ)」が修飾する名詞は、かなり制限された範囲に限られる⁴⁷。「ノ」を介して名詞修飾する場合、「ノ」に上接できる品詞としては、名詞 (名詞 + 格助詞)、副詞、第三形容詞 (村木 2000) などが考えられる。これらの品詞は、「非活用語」であり、「だ」を伴って述語的用法を持つことができるという共通点がある。この共通点は「ナケレバ (ナキヤ)」においても同様に認められる。一方で、この連体修飾用法は、「ナケレバ (ナキヤ) ノ」に限らず、他の条件句にも見られる現象である⁴⁸。

⁴⁷ 「ナケレバの」は全 17 件で、すべての用例が「ナケレバの話」である。「ナキヤの」は全 2 件で、「ナキヤの話」1 件、「ナキヤの一心」1 件である。

⁴⁸ 例えば「ナラ」に以下のような用例が見られる。

3) ここが終わってる ならの話ですけど (『魔女とプレイボーイ』 2004)

条件句の用法拡大の観察において、このようなこの連体修飾用法に関する記述はなされていない。しかし、上の言語事実を踏まえれば、条件句一般に獲得しやすい用法であるのか、それとも非条件的用法を経由した、形態的独立性を要件とする機能拡大なのかについては検討の余地があると考えられる。本節では、現象の指摘に留まるが、このような連体修飾用法への拡大についても、現代日本語における条件形式の諸用法を考える上で重要な一事例になると考える。

第 5 章

否定条件形式「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」 —その縮約形との比較を中心に—

1 はじめに

グループ・ジャマシイ（1998）は、「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」について以下のように記述している。

「ナケレバ」

主として、動詞の否定形や「無理だ」「難しい」などの否定の表現を文末に伴い、あることがらが成立しない場合には、別のことがらも成立しないという意味を表す。「... なくては... ない」とも言う。話しことばでは「なけりゃ」「なきゃ」の形も使われる。

「ナクテハ」

文末に動詞の否定形や「無理だ」「難しい」などの否定の表現を伴い、「そうでなければ... は不可能だ」という意味を表す。前の節で述べることからの実現を望んだり、それが必要だということを言いたい場合に使う。「なくては」は「なかったら」「ナケレバ」「ないと」で言い換えられることが多い。くだけた話しことばでは「N/NA じゃなくちゃ」「A-く/V-なくちゃ」となる。

「ナイト」

文末に「遅刻する」「むずかしい」などのマイナス評価の内容を表す表現を伴って、あることがらが成立しない場合には好ましくない事態が起こるという意味を表す。「... ないと」の部分で述べたことがらを促したり、そうしたほうがいと忠告を与えたりする場合に使うことが多い。

上述の記述では、「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」の 3 形式は、ほぼ同様の機能を持ち、その相違点はあまりないように見られる。そうであるとすると、

これらの3者は、同様の機能を持つ形式として全く同じ働きをするといえるのだろうか。また、運用上では、「ナケレバ」「ナクテハ」は、主に話し言葉で使われる縮約形「ナキャ」「ナクチャ」の形との置き換えが矛盾なく可能であるが、その基本形と縮約形の関わりについてどのように説明がつけられるのだろうか。

本節では、「ナケレバ（ナキャ）」「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」の用法を文中の位置や上接要素に着目して統語的に検討し、基本形と縮約形との比較を試みる。これにより、現代日本語における否定条件形式「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」の用法をまとめる。

2 否定条件形式の意味機能の様相：本節第4章より

現代日本語の仮定形による条件文は、未実現の事態間の因果関係を表すのが中心的用法である。ところが、前件である条件節末の機能が「条件」でない場合がある。第4章では、「ナケレバ」の縮約形「ナキャ」が「ナケレバ」に見られる機能を同様に持つことを指摘した。一方で、両者の関係は全く同等とは言えないと指摘し、文中の位置関係という観点から機能の分類を行い、機能の相違について考察した。その結果、非条件的用法（前件で示された条件によって後件の内容が成立するという「条件的用法」に対して、前件・後件が「条件」という関係で成立しているとはいえないもの）への参与という点では、「ナケレバ」は非条件的用法のうち「評価的用法」（「ナケレバ」の直後に評価を表す語句、またはそれに類する意味を表す語句を伴う用法。詳細は後述する）に偏っていることがわかった。それに対し、「ナキャ」は非条件的用法全般への参与度が高いことから「ナケレバ」より形態的独立性が高く、単独形式として文中や文末、文頭に現れやすいことがわかった。これにより、「ナキャ」は、条件句一般の用法分化に即して、文中位置や共起する要素の偏りによって意味用法が分化していることが確認できた。

本節では、上述の「ナケレバ（ナキャ）」の調査結果に基づき、その類似表現である「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」との比較調査を行う。また、縮約形を含むこれらの3者の用法を検討した上で、現代日本語における否定条件形式の多機能性とその相違（対立関係）について記述することも目的とする。

3 調査概要

本調査では、国立国語研究所（2018）「現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）」（BCCWJ-NT1.1）を用い、コーパス検索アプリケーション「中納言」（2.4）によって検索を行った。非コアデータを含む「出版・書籍」を調査対象とした。

「ナケレバ」の場合、文字列検索を用い、検索キー「なければ」を指定した結果、全 15,642 例が検出された。本調査では、その中で、表示順 1000 件を調査対象とする⁴⁹。また、「ナキヤ」の場合、同様の手順で計 878 件が得られた（ジャンルの偏りはない）、これらを全件を調査対象とする。

「ナクテハ」の場合、文字列検索を用い、検索キー「なくては」を指定した結果、検出された全 1940 例のうち、表示順 1000 件を調査対象とする⁵⁰。また、「ナクチャ」の場合、全 466 件が検出され、これらの全件を調査対象とする（全ジャンルにわたる）。

「ナイト」の場合は、できる限り非該当の用例を除くため、短単位検索で調査を行う。検索キー語彙素読み「ナイ」に、後方共起条件において、語彙素「と」かつ「品詞」の「中分類」「助詞-接続助詞」と指定した。全 3638 件の検索結果のうち、表示順 1000 件を調査対象とする⁵¹。

⁴⁹ 表示順の 1000 件の詳細は、総記（85 件）、哲学（214 件）、歴史（177 件）、社会科学（524 件）にまたがっている。特定のジャンルに偏った傾向にはなる可能性があり、全ジャンルにわたる調査は今後の課題とする。

⁵⁰ 表示順 1000 件の詳細は、総記（40 件）、哲学（89 件）、歴史（84 件）、社会科学（231 件）、自然科学（77 件）、技術・工学（43 件）、産業（84 件）、芸術・美術（57 件）、言語（20 件）、文学（242 件）、分類なし（33 件）であり、全ジャンルにわたる。

⁵¹ 表示順 1000 件の詳細は、総記（70 件）、哲学（80 件）、歴史（87 件）、社会科学（272 件）、自然科学（67 件）、技術・工学（65 件）、産業（38 件）、芸術・美術（70 件）、言語（11 件）、文学（218 件）、分類なし（22 件）であり、全ジャンルにわたる。

4 調査結果の分析 ―条件文の分類―

前田（2009）は、「レアリティー」の観点から条件文の用法を「仮定的用法」「非仮定的用法」「非条件的用法」の3つに大別している。特に、「非条件的用法」については、仮定性も因果関係も持たないため、「条件」とは別個の表現として捉えるのが適切だと述べる。また、「非条件的用法」としては、「並立・列挙」「評価的用法」「終助詞的用法」「後置的用法」「接続詞的用法」があると指摘している。詳細を以下に示す。

【並列・列挙】

二つの事柄の共存・非共存、属性の有・無を表し、「バ」およびナ形容詞述語文・名詞述語文としての「なら」のみ見られる。

（例）一人も患者がこない日もあれば二十名以上の日もあった。

（どくとるマン航海記）

【「評価的用法」】

条件接続辞に「いい」が付属した「すればいい・したらいい・するといいい」「しなければならない・したらいけない」「しなければいけない・しなないといけない」など、当為的意味、あるいは評価のモダリティを表現する複合的な文末表現に現れた場合である。

（例）「やっでござらんない」「できませんよ」「ただ宝に当てればいいんです」（崖）

【「終助詞的用法」】

仮定的レアリティーでは、聞き手主体の意志的動作の場合、「勧め」を表し、それ以外、話し手の非意志的動作や聞き手・話し手以外の動作・状態の場合は、多くの終助詞を伴って、「願望」を表す。また反事実的なレアリティーでは、話者の残念感・不満足・後悔などを表す。共に「評価的用法」「すればいい」「したらいい」からの省略・派生と考えられる。

（例）「…ええこと、ちっともない」「おいしいものでも食べれば？」

（窓を開けますか？）

【後置的用法】

実質的な意味を失った動詞とともに用いられる用法である。

(例) 何しろロベール・フィリップといえば、パリでも一流中の一流のデザイナーで、帝王の仇名をほしいままにしている。

(午後の恋人)

【「接続詞的用法」】

ソ系の指示詞や、後置的用法と同じく形式化した動詞を伴って、1つの接続詞的な機能を果たす形式となっている。「バ」を伴う「考えてみれば」「何とすれば」「できれば」「開けば」「思えば」「どちらかと言え」「そう言え」などがある。

前田 (2009 : 51-53)

条件句一般の広がりを考える上では、上述のような統語的な観点からの観察が必須である。条件的用法か否かを考える際には、前田 (2009) のように、本来の仮定条件の機能の有無に着目するのが有効であると考えられる。本節では、第4章同様、前田 (2009) に従い、条件的用法と非条件的用法に分けて分析を行う。用法分布の概要を表1に示す。数字は件数、括弧内はパーセンテージを示す。表2以下についても同様である。

「ナケレバ」の場合、条件的用法は21.7%であり、非条件的用法が78.3%を占めている。「ナケレバ」の非条件的用法としては、「評価的用法」が76.2%で最も高く、「終助詞的用法」と並列・列挙が各1%、「接続詞的用法」は見られるが0.1%に過ぎない。「ナキヤ」の場合、条件的用法は17%であり、非条件的用法は83%で、非条件的用法に偏っており、「ナケレバ」より偏りの度合いが高いことがわかる。また、「ナケレバ」より「終助詞的用法」と「接続詞的用法」の割合が高いのが特徴的である (第4章)。

「ナクテハ」の場合、条件的用法は8.1%、非条件的用法は91.9%で、非条件的用法が極めて高い割合を占めていることがわかる。非条件的用法の中でも、「評価的用法」が8割以上で最も高い割合を占めている。その反面、「終助詞的用法」は9.2%、「接続詞的用法」は0.1%で、「評価的用法」とは大幅に割合の差が見られる。「ナクチャ」の場合、「ナクテハ」の場合と同様に、条件的用法は3.2%、非条件的用法は96.8%で、やはり非条件的用法の割合が圧倒的に高

い。また、非条件的用法の中では、「評価的用法」が 59.7%、「終助詞的用法」が 37.1%を占めており、「ナクテハ」より「終助詞的用法」への偏りが高いことが特徴的である。なお、「接続詞的用法」や並列・列挙は見られない。

「ナイト」の場合、「ナケレバ（ナキヤ）」「ナクテハ（ナクチャ）」の場合とは異なり、非条件的用法が 32.3%、条件的用法が 67.7%で、3形式の中でも条件的用法への偏りが最も大きいことがわかる。非条件的用法の中では、「評価的用法」が 25%と最も高く、次いで「終助詞的用法」6.3%、「接続詞的用法」0.9%である。なお、「接続詞的用法」と並列・列挙は見られない。

表 1 条件文の用法の様相

	条件的	非条件的				合計
		評価的	終助詞的	接続詞的	並列・列挙	
ナケレバ	217 (21.7)	762 (76.2)	10 (1.0)	1 (0.1)	10 (1.0)	1000 (100)
		783(78.3)				
ナキヤ	150 (17.0)	548 (62.4)	159 (18.1)	18 (2.1)	3 (0.4)	878 (100)
		728(83.0)				
ナクテハ	81 (8.1)	826 (82.6)	92 (9.2)	1 (0.1)	0	1000 (100)
		919(91.9)				
ナクチャ	15 (3.2)	278 (59.7)	173 (37.1)	0	0	466 (100)
		451(96.8)				
ナイト	677 (67.7)	250 (25.0)	64 (6.4)	9 (0.9)	0	1000 (100)
		323(32.3)				

このように、「ナケレバ（ナキャ）」と「ナクテハ（ナクチャ）」においては、条件的用法より非条件的用法の割合が高く、特に、「評価的用法」に偏っているという点は共通する。非条件的用法のうち、並列・列挙は「ナケレバ（ナキャ）」のみで見られ、また、「接続詞的用法」はほとんどの形式で見られるものの「ナクチャ」では見られない。次節からは、その分布状況を用法ごとに検討しつつ、その共通点や相違点について記述する。

なお、後置的用法は、本調査の結果に限っては、「ナケレバ（ナキャ）」と「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」のいずれにも見られなかったため、本章では取り扱わない。

4.1 条件的用法 —主節の「形」と「望ましさ」—

宮部（2014）は、ト条件節においてスルト節かシナイト節か、すなわち肯定形か否定形かで用法が異なることを指摘している。具体的には、主節に「望ましくないもの」をさしだす用法が否定形シナイト節である場合に偏ることを示している。宮部（2014）では、シナイト節の従属複文において、主節を「形」だけではなく「望ましさ」という意味的な観点から分析してその偏りを具体的に見出している。本調査では、この観点に基づき、第4章で見た「ナケレバ（ナキャ）」の結果と比較しながら「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」の従属複文の主節を分析する。従属複文の主節の様相を表2に示す。

表2 従属複文の主節の様相

	主節の形		主節の望ましさ		合計
	肯定形	否定形	肯定的	否定的	
ナケレバ	88(40.5)	129(59.5)	52(23.9)	165(76.1)	217(100)
ナキャ	58(38.6)	92(61.4)	3(1.5)	147(98.5)	150(100)
ナクテハ	15(18.5)	66(81.5)	0	81(100)	81(100)
ナクチャ	2(13.3)	13(86.7)	0	15(100)	15(100)
ナイト	346(51.0)	332(49.0)	14(2.0)	663(98.0)	678(100)

表 2 で明らかなように、「ナケレバ」と「ナキヤ」の従属複文の主節は、形式的に否定形である場合が約 6 割であり、主節のことがら全体の望ましさにおいても、否定的となる場合に偏っている。特に「ナキヤ」は、主節のことがら全体の望ましさが否定的となる場合が 98% で、ほぼ全体を占めていることがわかる。

- (1) また大人がもっと自信のある、底力のある人間になって、若者を大きく包み込めるようにならなければ、とても健全な家庭は築けない。

(『英語ひとり旅』2001)

- (2) 外回りの、たとえば郵便配達でも、決められたルートを所定の時間で回らなければ、一日のノルマは達成できない。

(『警察崩壊！』2001)

- (3) 問題は、この図にも示されていますが、目標間の関係がすっきりとしていないことです。外部目標がすっきりしていなければ、それを取り込む内部目標はもっとすっきりしないものになります。

(『ヒューマンエラーの心理学』2001)

- (4) 何事もそうだけど、短絡的に考えるんじゃなくて、物事を柔軟に考えるのが重要だ。実際、組手をこなさなきや、基本や型をやった意味がないからな。

(『マッキーに訊け！』2001)

- (5) 仕事をしたいのに、どうしても仕事にありつけない人だっているわけでしょ？そういう人にも、『あんたが変わらなきや、何も変わらないよ。仕事を見つけないのなら、あんた自身がもっと変わらなきや』なんていえるのかな？

(『あなたを変える 3 つのレッスン』2003)

- (6) 自分に絶対はむかってこれない人間が相手の仕事じゃなきやいやで、その上やることのひとつひとつをいちいち感謝されなきや、我慢できないんだよな。普通無理だよ。

(『準備だけはあるのに、旅の』2004)

(1)～(6)から「ナキヤ」を受ける後件は、主節のことがら全体の望ましさにおいて否定的なものを導きやすいという傾向が顕著であるといえる。この傾向は、「ナケレバ」の場合も同様であるが、「ナキヤ」の場合により際立っている。

一方、「ナケレバ」「ナキヤ」を受ける後件が、主節のことがら全体の望ましさにおいて肯定的な場合がある。割合としては「ナケレバ」は 24%、「ナキヤ」は 2%である。

- (7) 巨視的に見れば、一時的な部分的理解不可能性を幾分大げさにとりあげたものに過ぎない、ということであり、「異文化」に寛大な態度で理解しようとする態度を失わなければ、理解範囲は確実に拡大する、しかしながら完全理解に到達するとも保証できないということでもある。

(『多文化世界の意味論』 2001)

- (8) 床入り前に夫を亡くしたヒンドゥー教徒の妻が夫とともに火葬される儀式は禁じられたが、未亡人が夫の亡骸と共に焼かれるサテイーは強制がなければ、行っていることとされた。

(『ムガル帝国の興亡』 2001)

- (9) もしその中に自分の使用しているマザーボード名がなければ、P L L - I C のタイプを指定すると利用できます。

(『パソコンをはやくする 88 の方法』 2001)

- (10) 「(中略)療を受けるって云うなら最高の医者を探してやる。受けるつもりがなきや、それでもいい。」

(『ラブ・ミー・テンダー』 2001)

- (11) 「この状況、どう見る?」「恐らく人員は罔だろうね。こちらに光火兵器を使わせたいんだろう。罔じゃなきや、まずは有機衛星同士をある程度交戦させてから転送するのが自然だし」

(『ルナティック・ムーン』 2005)

(7)～(11)は、「ナケレバ」「ナキヤ」を受ける後件が、主節のことがら全体の望ましさにおいて、否定的とは判断しがたい。「ナキヤ」においては 3 件しか見

られず、極小数であるが、「ナケレバ」の場合 24%に多数を占める点は「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」と比べても注目できる。このような用例は、特に「ナケレバ」の場合、全体として望ましくない後件を導きやすい一方で、形の上でも意味的な面でも、一定の割合で一般的な条件（「望ましき」の偏りを持たない）を表す形式としての役割を担っていることを示しているといえるだろう。

次に、「ナクテハ」「ナクチャ」の場合を見てみよう。「ナクテハ」と「ナクチャ」の従属複文の主節は、形式的に否定形である場合がともに 8 割以上である。主節のことがら全体の望ましきにおいては、両者とも否定的となる場合のみ見られる。

- (12) 代理人に任せきりにしない交渉の前に一敵を知り己を知る加害者の支払い能力が鍵 交渉ごとは相手があることですから、自分と相手の双方の状況をつかんでおかなくては、最善の結果は望めません。

(『交通事故被害者の損害賠償』 2001)

- (13) 学級劇をつくるということは、そのどちらだけが目立っては、つくれないということです。練習の中で、お互いコミュニケーションをとり、両者の思いをつないでいかなくては、劇はできていきません。

(『あしたも学校あるといいな』 2002)

- (14) ここでは決算書を信頼する、信頼しないということとは別に、会社経営の多様な側面から情報を収集し判断しなくては、実態を本当につかめないということです。

(『経営分析で不況に打ち勝つ』 2002)

- (15) そういういやな部分から逃れて隠れていたってかまわないけど、それだとすばらしい部分を逃すことにもなりかねないのよ。喜びや満足も味わわなくちゃ、生きてる意味がないわ。わかってるでしょう？

(『優しいめざめ』 2003)

- (16) だから、患者がいきなり大病院の外来に飛び込まなくちゃ、質の

いい医療が受けられないと思っているというのは間違いだと思
うんですね。

(『海辺医草』 2003)

また、「ナイト」の場合では、「ナケレバ (ナキヤ)」「ナクテハ (ナクチャ)」
の場合と同様に、主節のことがら全体の望ましさにおいて、否定的となる場合
に偏っており、その割合は 98% でほぼ全体を占めている。「ナケレバ (ナキヤ)」「
ナクテハ (ナクチャ)」の場合と同様の偏重傾向である。ただし、「ナイト」
の従属複文の主節は、肯定形である場合が 51%、否定形である場合が 49% であ
り、形式的には特定な形への偏りは見られない。

- (17) それらの選択を間違えてはいけませんから、慎重に考えるのは良
いことです。でも、何事につけても、慎重に検討するばかりでな
かなか決めないと、いたずらに時間だけが過ぎていきます。

(『人生が楽しくなるちょっとした考え方』 2001)

- (18) あと自分のやったことには責任を持ってるような人じゃないと、
やっぱりだめだと思う。周囲に流されてもその中で、流されつつ
も個性があるほうがいいかな。

(『若者のすべて』 2001)

- (19) しかしこれ以上の追求は余計だが、ここまで言わないと、人間の
日常の悩みを解決するには不完全である。

(『逆 18 禁』 2002)

- (20) 堀田 売れているというか、それは法務、検察の人事をやる人た
ちは、その本を買わないと、仕事ができないものね。

(『勝利のヒント』 2001)

- (21) しかし自らの周辺に強い同調者がいないと、個人のみでは成立し
ない。何らかの利用環境を共有する仲間が重要であり、このこと
が自己の満足感をより高めるのである。

(『21 世紀型ヒット商品の条件』 2002)

- (22) 『そうか。でも今言わないと、もう機会がないぞ。俺はお前を撃
ち落とす。嫌なら逃げた方がいいぞ。まだ死にたくないだろう?』

(『アリソン』 2002)

また、「ナイト」を受ける後件が、主節のことがら全体の望ましさにおいて、肯定的と判断される場合も 2% と僅かだが見られる。

- (23) 「娘にふりまわされて困っている」「こんなことを思ってはいけな
いのだが、娘が家にいないと、正直安心する」

(『拒食症と過食症』 2001)

- (24) フロントガラス以外は濃いブルーで、内を覗かれないと安心した
のだろう、お喋りに応える暇も惜しいとばかりに、むしゃぶりつ
ているのだ。

(『人妻秘書』 2001)

以上のように、「ナケレバ (ナキャ)」「ナクテハ (ナクチャ)」「ナイト」は、形式ごとの偏りの度合いの差はあるが、「否定的なことがら」を表す主節を導きやすいという点で共通する。特に「ナキャ」は「ナケレバ」よりその傾向が著しいことがわかる。また、「ナクテハ」「ナクチャ」では、主節のことがら全体の望ましさにおいて、否定的となる場合のみ見られる。つまり、「否定的なことがら」を表す主節を表すということは「ナクテハ」「ナクチャ」の担う主節の制約条件であるといえよう。

宮部 (2014) は、前述したように、ト条件文の条件形が、肯定形か否定形かによって担う機能が異なっていることを指摘する。従属節。主節とも「望ましくないもの」をさしだすとき、発話における「注意喚起⁵²」のような意味が現れるとしている。このような否定条件形式、特にシナイトの様相について宮部 (2014) では、望ましさ (特に、望ましくないもの) を表す意味機能を担いうる形式としての役割が、タラ条件節やバ条件節の否定形ではなく、シナイト節

⁵² 宮部 (2014) では、シナイト節をとる複文の主節に、話し手の否定的な感情や評価を表す場合を「警告」「脅迫」の延長線上にある意味と位置付け「注意喚起」という名称を用いている。

にもとめられているとする見方が示されている。しかし、「ナケレバ(ナキヤ)」
「ナクテハ(ナクチャ)」の場合も、望ましくないものを主節に示す特徴はより
顕著で、シナイト節が表す「注意喚起」のような意味機能を示す。さらに、本
調査の範囲では、主節で「望ましくないもの(否定的なことがら)」を表す割合
が、「ナイト」より「ナクテハ(ナクチャ)」でより際立っており、その制約が
強いことが確認できる。3者の対立関係については、さらに詳細な考察が望ま
れる。

4.2 非条件的用法(1) 並列・列挙

非条件的用法について検討していく。「並列・列挙」については、「ナケレバ」
1%、「ナキヤ」0.4%と、ともにごく僅かである。(25)~(28)のように、「(で)
もナケレバ(ナキヤ)~(で)もない」という固定化した形式をとる。

- (25) 「座るのくらいイスに座るがな」ってまた怒りながらイスに座り
ました。そしてすぐ見えた相談員の方に「こんにちは」でもなけ
れば「ご苦労様です」でもなく、開口一番「私はそんな保険には
絶対入りませんから、今日はハンコは押しませんから。

(『シバ犬ごん太の人間学入門』2001)

- (26) どこかで誰かが、陰口をたたいているような、いやな夢をみたこ
ともあった。これも運命でもなければ、宿命でもない。偶然の重
なった出来ごとにすぎないと思う。

(『負けてたまるか車椅子』2001)

- (27) さらに加えて、牢獄につながれてる哀れな連中に三十レアル散財
することだ。それから、手に職もなきや、財産もなく、毎日ぶら
ぶらしてるちゅう、この島の寄生虫みたいな兄さんよ、お前さん
はその百レアルをもらったら、明日じゅうにこの島から出ていく
んだ。

(『ドン・キホーテ』2001)

- (28) しかもその後退が更に白イといどまれてまたまた後退を余儀なく

されるのだ。金もいらなきや、名もいらぬ、わたしゃ隅の地が欲しい、なんて碁じゃいつまでも手はあがらんね。

(『置碁の戒め』 2005)

「並列・列挙」は「ナクテハ (ナクチャ)」「ナイト」では見られない。前田 (2009) では、「並列・列挙」において、二つの事柄の共存・非共存、属性の有・無を表し、「バ」およびナ形容詞述語文・名詞述語文としての「なら」のみ見られると述べられている。本調査の結果においても「ナケレバ (ナキヤ)」に限って現れ、前田 (2009) の記述観察に合致している。

4.3 非条件的用法 (2) 「評価的用法」

矢島 (2008) では、「評価的複合形式」の当為表現において、「イイ」を「適当」表現、「イケナイ」などを「不適當」表現と分類している。本調査では、その分類に従って調査を行った。その調査結果を以下の表 3 に示す。

表 3 の結果から見ると、「ナケレバ (ナキヤ)」と「ナクテハ (ナクチャ)」「ナイト」はいずれも、「適当」より「不適當」を表す「評価形式」との組み合わせが多いことがわかる。

まずは、「不適當」を表す場合から見てみよう。「ナケレバ」は「不適當」を表す場合のうち「ナル系」との組み合わせが 9 割以上で圧倒的に多いが、「ナキヤ」は「イク系」と「ナル系」における偏りはない。

- (29) 刺激があれば、環境がよければ発達するのに十分だというわけではなく、本人自体のなかに準備ができていなければならないのだという。

(『介護福祉士養成講座』 2001)

- (30) ハンドメイド・フィルムズはこれからも続けるけど、集客のためには『バットマン』とか『ゴーストバスターズ』みたいな大予算映画を作らなきゃならない。

(『ジョージ・ハリスン』 2002)

- (31) 「誠一が十六歳、茅乃が十歳、ぼくは死ぬ覚悟はできているけど、父親がいなくなればみなさんに迷惑をかけるから、子どものことを思うと、一時間でも三十分でも長く生きなきゃいけない。」

(『凜として看護』 2005)

表 3 評価形式との組み合わせ

	適 当		不 適 当			合 計
	イイ	隣接表現	イク系	ナル系	隣接表現	
ナケレバ	6(0.8)	0	35(4.6)	704(92.4)	17(2.2)	762(100)
ナキャ	19(3.5)	0	223(40.7)	210(38.3)	96(17.5)	548(100)
ナクテハ	0	0	138(16.7)	670(81.1)	18(2.2)	826(100)
ナクチャ	0	0	129(46.4)	129(46.4)	20(7.2)	278(100)
ナイト	4(1.6)	0	117(46.8)	0 ⁵³	129(51.6)	250(100)

「ナクテハ（ナクチャ）」においては、「ナクテハ」が「不適當」を表す場合のうち「ナル系」との組み合わせが 8 割以上で圧倒的に多い。それに対して、「ナクチャ」は、「イク系」と「ナル系」における偏りは顕著ではない。

- (32) 限られたものではあっても改善が望めるのであれば、訓練につき込む努力やかかる費用がその改善に見合うものなのかどうかを患者は判断しなくてはならない。

(『新樹会創造出版』 2003)

- (33) この状態で仕事をするのは、きついものがある。もちろん、仕事を頑張らなくちゃいけないとは思っている。

(『シークレット・レッスン』 2002)

⁵³ 「ナイト」の場合、本調査の範囲に限っていえば、「評価的複合形式」のうち「不適當」を表す後部要素「ナル系」は見られない。コーパスの検索対象を全ジャンルに広げた結果、「ナイトナラナイ」は 57 件、「ナイトイケナイ」は 1653 件で、「イク系」との組み合わせが圧倒的に多いことが確認できた。

- (34) 「わたしは誰とも結婚したくないわ。できるだけ早くニューヨークへ戻らなくちゃならないもの。向こうではたくさんの人が―」
(『心すれちがう夜』 2003)

また、「ナイト」では、「不適當」を表す場合のうち、「ナル系」との組み合わせが見られず、「イク系」に偏っていることがわかる。

- (35) しかし、真の I T 化とは、ビジネス戦略や業務プロセスの効率化、マネジメントの改革など、目的や効果を考えて実行しないといけない。

(『ヒットの秘密』 2001)

- (36) 男と女は互いの立場を真に理解できるのか、性差別と性差については、本音で議論しないといけない。

(『発見と感動の生涯学習』 2002)

また、「ナケレバ (ナキヤ)」「ナクテハ (ナクチャ)」が「ナラナイ」「イケナイ」に偏向するのに比べ、「ナイト」は「ナラナイ」「イケナイ」に偏向することもなく、不適當を表す「評価形式」に相当する隣接表現との組み合わせも多様に見られる点は注目できる。。

この点から、「ナイト」は「ナイトナラナイ/イケナイ」という典型的な慣用表現を確立させつには至っていないといえる。言い換えれば、「ナケレバ (ナキヤ) ナラナイ/イケナイ」「ナクテハ (ナクチャ) ナラナイ/イケナイ」といった形式とは異なり、一語化が進んでいないと考えられる。表 1 では、「ナイト」の「評価的用法」が 25% であり (「ナケレバ」 76.2%、「ナキヤ」 62.4%、「ナクテハ」 82.8%、「ナクチャ」 59.7%)、他の形式に比べ最も低い。この点も「ナイトナラナイ/イケナイ」が典型的な慣用表現として確立していないという見方に矛盾しない。

また、本調査では、慣用表現の典型的な後部要素「イイ/イケナイ (以下、イク系と呼ぶ) /ナラナイ (以下、ナル系と呼ぶ)」とそれらに隣接した表現を含めて「評価的用法」の用例として分類する。典型的な後部要素「イイ/イケナイ

/ナラナイ」に隣接した表現と判断した語例を以下に 詳述する。

【隣接表現の語例】 高い件数順で並べる。

「ナケレバ」:「だめだ(5)」「意味がない(2)」「おかしい(2)」「できない(2)」

「わからない(2)」「無理だ(2)」「無効だ(1)」「無意味だ(1)」

(異なり 8 種類/延べ 17 件)

「ナキヤ」:「だめだ(54)」「わからない(10)」「困る(5)」「嫌だ(4)」「損(4)」

「おかしい(3)」「できない(2)」「まずい(2)」「無理だ(2)」「悪

い(2)」「意味(が)ない(2)」「危ない(1)」「しょうがない(1)」「つ

まらない(1)」「おかしい(1)」「仕方がない(1)」「嫌いだ(1)」

(異なり 17 種類/延べ 96 件)

「ナクテハ」:「だめだ(6)」「困る(4)」「意味がない(3)」「わからない(2)」

「できない(1)」「まずい(1)」「無意味だ(1)」

(異なり 7 種類/述べ 18 件)

「ナクチャ」:「だめだ(11)」「いやだ(2)」「やれねえ(2)」「困る(2)」「つま

らない(1)」「意味がない(1)」「おもしろくない(1)」

(異なり 7 種類/異なり 20 件)

「ナイト」:「だめだ(30)」「わからない(22)」「困る(14)」「できない(8)」

「気がすまない(7)」「無理だ(5)」「まずい(4)」「いやだ(3)」「お

かしい(3)」「淋しい(3)」「むずかしい(3)」「落ち着かない(2)」

「寂しい(2)」「不安になる(2)」「不幸になる(2)」「うまくない

(1)」「おもしろくない(1)」「価値がない(1)」「気づかない(1)」

「気に入らない(1)」「苦しい(1)」「仕方がない(1)」「しょうが

ない(1)」「損だ(1)」「助からない(1)」「つまらない(1)」「つら

い(1)」「不安がる(1)」「不安だ(1)」「不可能だ(1)」「もったい

ない(1)」「やれん(1)」「役に立たない(1)」「有効性がない(1)」

(異なり 34 種類/129 件)

次に、「適当」を表す場合について見ていく。表から「適当」を表す場合は「ナケレバ(ナキヤ)/ナイト+イイ」という形に限られていることがわかる。「ナク

テハ（ナクチャ）」は、「適当」表現と結びつかない。

- (37) ルート検討の時から、もし下降時に方向を失っても左すなわち氷河の上流方向へさえ行かなければいい。

(『より高く、より遠く、未知を求めて』 2001)

- (38) 「お若い方、お入りなさいな。これじゃ、みんな肺炎になってしまいうわ」サラは男の腕をとり、料理の並んだテーブルへと案内した。「七面鳥がお嫌いじゃなきやいいんだけど。ハムはみんな売ってしまったのよ。わたしはサラ・ブレーク。こっちは姪のクリスティよ」

(『四つの愛の物語』 2003)

- (39) 友好関係ってことでは、ここへ来て急に芸能関係で共同制作の映画やテレビドラマやアイドルなんかが出てきてるよね。でもそれが一時的なもので終わらないといいよね。

(『無敵のソウル』 2002)

4.4 非条件的用法（3）「終助詞的用法」

次に、主節を伴わず、従属節が単独で現れる場合（これを「終助詞的用法」と呼ぶ）を観察する。表1で確認したように、「終助詞的用法」の割合は「ナケレバ」は1%、「ナキヤ」は18.1%、「ナクテハ」は9.2%、「ナクチャ」は37.1%、「ナイト」は6.4であり、「ナクチャ」が最も高い割合を示す。

- (40) 時代は変わっても親は親、子は子。親と子の縁を大事にしなければ。ホトケサンを大事にすると先祖の顔に泥を塗らないように生きるようになる。

(『位牌分け』 2001)

- (41) お昼を過ぎて一旦風が弱まった頃、ずっと舵を握り続けていた南波から僕が舵取りを代わった。「南波さん少し寝て下さいよ、それに何か食べないと…」南波には色濃い疲れが見えていて、夜明け

以降何も食べてはいなかった。

(『処女航海』2001)

- (42) こんな思いは二度とするまい。いや二度としちゃいけない。自分がちゃんと子どもを見ていかなくては。自分の子どもだろ、由輝は何も知らないんだぞ。

(『ママと呼んで！由くん』2001)

- (43) 「でも、こうなると、ネックレスを送ってもらってる場合じゃないですね。母には申し訳ないけど、諦めてもらわなきゃ。」

(『瞬間移動死体』2001)

- (44) 「お父さんもお母さんも、働かないで妹叩くから、ワタシが助けなきゃって思った。シンナーもやめて、一生懸命働いた。でも、ぜんぜんオカネ足りない」

(『真夏の夜の夢』2005)

- (45) 「でもなんとか切り抜けなくちゃね。今日のわたしの目標は、誰かの服に吐かないってだけじゃないんだから。これからあのやっかいな質問攻めをくぐり抜けなくちゃ。」ゲイブは忍び笑いをもらった。

(『シンデレラの賭』2003)

- (46) 「もう十一時十五分だわ。二時にはスティーヴンと落ち合ってランチをとる約束になっているから、そろそろ出発しなくちゃね。路面電車に乗って、あちこち見てまわったらどうかと思うんだけど」

(『プリンセスに夢中』2003)

(40)～(46)のように、文末で用いられる「ナケレバ (ナキャ)」「ナクテハ (ナクチャ)」「ナイト」は、4.3 での「評価的用法」のうち、「不適當」を表す場合の「評価形式」の省略形と考えられる。

第1章では、ナケレバ節ではことごとく対する話し手の「評価」が表れることがあり、その「評価」が「否定形」や「意味的に否定的な述語」であるとき、「義務」機能を担えるようになると述べた。また、ナケレバ節は、本来、仮定

条件を表すので、「義務」といった意味機能が成り立つためには、ナケレバの上接語句にも何らかの条件や偏りがあるのではないかと仮説を立てた。その上で、「バ」「ナケレバ」「ナケレバナラナイ類」「ナキャ。」の上接語の比較調査を行った結果、意志動詞（「意志的自動詞」と「他動詞」）の割合が、「バ」51.5%、「ナケレバ」59%、「ナケレバナラナイ」類71.8%、「ナキャ。」75.5%となった。「ナケレバナラナイ」「ナキャ。」といった否定条件形式かつ「義務」専用形式で顕著に高いことが確認できた（第1章）。

本節では、これを踏まえ、文末の「ナケレバ（ナキャ）」と「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」の場合を比較していく。各形式について上接語の品詞ごとの分類を行った。その結果を次のページに表4に示す。

第1章での観察の通り、バ節においてはナケレバおよびナキャ、つまり、否定条件形式かつ「義務」専用形式において、意志性の述語、特に他動詞への偏りが顕著であった。表4を見ると、この傾向は、「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」においても概ね同様であることがわかる。

表中で最も顕著に差が見られるのは意志的自動詞(b)の場合である。意志的自動詞(b)は、「ナケレバ」では見られないのに対して、「ナキャ」「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」には一定の割合で見られる。

- (47) いい位置でもらうことが重要だけど、俺だけじゃなくてチーム全体が動かないとね。そういう全体の意識付けはこれからかな。

（『中村俊輔リスタート』2002）

- (48) いまここで囚われてはあのひとのそばへ行くことも叶わなくなる。落ち着いて、一刻も早くゴルゴダまで着かなくては。

（『龍の黙示録』2001）

- (49) 「もう十一時十五分だわ。二時にはスティーヴンと落ち合ってランチをとる約束になっているから、そろそろ出発しなくちゃね。路面電車に乗って、あちこち見てまわったらどうかと思うんだけど」

（『プリンセスに夢中』2003）

- (50) 「坐れ」でもわたしは立っていた。ムハンマドが手に棒をもって

いるのを見て、たたく気ならすぐに逃げなきゃと思ったからだ。

(『ディリー、砂漠に帰る』2003)

表 4 上接語の品詞ごとの分類 (「終助詞的用法」)

形式 上接語		ナケレバ	ナキヤ	ナクテハ	ナクチャ	ナイト
動詞		9(90.0)	151(95.0)	87(94.6)	161(93.5)	56(87.6)
他動詞(a)		8(80.0)	79(49.7)	42(45.7)	88(50.8)	24(37.5)
自動詞	非意志的	0	2(1.3)	2(2.2)	3(1.8)	2(3.2)
	意志的(b)	0	27(17.0)	20(21.7)	30(17.8)	5(7.8)
その他 ⁵⁴	非意志的	0	4(2.5)	2(2.2)	3(1.8)	1(1.6)
	意志的(c)	1(10.0)	39(24.5)	21(22.8)	37(21.3)	24(37.5)
(a)+(b)+(c)		9(90.0)	145(91.2)	83(90.2)	155(89.9)	53(82.8)
名詞		0	6(3.8)	1(1.1)	3(1.8)	2(3.2)
イ形容詞		1(10.0)	1(0.6)	0	3(1.8)	5(7.8)
指示詞		0	1(0.6)	4(4.4)	4(2.3)	1(1.5)
準体助詞		0	0	0	2(1.2)	0
合計		10(100)	159(100)	92(100)	173(100)	64(100)

(47)～(50)のように、「ナキヤ」「ナクテハ (ナクチャ)」「ナイト」においては、

⁵⁴ 「その他」に分類した動詞類は以下の通りである。

「非意志的」:「～ている (おる)」「～くなる」「～になる」

「意志的」:「～にいく」「～ていく」「～てくる」「～ておく」「～てみる」「～てしまう」「授受表現 (「～てやる/～てあげる/～てさしあげる/～てくれる/～てもらう)」「～する類 (「～くする/～にする/ようにする)」「可能 (～える/ことができる)」「使役」

「意志的自動詞」を上接語とする場合が見られる。その多くは、「評価的用法」の後件を省略したと思しき場合である。「ナケレバ」の場合、「意志的自動詞」を上接語とする例は見られないのは、「評価的用法」の割合が最も低い（ナケレバ」1%、「ナイト」は 6.4%、「ナクテハ」は 9.2%、「ナキヤ」は 18.1%、「ナクチャ」は 37.1%を）ということと関連付けて理解することができる。

4.5 非条件的用法（４）「接続詞的用法」

前田（2009）は、「接続詞的用法」について、「そうでなければ」「そうすると」のように、「ソ」系の指示詞が形式化した動詞を伴って、条件形全体で一つの接続詞的な機能を果たす形式となるものと定義している。しかし、この場合は上接語を伴う場合である。「ナケレバ（ナキヤ）」「ナクテハ」「ナイト」の場合、上接語を伴わず、「。デナケレバ（ナキヤ）」「。デナクテハ」「。デナイト」という自立的な「接続詞的用法」が見られる。

本調査では、「接続詞的用法」の判定において、上接語を伴わずに文頭で現れる場合のみを「接続詞的用法」とする。以下の用例のように、文頭に現れても上接語を伴っている場合は条件的用法として取り扱う。

- (51) 「いやね、警察のことで松井さんから問い合わせがあってっていったらね、急に大声を出し始めてね。そんなことは知らんの一点張りですよ。知らなきや、あんなに激昂する必要はないと思うがなあ」

（『ホームレス失格』2002）

- (52) 「そんなに俺のことが好きか？お嬢ちゃん」「仕事じゃなきや、あんたみたいな男、追っかけたくないわ。あたし、男の趣味は良い方なんだから」

（『永久駆動パペットショウ』2004）

「接続詞的用法」は、表 1 からわかるように、「ナケレバ」1 件(0.1%)、「ナキヤ」18 件(2.1%)、「ナクテハ」1 件(0.1%)、「ナイト」9 件(0.9%)であり、「ナ

クチャ」の場合の用例は見られない⁵⁵。

- (53) どこからかカネが入ってきているのである。でなければ、こんな
厳しい経済状態でなければ、そんなことができるわけがない。

(『これでも議員ですか』 2001)

- (54) 「パパのチップなんかいじってないわ。どっちみち、パパにはそ
んなもの要らないんだから。ものにはなにかのチップが、でなき
や、それとおんなじ働きをするものがあるのよ。ちゃんと探せば
だけど。トマトにだってあるわ」

(『エンド・オブ・デイズ』 2001)

- (55) 彼らがある容疑者に出頭を求め、供述を得ようとする時は、常に
多方向からの情報を得、事件の概要を把握した段階である。でな
くては、容疑者に対してイニシアティヴを取れないし、万一逃亡
された際、指名手配も打てない。

(『三浦和義事件』 2002)

- (56) 「あなたが用心すればいいのよ。言いたいことがあるなら、わか
りやすい正しい英語で言ってちょうだい。でないと、私、本気で
つめを立てるわよ。その顔にもう一つ痣を作りたいの？」

(『誤解の代償』 2001)

(53)～(56)のように、文頭で現れる「ナケレバ (ナキヤ)」と「ナナクテハ (ナ
クチャ)」「ナイト」は、単独ではなく必ず「デ」を伴うということが特徴的で
ある⁵⁶。

藤井 (2013) では、発話冒頭で使われる条件関係の表現について、「ならば」

⁵⁵ 本調査の範囲において、「。でナクチャ」の用例が見られなかった点については
再検討の余地がある。ただし、頻度や用例数が少ないということはいえと考えて
いる。その要因として、「ナクチャ」の場合、終助詞的用法へ大きく偏在すること
が関与している可能性がある。

⁵⁶ 「ナキヤ」の場合、「。じゃナキヤ」という形式も 2 件見られる。

「だったら」「でしたら」「だと」「ですと」「と」「なら」「では」「じゃ」などを挙げる。その上で、本来非自立的に用いられる断定辞「だ」や節接続形態素が発話冒頭においてむき出しで自由標識的に使用されているものと位置付けている。このような観点は、「。デナケレバ（。デナキャ/。ジャナキャ）」「。デナクテハ」「。デナイト」のような、「接続詞的用法」を獲得する原因を探るための重要な材料になるだろうが、共時的な意味的範疇という条件のみでの考察ではそのプロセスを見極めることは難しいだろうと予想される。

本調査の結果では、「接続詞的用法」「。でナケレバ（。デナキャ/。ジャナキャ）」「。デナクテハ」「。デナイト」は、前文脈が主に、独立性が高く、対者的な「文」の単位で現れていることが特徴的で、注目できる。

- (57) ある婦人が、「涙がこぼれそうなきほど、にっこり笑うようにしているの。でないと、辛いことに負けてしまうのですもの」と言われました。

(『人生、考えすぎないほうがいい』 2001)

- (58) 「俺ばっか…感じて…いいようにあしらわれて…悔しい」 藍の言葉に、ブルースは苦笑を浮かべる。「俺だって感じているよ…でなきゃ、こんな風にはならないだろう？」

(『チェイン・リアクション』 2001)

- (59) 「松井さん、こうなったら奥の手だ。区長はね、選挙で選ばれている人間だから、役人よりはきちんと対応すると思いますよ。でなきゃ、選挙が難しくなるからね」

(『ホームレス失格』 2002)

- (60) 驚きに、目を見張った。「ま、まさか…ローゼが？」「…んなこたぁいいから、あいつを倒すことを考えろ。でなきゃ、全部意味なしになっちまう」

(『影の名は幻夢王』 2002)

- (61) 郷子「親戚とか友達とか、そういうふりをすればいいんでしょ？ そんなことあなたが考えなさいよ」 将一「…うん」 郷子「とにかく く あわせて、じゃなきゃ、認めない」

(『恋文』 2003)

- (62) 「お願いだ。エミリオのためにも、生き延びてくれ」「さあ。そのトランクを私に渡して」「ルシア」「いう通りにして。でないと、すぐに飛び降りるわよ」

(『新宿流氓』 2002)

断定辞「だ」の活用形「デ(ジャ)」は、形態上、上接語に制限があり、名詞、形容動詞語幹などを伴いやすい。だが、(57)～(62)を見ると、「デ(ジャ)」の前文脈は主に、行為指示的な動詞句である。文脈によっては、終助詞が付属している動詞句(57)～(59)や「命令」を表す動詞句(60)～(62)などがあり、これらは対人的な働きかけを含む、独立性の高い「文」として成り立っている形式である。藤井(2013)では、「接続詞的用法」の標識化のプロセスに関して、「そうなら」「それなら」の使用基盤から「なら」へ、「そうだとしたら」から「だとしたら」、「そうすると」から「すると」へ、というふうに、合成的な指示詞照応型の談話での使用が基盤となって、指示詞が脱落したという仮説が妥当であろうと述べられている。「ナケレバ」「ナキャ」においても、「そうデナケレバ(ナキャ)」「そうデナクテハ(ナクチャ)」「そうデナイト」のような指示詞を上接語とする用例が見られ、藤井(2013)の仮説が適用できる可能性がある。しかし、藤井(2013)でも指摘されているように、談話標識化のプロセスについては、共時的データの分析に基づく一般化は避けるべきであり、「接続詞的用法」の標識化の原因についても共時的なデータの分析からは判断しがたい。

ただし、本節で観察した用例の様相を見ると、「。デナケレバ(。デナキャ/。ジャナキャ)」「。デナクテハ」「。デナイト」が「接続詞的用法」を獲得するようになった経緯について、ただ「指示詞の脱落」に限るのは難しいようにも思われる。「デ」の上接語は、指示詞に限られないからである。「指示詞の脱落」というより、「。デナケレバ(。デナキャ/。ジャナキャ)」「。デナクテハ」「。デナイト」の上接語句の範囲の拡大による「接続助詞から接続詞への機能語化」とする見方がより妥当ではないだろうか。「。デナケレバ(。デナキャ/。ジャナキャ)」「。デナクテハ」「。デナイト」は、指示詞以外に名詞や形容動詞語幹などといった非活用の語句を伴って、接続助詞としての役割を果たす。その上接

語の範囲が「文」単位の句へ拡大してこそ、「文」と「文」をつなぐ「接続詞」となったと考える。この見方においても、指示詞を伴う形式が、機能語化の契機として重要な条件となった可能性はある。いずれにしても、通時的な観察も含めた検証が必要である。

4.6 4 節のまとめ

4 節では、文の位置による否定条件形式の「ナケレバ (ナキャ)」と「ナクテハ (ナクチャ)」「ナイト」の用法について検討した。「条件的用法」と「非条件的用法」に分けて調査を行った結果、「ナケレバ (ナキャ)」と「ナナクテハ (ナクチャ)」は、「非条件的用法」への偏りが大きいことがわかった。それに対し、「ナイト」は、「非条件的用法」より「条件的用法」への偏りが高く、この点で「ナケレバ (ナキャ)」と「ナクテハ (ナクチャ)」とは異なっている。

本調査では「非条件的用法」としては、「並列・列挙」「評価的用法」「終助詞的用法」「接続詞的用法」に 4 分類される。「並列・列挙」においては、「ナクテハ (ナクチャ)」「ナイト」は見られず、少数ではあるが「ナケレバ (ナキャ)」に限って現れることがわかった。

次に、「評価的用法」では、「ナケレバ (ナキャ)」「ナクテハ (ナクチャ)」「ナイト」はともに、「不適當」を表す評価形式と共起しやすいことを確認した。ただし、「ナイト」の場合、「ナケレバ (ナキャ)」「ナクテハ (ナクチャ)」に比べ、不適當を表す「評価形式」に相当する隣接表現との組み合わせが多様に見られる点が特徴的である。「適當」を表す場合は、「ナケレバ (ナキャ) / ナイト + イイ」の形に限られる。「ナクテハ (ナクチャ)」では、「適當」を表す用例は見られず、「評価的用法」において「不適當」を表すことに特化していると考えられる。

また、「終助詞的用法」では「ナケレバ (ナキャ)」と「ナクテハ (ナクチャ)」「ナイト」は、「意志的な動作性」を表す上接語を伴いやすいということが共通する。「ナケレバ (ナキャ)」と「ナナクテハ (ナクチャ)」「ナイト」のことがらに対する話し手の「評価」が「否定形」や「意味的に否定的な述語」であるとき、「義務」機能を担えるようになる。このとき、「意志的な動作性」を表す

上接語を伴うということが文末の「ナケレバ（ナキヤ）」と「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」の形を固定化する確立条件であると考ええる。

最後に、「接続詞的用法」は、「ナケレバ」と「ナクテハ」は各 1 件(0.1%)しか見られず、「ナイト」は 9 件(0.9%)で割合としては低い。だが、「ナキヤ」の場合、18 件(2.1%)見られ、最も高い割合を占めている。「ナケレバ（ナキヤ）」に限るが、「接続詞的用法」においては、基本形よりその縮約形でより現れやすいと考えられる。4.1 で確認した通り、条件的用法の「ナクテハ（ナクチャ）」では、「否定的なことがら」を表す主節を後件に取るということが、「ナクテハ（ナクチャ）」制約条件である。このように、「ナクテハ（ナクチャ）」は、条件的用法では「否定的なことがら」を表す主節を表すこと、また、非条件的用法では「不適當」を表す「評価的用法」に特化しているため、並列・列挙や接続詞用法にはあまり見られないと考えられる。

5 おわりに

本節では、文の位置による「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」の用法を統語的に検討した。特に、「ナケレバ」「ナクテハ」の場合は、縮約形である「ナキヤ」「ナクチャ」との比較を行い、それらの共通点や相違点について考察した。

「ナケレバ（ナキヤ）」と「ナクテハ（ナクチャ）」はともに、「条件的用法」より「非条件的用法」に偏っているが、それぞれ縮約形である場合の方が、その偏りがより著しい。だが、「ナイト」は、「非条件的用法」より「条件的用法」の割合が高い。また、「ナケレバ（ナキヤ）」「ナクテハ（ナクチャ）」は、「非条件的用法」の中でも、「評価的用法」において、圧倒的に高い割合を見せる。それに対し、「ナイト」はその割合が最も低く、典型的な後部要素に隣接した表現との組み合わせが多様に見られる。

第 4 章では、「評価的用法」において、「ナキヤ」が「ナケレバ」より不適當を表す多様な評価形式との組み合わせを持つことについて、「ナケレバ」は「ナケレバナラナイ」という形式に一語化し、文法化が進んでいる一方で、「ナキヤ」では後部要素との固定度が弱く、形態的に独立性が高いこと、それに起因して単独形式として文中や文末、文頭に自由自在に現れやすいことによると考える。

「評価的用法」の「ナイト」も、「ナキヤ」と同様に、後部要素との組み合わせの固定度が低く、形態的な独立性を持つと考えられる。このことは、「ナイト」が単独形式として「接続詞的用法」を獲得している事実とも整合的であると考ええる。

「ナクテハ」「ナクチャ」では、「ナケレバ」と「ナキヤ」のように縮約形になることで現れる非条件的用法全般への偏りはあまり見られない。しかし、それは、「ナクテハ」「ナクチャ」がともに、「不適當」を表す機能に特化していることにより、「義務」機能を表す形式として固定化、一語化している傾向が強いことと関連付けができる。

以上のように、「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」は、類似表現としてほぼ同様の機能をもっているとされているが、詳しく見ると、各形式は各自の特徴や優勢の機能があり、縮約形の場合では、基本形と同様の用法を持つ一方で、基本形より顕著な偏りが見られることが確認できた。ただし、「ナイト」の場合は、縮約形を保たず、また、非条件的用法より条件的用法への偏りが高い点から、「ナケレバ（ナキヤ）」「ナクテハ（ナクチャ）」とは特化している機能が大幅に異なっていると考えられる。このことについては各形式の肯定形である「バ」「テハ」「ト」との比較調査が求められる。今後の課題としたい。

結論

本研究のまとめと課題

1 本研究のまとめ

本研究では、否定条件形式の構成する条件句について、現代語の共時態で現れる多機能性に注目して考察を行った。

第1章では、条件句一般におけるバ節とナケレバ節の比較を試みた。バ節をとる複文は、主節の述語に肯定形を伴いやすく、意味的にも「望ましいことがら」となるのが顕著である。一方、ナケレバ節をとる複文は、主節の述語は否定形が多く、ことがら全体が否定的なものとなっている場合が多い。特に、主節に「否定形」や「意味的に否定的な述語」を用いた話し手の「評価」が表れる場合、「義務」機能を担えるようになる。ナケレバ節において、「義務」機能が成り立つには、ナケレバの上接語句に何らかの条件や偏りがあると考えた。

「義務」機能に固定化している「ナケレバナラナイ」類や文末のナキャの上接語句を考察した結果、「ナケレバナラナイ」類や文末のナキャなど「義務」機能に固定化した形式ほど、「意志性を表す上接語」を伴いやすいことがわかった。

第2章では、否定条件構文の様相の全体像を考えるに当たって、文末、文中、文頭のいずれにも現れうる形式である「デナケレバ」を取り上げ、その構文的特徴や意味機能について考察した。「デナケレバ」をとる条件文は、前件と後件の因果関係によって成立しており、その因果関係は仮定条件を表すことが中心となる。「デナケレバ」をとる構文は、「デナケレバ＋望ましいことがら(46.7%)」と「デナケレバ＋望ましくないことがら(53.3%)」という二種類に分けられる。否定条件形式「ナケレバ」全体が「望ましくないことがら(87%)」タイプに大きな偏りがあるのに対し、「デナケレバ」に限って示すと偏りが無い。また、「デナケレバ＋望ましいことがら」となる場合では、典型的な仮定条件を表す場合のほか、仮定条件の構造をとりながら「A デナケレバ B」という「選択肢の提示」機能を担う場合がある。なお、名詞や指示詞、形容動詞語幹などといった非活用の語句を上接語とする「デナケレバ」は、文脈の支えがあれば上接語を

省略できる。よって、自立性を持つ「。デナケレバ」の形式を生み出すことができる。「。デナケレバ」が、接続語的な役割を果たすと考える。

第3章では、第2章で考察した「デナケレバ」の肯定形「デアレバ」を取り上げ、上接語との関連からその多機能性について記述した。「デアレバ」は、「デアル」が外国語の翻訳語として用いられた近代期に派生した。両者は、その上接語の変化において、同様の特徴を持つ。それは、上接語「ノ」を取ることによって上接成分の範囲が文へ拡張してきたという点である。上接語の変化は、準体句が衰退し主名詞として「ノ」が補われるようになるという、近代期の変化の現れといえる。「ノ」による「デアレバ」の上接語の多様化は、「バ」節の認識的条件文としての意味領域拡張に持つながったと考えられる。また、「デアレバ」の機能分化は、現代語でさらに進み、「接続詞的用法」、述語的な用法、連体修飾用法という自立的な用法へ及んでいることを指摘した。

第4章では、「ナケレバ」と「ナキャ」の用法を文中の位置や上接要素に着目して統語的に検討した。両者の比較を通じて「ナキャ」に独自の用法と制約があるという相違点があることを示した。「ナケレバ」「ナキャ」の機能は、文中での位置関係によって分類できる。「ナキャ」は「ナケレバ」の縮約形として、「ナケレバ」に見られる機能を同様に持つが、一方で両者の関係は同等とはいえない部分もある。非条件的用法への参与という点では「ナケレバ」は「評価的用法」に偏っているが、「ナキャ」は非条件的用法全般への参与度がより高い。「ナキャ」は「ナケレバ」より形態的独立性が高く、それに起因して単独形式として文中や文末、文頭に自由自在に現れやすいと整理した。

第5章では、第4章の「ナケレバ」「ナキャ」の比較に続き、それらの類似表現「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」の用法を文中の位置や上接要素に着目して統語的に検討した。「ナケレバ（ナキャ）」と「ナクテハ（ナクチャ）」はともに、「条件的用法」より「非条件的用法」に偏っているが、縮約形である場合、その偏りが著しい。だが、「ナイト」は、「非条件的用法」より「条件的用法」の割合が高い。また、「ナケレバ（ナキャ）」「ナクテハ（ナクチャ）」は、「非条件的用法」の中でも、「評価的用法」において、圧倒的に高い割合を見せるのに対し、「ナイト」はその割合が最も低いことがわかった。

「ナクテハ」「ナクチャ」では、「ナケレバ」と「ナキャ」間で見られるよう

な、縮約形での非条件的用法全般への偏りはあまり見られない。「ナクテハ」「ナクチャ」はともに「不適當」・「義務」機能を表す形式として固定化、一語化している傾向が強いことがその要因と考えられる。なお、「ナイト」は、非条件的用法より条件的用法へ大きく偏っている点から、「ナケレバ(ナキャ)」「ナクテハ(ナクチャ)」とは特化している機能が大幅に異なっていることがわかった。「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」の各形式はそれぞれの特徴や優勢の機能があり、さらに、その縮約形では、基本形と同様の用法を持つ一方で、基本形より顕著な偏りがあることも確認した。

2 今後の課題

本論を踏まえ、今後の発展のためには次のような考察が求められる。

- [1] 調査範囲の統一及び拡大による検証
- [2] 「テハ」と「ナクテハ」、「ト」と「ナイト」の対立関係の比較
- [3] 否定条件形式の「連体修飾用法」の再検討
- [4] 典型的な慣用表現を構成しない否定条件形式「ナカッタ」「ナイナラ」
との比較：「タラ」「ナラ」との対立関係を踏まえて

以下、それぞれについて述べる。

[1] 調査範囲の統一及び拡大による検証

本研究では、章ごとに用例調査の範囲を設定している。いずれの章においても「コーパス検索アプリケーション『中納言』(2.4)」を用い、国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス(通常版)」(BCCWJ-NT1.1)から用例を収集した。しかし、用例調査においてその調査対象が統一されていない部分がある。第1章では、コアデータのための全ジャンルに広げ、バ節とナケレバ節の用例を収集した。第2章では、非コアデータを含む全ジャンルにおいて「デナケレバ」の用例調査を行い、第3章の「デアレバ」は、非コアデータを含む「出版・書籍」に限って用例を収集した。第4章と第5章の「ナケレバ」「ナキャ」

「ナクテハ」「ナクチャ」「ナイト」に対しては、非コアデータを含む「出版・書籍」に範囲を設定した。本研究では、用例収集において言語運用上での様相を観察するという目的があり、さらに「ナキャ」「ナクチャ」とった縮約形も調査対象に含む。本来ならばコーパス全ジャンルに広げ、用例調査を行うべきであるが、「バ」節を含む条件句の用例は膨大であるために、できる限り偏りの恐れが小さいジャンルに絞って、言語現象を確認することとした。「出版・書籍」は「新聞」や「知恵袋」「ブログ」など独自性のあるジャンルに比べ、地の文や会話文の両方が見られるという利点があると判断し、調査対象とした。だが、これも「出版・書籍」に限る調査結果となるので、本研究の結論は、限られた一定の条件下での傾向性の把握に留まるという問題点がある。一般的傾向を論じ、見極めるには再検証の余地がある。だが、一定の運用上での否定条件形式の多様な言語現象を確認し、「機能語化」の一類と位置付ける試みとしては、その端緒となる検討と位置付けられる。今後、調査範囲を BCCWJ の全ジャンルに広げ、本研究の結果を視野に入れつつ、否定条件形式の「多機能性」についての傾向性を検証することが必要と考えている。

[2] 「テハ」と「ナクテハ」、「ト」と「ナイト」の対立関係の比較

また、本研究では「ナケレバ」を中心に考察し、「ナクテハ」「ナイト」との比較調査を行っている。研究対象として、「ナケレバ」において「バ」との対立関係を検討しているが、「ナクテハ」「ナイト」においては「テハ」「ト」との対立や関連性に触れることができなかった。本研究では、「ナキャ」「ナイト」の形態的独立性が高いということを指摘しているが、この現象については様々な角度から個別に追究・説明しなければならない。「ナキャ」には縮約形という特徴があり、「ナイト」には否定的条件下での多様な後件を導く条件的用法に役割の重きがある。このような特徴が各々の形態的独立性の獲得に関与している可能性があるが、これについても「バ」「テハ」「ト」の研究を踏まえた考察が不可欠である。

[3] 否定条件形式の「連体修飾用法」の再検討

第 4 節で「ナケレバ」「ナキャ」の用法の広がりという点において、主節を

伴わず従属節単独で現れ、「ノ」を介して名詞を修飾する「連体修飾用法」があることを指摘した。例文を再引用する。

- (27) 「(中略) もちろん、これ以上私を引き止めておく理由があなたに
なければの話ですけど」 (『わが愛しのワトスン』 1992)

「ナケレバ (ナキヤ)」は、従属節として主節を連用修飾するのが本来の用法である。しかし、上記のように「ノ」を介して名詞を連体修飾する用法も確認された。また、その場合は「ナケレバの話」という句に限られていることを確認した。この連体修飾用法は、「ナケレバの」に限らず、「ナクテハの」「ナラの」など他の条件句にも見られるが、従来の研究ではあまり指摘されていない現象である。上の言語事実を踏まえれば、条件句一般において獲得しやすい用法であるのか、それとも非条件的用法を経由した、形態的独立性を要件とする機能拡大なのかについて検討の余地があると考えられる。否定条件形式の連体修飾用法の獲得プロセスを明らかにすることにより、従来の典型的な「文法化」の方向性に逆行する事例としてみなせる可能性についても検討していきたい。

[4] 典型的な慣用表現を構成しない否定条件形式「ナカッタ」「ナイナラ」 との比較: 「タラ」「ナラ」との対立関係を踏まえて

[3] は「タラ」「ナラ」など本研究では対象外だった否定条件形式との連続性を示している。本研究では、典型的な慣用表現を構成する否定条件形式を取り上げ、各形式の構文的特徴や多機能性について検討した。「タラ」「ナラ」は本研究で対象とした「バ」「テハ」「ト」とは異なり、その否定条件形式「ナカッタ」「ナイナラ」が典型的な慣用表現を構成しない。これらと本研究の対象との違いが何によってもたらされているのか、追究する必要がある。その際には、本研究の手法により、条件形一般と、否定条件形式の対立的な用法の分布を把握することが有効であろうと考える。

以上のように、発展的課題は多い。今後、範囲を広げ、現代日本語における否定条件形式全般に対する様相を整理し、「文法化」の観点を導入した否定条件形式の機能語化についての研究をすすめていきたい。

参考文献

- 有田節子（2017）「日本語の条件文分類と認識的条件文の位置づけ」有田節子編『日本語条件文の諸相―地理的変異と歴史的変遷―』pp.3-32、くろしお出版
- 有田節子（2017）『日本語条件文の諸相―地理的変異と歴史的変遷―』くろしお出版
- 青木博史（2005）「複文における名詞節の歴史」日本語学会編『日本語の研究』1-3、pp.47-59、武蔵野書院
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 川戸道昭（2012）「言文一致と明治の翻訳文学―「デアル」文の成立に果たした翻訳文学の役割―」『翻訳と歴史』60、pp.6-35、ナダ出版センター
- グループジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 金水敏（2011）「文法史とは何か」金水敏・高山善行・衣畑智秀・岡崎友子『シリーズ日本語史 3 文法史』pp.1-17、岩波書店
- 郷丸静香（1995）「現代日本語の当為表現―「なければならない」と「べきだ」―」『三重大学日本語学文学』6、pp.29-39、三重大学日本語学文学会
- 国際交流基金日本語国際センター（2001）『教師用日本語教育ハンドブック 4 文法Ⅱ 改訂版』凡人社
- 国立国語研究所（1964）『国立国語研究所報告 25 現代雑誌九十種の用語用字 第三分冊 一分析―』秀英出版
- 国立国語研究所（2001）『日本語教育のための文法用語』財務省印刷局
- 小西円（2008）「実態調査からみた『義務の表現』のバリエーションとその出現傾向」『日本語教育』138、pp.73-82、日本語教育学会
- 小柳智一（2014）「言語変化の傾向と動向」『日本エドワード・サピア協力研究年報』28、pp.17-27、日本エドワード・サピア協会
- 小柳智一（2018）『文法変化の研究』くろしお出版

- 坂井美日（2015）「上方語における準体の歴史的変化」日本語学会編『日本語の研究』11-3、pp.32-50、武蔵野書院
- 澤田治美編（2012）『ひつじ意味論講座2 構文と意味』ひつじ書房
- 渋谷勝己（1988）「江戸語・東京語の当為表現－後部要素イケナイの成立を中心に－」『大阪大学日本学報』7、pp.99-118、大阪大学文学部日本学研究室
- 諸葛玟（2018）「ナケレバ節をとる複文の意味機能と構文的特徴－「バ節」との比較を中心に－」『名古屋大学人文学研究科人文学フォーラム』1、pp.31-43
- 高梨信乃（2010）『評価のモダリティ』くろしお出版
- 高橋太郎他（2005）『日本語の文法』ひつじ書房
- 田中章夫（1967）「江戸語・東京語における当為表現の変遷」『国語と国文学』44-4、pp.102-114
- 田中章夫（2001）『近代日本語の文法と表現』明治書院
- 田中章夫（2002）「否定条件の先行する二重否定形の動向－江戸語資料を中心として－」『国語と国文学』79-11、pp.130-140、東京大学
- 田中寛（2006）「レバ条件文における文脈的機能－論理関係と節末・文末表現に注目して－」『語学教育研究論叢』23、pp.167-190、大東文化大学語学教育研究所
- 田村直子（1997）「必然系と可能系のモダリティ：条件接続表現によるモダリティ形式を例に」『日本語と日本文学』24、pp.32-40、筑波大学国語国文学会
- 田村直子（1999）「ナケレバナラナイの用法と命題要素とのかかわり－ザルフェナイ、ベキダ、ハズダとの置換性を手がかりに－」『日本語教育』101、pp.21-30、日本語教育学会
- 国立国語研究所（執筆 寺村秀夫）（1981）『日本語の文法（下）』（日本語教育教指導参考書5）大蔵省印刷局
- 中右実（1973）『日本語補文構造論』開拓社
- 仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 仁田義雄編（1995）『複文の研究（上）（下）』くろしお出版
- 日本語教育学会編（1982）『日本語教育事典』大修館書店
- 日本語記述文法研究会（2003）『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出版

- 日本語記述文法研究会（2008）『現代日本語文法 6 第 11 部 複文』くろしお出版
- 野林靖彦（1996）「「～ベキダ」「～ナケレバナラナイ」「～ザルヲエナイ」
—3 形式が表わす当為判断の連関—」『東北大学文学部日本語学科論集』6、
pp.69-80、東北大学文学部日本語学科
- 蓮沼昭子・前田直子・有田節子（2001）『条件表現（日本語文法セルフマスター
シリーズ）』くろしお出版
- 藤井聖子（2008）「「～ないと」「～なきゃ」「～なくちゃ」の文法」長谷川寿一・
C.ラマール・伊藤たかね編『こころと言葉—進化と認知科学のアプローチ
から』、pp.129-149、東京大学出版会
- 藤井聖子（2013）「現代日本語における条件構文基盤の談話標識(化)—その形式
と機能に関する類型試案—」『東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学
専攻紀要』20、pp.87-101、東京大学大学院総合文化研究科学言語情報学
専攻
- 前田直子（2009）『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』くろ
しお出版
- 益岡隆志（1991）『モダリティの文法』くろしお出版
- 益岡隆志編（1993）『日本語の条件表現』くろしお出版
- 益岡隆志編（2006）『シリーズ言語対照 6 条件表現の対照』くろしお出版
- 松下大三郎（1930）『改選標準日本文法』中文館書店（勉誠社（1974）復刊）
- 南不二男（1974）『現代日本語の構造』大修館書店
- 三宅知宏（2005）「現代日本語における文法化—内容語と機能語の連続性をめぐ
って—」日本語学会編『日本語の研究』1-3、pp.61-75、武蔵野書院
- 宮地朝子（2005）「形式名詞に関わる文法史的展開—連体と連用の境界として」
『國文學解釈と教材の研究』50-5、pp.118-129、學燈社
- 宮部真由美（2014）「望ましくないものをさしだすシナイト節の従属複文—従属
節が「仮定条件」を表わす従属複文の分析」日本語文法学会編『日本語文
法』14-1、pp.3-19、くろしお出版
- 村木新次郎（2002）「第三形容詞とその形態論」佐藤喜代治（編）『国語論究第
10 集 現代日本語の文法研究』pp.211-237、明治書院

- 森田良行（1980）『基礎日本語 2』角川書店
- 森田良行（1988）『日本語の類意表現』創拓社
- 森田良行（2002）『日本語文法の発想』ひつじ書房
- 森山卓郎（1988）『日本語動詞述語文の研究』明治書店
- 森山卓郎（1997）「日本語における事態選択形式—「義務」「必要」「許可」などのムード形式の意味構造—」『国語学』188、pp.12-25、国語学会
- 森山卓郎他（2000）『日本語の文法 3 モダリティ』岩波書店
- 矢島正浩（2008）「近世中期以降上方語・関西語における「評価的複合形式」の推移」東京大学国語国文学会編『国語と国文学』85-2、pp.55-69、至文堂
- 「国語と国文学」編集部
- 矢島正浩（2013）『上方・大阪語における条件表現の史的展開』笠間書院
- 柳父章（2004）『近代日本語の思想—翻訳文体成立事情』岩波新書.
- 山口堯二（1996）『日本語接続法史論』和泉書院
- 山本正秀（1965）『近代文体発生の史的研究』岩波書店.
- 山本正秀（1971）『言文一致の歴史論考』桜楓社.
- Briton, L. J. and E. C. Traugott（2005）*Lexicalization and Language Change*. Cambridge:CambridgeUniversity Press.（日野資成訳（2009）『語彙化と言語変化』九州大学出版社）

データベース検索ツール

新編日本古典文学全集（小学館）「ジャパンナレッジ Lib」

<https://japanknowledge.com/lib/search/koten/index.html>

第 3 章 「デアル」：2018 年 5 月 15 日

国立国語研究所「コーパスアプリケーション『中納言』」

「日本語歴史コーパス」

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/chj/search>

第 3 章 「デアル」「デアレバ」：2018 年 2 月 19 日

「現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）」

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>

第 1 章 「バ」「ナケレバ」：2017 年 7 月 20 日

第 2 章 「デナケレバ」：2017 年 7 月 17 日

第 3 章 「デアレバ」：2018 年 2 月 1 日

第 4 章 「ナケレバ」「ナキヤ」：2018 年 5 月 7 日

第 5 章 「ナクテハ（ナクチャ）」「ナイト」：2018 年 7 月 21 日

初出一覧

序論

書き下ろし

本論

第1章 「ナケレバ節をとる複文の意味機能と構文的特徴―「バ節」との比較を中心に―」『名古屋大学人文学フォーラム』1、名古屋大学人文学研究科、pp. 31-43、2018

第2章 「否定条件文における「でなければ」の多様性」『名古屋言語研究』12、名古屋大学言語研究会、pp. 69-82、2018

第3章 「上接語から見る「であれば」の多機能性―「である」との関連性を中心に」『日本語文学』86、日本語文学会、2019年11月掲載予定

第4章 「現代日本語における「ナキャ」の多機能性について―「バ節」との比較を中心に―」『日本語／日本語教育研究』10、日本語／日本語教育研究会、2019年9月掲載予定

第5章 「否定条件形式「ナケレバ」「ナクテハ」「ナイト」―その縮約形との比較を中心に―」
書き下ろし

結論

書き下ろし